

平成 23 年度

SYLLABUS

(授業ガイド)



Oita University of Nursing and Health Sciences

大分県立看護科学大学

目次

I	平成 23 年度カレンダー・学年暦	p 1	
II	カリキュラム			
1	教育理念	p 3	
2	カリキュラムの概要	p 3	
3	授業科目一覧			
1)	開講科目一覧（平成 23 年度入学生）	p 6	
2)	開講科目一覧（平成 21・22 年度入学生，平成 23 年度編入生）	...	p 8	
3)	開講科目一覧（平成 20 年度以前入学生，平成 22 年度編入生）	...	p10	
4	時間割	p12	
III	授業科目の履修			
1	履修要領	p20	
1)	学年・学期			
2)	休業日			
3)	授業時間			
4)	授業科目の区分			
5)	授業の形態と単位の算定基準			
6)	単位互換制度			
2	履修登録	p21	
1)	履修登録手続き			
2)	履修登録の流れ			
3)	履修登録上の注意事項			
4)	助産学選択科目の履修			
3	卒業要件、進級判定・進級試験	p23	
1)	卒業要件			
2)	進級判定			
3)	進級試験			
4	学修の評価	p24	
1)	欠席と遅刻			
2)	学修の評価（試験）			
3)	再試験の手続き			
4)	成績評価			
5)	再履修・再受験科目			
6)	既修得単位の認定			
5	履修規程等	p26	
IV	授業科目の紹介			
1	講義・演習等			
1)	1 年次開講科目	前期開講	p29
2)		後期開講	p46
3)	2 年次開講科目	前期開講	p62
4)		後期開講	p83
5)	3 年次開講科目	前期開講	p98
6)		後期開講	p113
7)	4 年次開講科目	前期開講	p121
8)		後期開講	p130
2	健康科学実験	p133	
3	看護学実習	p135	
V	教員一覧	p140	

I 平成 23 年度カレンダー

- ・ 学年暦

平成23年度 CALENDAR

休日及び授業を行わない日

April

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

May

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

June

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

July

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

August

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

September

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

October

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

November

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

December

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

January

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

February

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

March

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

学年暦

前期

後期

4月

- 5 入学式
- 6 全学オリエンテーション
- 7,8 新入生オリエンテーション
- 8 2～4年次生授業開始
- 8,13 健康診断
- 8～22 前期履修登録
- 11 1年次生授業開始
- 22 全学スポーツ交流会

5月

- 9～6/17 地域看護学実習,
老年看護学実習Ⅱ(4年次生)
- 11 キャンパスクリーンデー
- 14,15 若葉祭
- 30～6/3 老年看護学実習Ⅰ(3年次生)

6月

- 6～10 在宅看護学実習Ⅰ(3年次生)
- 13 前期後半授業開始
- 15 学生大会
- 19 開学記念日
- 20～7/1 総合実習(4年次生)
- 20～7/29 助産学実習・前半(4年次生選択)

7月

- 5～12 初期体験実習(1年次生)
- 17 オープンキャンパス
- 21 夏期休業開始

8月

- 22～9/2 助産学実習・後半(4年次生選択)
- 27 編入学, 大学院入学試験

9月

- 5 夏期休業終了
- 5～ 成人, 老年Ⅱ, 小児, 母性, 精神看護学実習(3年次生)
- 30 前期授業終了

10月

- 3 後期授業開始
- 3～14 後期履修登録
- 29 看護国際フォーラム

11月

- 20 特別選抜試験(推薦・社会人)
- ～25 成人, 老年Ⅱ, 小児, 母性, 精神看護学実習(3年次生)

12月

- 1 後期後半授業開始
- 2 卒業研究要旨提出締切(4年次生)
- 9 正午 卒業研究論文提出締切(4年次生)
- 12,13 卒業研究発表会
- 24 冬期休業開始

1月

- 7 冬期休業終了
- 10～24 基礎看護学実習(1年次生)
- 13 大学入試センター試験準備(2,3,4年次生休講)
- 14,15 大学入試センター試験
- 30～ 看護アセスメント学実習(2年次生)

2月

- ～15 看護アセスメント学実習(2年次生)
- 下旬 看護師・保健師および助産師国家試験
- 25 一般選抜試験(前期)および特別選抜試験(私費外国人留学生)(休講)
- 29 後期授業終了
- 29 進級試験(2年次生)

3月

- 1 春期休業開始
- 12 一般選抜試験(後期)
- 16 卒業式

Ⅱ カリキュラム

1 教育理念

看護学は、さまざまな環境で生活している人々を理解し、個人又は集団の健康状態を環境との関係を通して把握し、健康に関する問題に対する援助の方法を追究する理論と実践の科学です。本学では、看護学の追究、看護実践に関する総合的な能力の養成、幅広い人間性の育成に重点をおいて編成された系統的なカリキュラムのもとで、学生のみなさんが看護学を学び、4年間の学習成果を社会に還元できるようにすることを目指しております。

看護学を学ぶ学生のみなさんには、4年間の学習を通して、心豊かな人間性の確立、対象となる人・人間を総合的に理解できる能力、自主的・自立的に判断できる能力、国際的な活躍ができる感性と能力などを身につけることが求められています。学生のみなさんの、これらの能力の育成のために、本学には、「人間科学」、「基礎看護科学」、「専門看護学」、「広域看護学」の4つの大講座の下に17の科目群を配置し、これらの科目群を有機的に連携させ、基礎的な知識・技術、および、専門的な知識・技術を修得するためのカリキュラムを効率的に組み合わせて教育することにより、みなさんの学習効果が上がるように配慮してあります。

例えば、1年次から看護学概論や初期体験実習などの看護の専門科目を取り入れてある一方で、基礎学力を身につけるための人間科学講座の科目群は4年間を通して学習できるようにしてあります。

看護学の追究は、単に4年間の学習で終了するものではありません。とくに、看護学の基盤である人・人間を理解するためには、生涯にわたる研鑽が必要とされます。全学年を通して、時間的にもゆとりがもてるように配慮しています。ゆとりある大学生活を通して、人や社会を理解できるようなさまざまな経験をし、看護学を学ぶことの喜びを味わい、豊かな感性などを養うことを期待しております。

2 カリキュラムの概要

1) 4大講座 17科目群

本学の教育は、人間科学講座、基礎看護科学講座、専門看護学講座、広域看護学講座に属する教員が担当します（教員一覧（p140～）および「学生のページ」の教員プロフィールを参照）。

(1) 講座

講座とは、本学の教育理念・教育目標に沿って構成された講義を担当する教授・准教授・講師・助教・助手などで構成される教育責任分担組織のことです。本学の場合、カリキュラムの構成上大講座制（一つの講座に教授・准教授・講師・助教・助手などが複数いる構成）をとっており、人間科学・基礎看護科学・専門看護学・広域看護学の4つです。

(2) 科目群

科目群とは、それぞれの講座がどの領域の講義をどの教員が分担するのかを決めたもので、本学には17の科目群があります。

人間科学講座 (7科目群)	生体科学 生体反応学 健康運動学 人間関係学 環境保健学 健康情報科学 言語学	基礎看護科学講座 (2科目群)	基礎看護学 看護アセスメント学
		専門看護学講座 (5科目群)	成人・老年看護学 小児看護学 母性看護学 助産学 精神看護学
		広域看護学講座 (3科目群)	保健管理学 地域看護学 国際看護学

2) カリキュラムの特徴

本学の教育理念に基づいて、4年間にわたって多くの授業（実習や演習を含む）科目を順序性

をもって配置しています。また、カリキュラムは国家試験受験資格を満たすように作られていますが、看護を取り巻く環境の変化により対応できるように、また保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改定に対応するために、平成 21 年度入学の 1 年次生よりカリキュラムの改正を行いました。また本学では全国に先駆けていち早く 4 年間の看護師教育と保健師・助産師教育の大学院化を導入することと致しました。そのため平成 23 年度入学生より適用される看護師教育のみの基礎力と看護実践力を高めた充実した平成 23 年度改正カリキュラムを作成いたしました。

(1)開講科目一覧の読み方

開講科目一覧 (p6~11) は、本学の 4 年間のカリキュラムを、横軸に学年進行、縦軸に担当する講座・科目群を配置し、それぞれの科目がいつ開講されるのか、選択・必修の別、単位数などが分かるように図示してあります。それぞれの科目の授業内容は、学年別開講学期別に綴じている授業科目の紹介 (掲載頁欄を参照) をご参照ください。

カリキュラムが在学中に改正されても、「入学した年度」のカリキュラムが卒業まで適用されます。なお、編入生には、編入した学年のカリキュラムが適用されます。

実際の開講科目は、カリキュラム改正から実際の学年進行に従って変更されることとなります。そのため、留年や休学などにより、履修すべきカリキュラムと実際に開講されているカリキュラムが異なる場合が生じることがあります。その場合には、異なるカリキュラム間で対応する科目を履修することになりますので、必ず事前に教務学生グループに問い合わせしてから、履修計画を立ててください。

(2)平成 21 年度改正カリキュラムについて

このカリキュラムの考え方も基本的にはこれまでのカリキュラムと同じですが、看護を取り巻く環境の変化に伴って、より重要性が増していると考えられる教育内容の充実をはかるために改正を行いました。

改正の主要な点として以下の点があります。看護の専門基礎分野 (主に生体科学、生体反応学科目群の講義) の科目の構成が整理され、内容もさらに充実しました。第 2 段階の実習である基礎看護学実習を 2 年次から 1 年次末と早めました。助産学実習をはじめ、実習の一部の単位数や時間が増加しています。

また、学生の負担を軽減するために、はじめて卒業要件の単位数を 133 単位から 130 単位に減らす (助産学履修者を除く) とともに、科目の学年配置の一部を見直して、4 年間の学習の負担をできるだけ均等にするように計画しています。

(3)平成 23 年度改正カリキュラムについて

看護師教育のみとなった平成 23 年度改正新カリキュラムの授業科目一覧を p6,7 に示してあります。

この新カリキュラムの特徴としては、1~2 年次で行なう解剖・生理・病理・薬理・微生物といった基礎系科目を充実・レベルアップし、4 年次では応用生体機能反応論 (必修) を取り入れて臨床現場で役立つ解剖生理、臨床病理、臨床薬理等を強化しました。また、保健に関連した実践ボランティア活動を導入 (保健ボランティア) ・単位化しました。看護専門領域では実習の強化と共に看護を総合的に考える演習を取り入れました。例えば、これまでの 5 段階実習を 6 段階実習とし、最終段階の総合看護学実習は 2 週間から 3 週間の実習に延長し、自律的な実習ができるようにしました。また専門領域実習直後に、知識と理論を統合させ看護観を深める看護探究セミナーを設ける等、たくさんの工夫をしています。この看護教育のための新カリキュラムの卒業要件は必修 128 単位、選択 6 単位、合計 134 単位を修得することとしています。

3)卒業要件、国家試験受験資格

本学において、卒業に必要な単位数については、学則・履修規程で定めています。ここに示す単位数は、本学を卒業するために必要な単位数の最低要件を示したものです。卒業に必要な要件を満たすとカリキュラムに応じた国家試験受験資格が与えられます。

(1)平成 23 年度入学生（平成 23 年度改正カリキュラム）

区分	必修	選択	合計
人間科学科目	44 単位	6 単位以上	50 単位以上
基礎看護科学科目	17 単位		17 単位
専門看護科学科目	35 単位		35 単位
広域看護科学科目	10 単位		10 単位
統合科目	22 単位		22 単位
合計	128 単位	6 単位以上	134 単位以上

※卒業要件を満たすと、看護師国家試験受験資格が与えられます。

(2)平成 21,22 年度入学生、平成 23 年度 3 年次編入生（平成 21 年度改正カリキュラム）

区分	必修	選択	合計
人間科学科目	38 単位	8 単位以上	46 単位以上
基礎看護科学科目	16 単位		16 単位
専門看護科学科目	34 単位		34 単位
広域看護科学科目	16 単位		16 単位
統合科目	18 単位		18 単位
合計	122 単位	8 単位以上	130 単位以上

※選択 8 単位は、p8 の授業科目一覧の備考欄に示す条件を満たす必要があります。

※卒業要件を満たすと、看護師・保健師国家試験受験資格が与えられます。

※助産学選択科目の単位をすべて修得すると、助産師国家試験受験資格が与えられます。助産を選択した学生は、助産選択の 15 単位を合わせ、145 単位以上修得する必要があります。ただし、助産学実習は平成 25 年度までしか開講されません。

(3)平成 20 年度以前入学生、平成 22 年度 3 年次編入生

区分	必修	選択	合計
人間科学科目	40 単位	11 単位以上	51 単位以上
基礎看護科学科目	18 単位		18 単位
専門看護科学科目	32 単位		32 単位
広域看護科学科目	21 単位		21 単位
共通科目	11 単位		11 単位
合計	122 単位	11 単位以上	133 単位以上

※選択 11 単位は、p10 の授業科目一覧の備考欄に示す条件を満たす必要があります。

※卒業要件を満たすと、看護師・保健師国家試験受験資格が与えられます。

※助産学選択科目の単位をすべて修得すると、助産師国家試験受験資格が与えられます。助産を選択した学生は、助産選択の 12 単位を合わせ、145 単位以上修得する必要があります。ただし、助産学実習は平成 25 年度までしか開講されません。

重要：平成 22 年度以前入学生（平成 23 年度編入生を含む）の養護教諭 2 種免許取得に関して

平成 23 年度卒業生より、保健師免許によって申請できる養護教諭 2 種免許に、英語、体育、情報、日本国憲法を各 2 単位合計 8 単位の履修履歴を教育委員会に提出することが必要になりました。本学では日本国憲法を従来開講していなかったため、本学学生への資格取得に便宜を図るために、平成 22 年度以前の入学生、平成 23 年度編入生を対象に、今年度に限り夏期集中・後期で日本国憲法 2 単位を開講します（この単位は卒業要件には含めません）。養護教諭 2 種免許の申請を希望する者は履修してください。平成 24 年度以降は、後期のみの開講予定としています。

3 授業科目一覧

平成21年度および平成23年度にカリキュラムが改正されています。
履修するカリキュラムは入学年度で決まっています。

- ・平成20年度までの入学者（平成22年度3年次編入生を含む）は、p10,11を
- ・平成21,22年度の入学者（平成23年度3年次編入生を含む）は、p8,9を
- ・平成23年度入学者はこの見開きの一覧を利用してください。

1)開講科目一覧（平成23年度改正カリキュラム:平成23年度入学生）

科目・単位・年次配置等					1年次		2年次		3年次		4年次		掲載 頁	備考			
区分	担当科目群	科目名称	形態	授業回数		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期		
				必修	選択	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半			後半		
人間科学科目	こころの理解	人のこころの仕組み	講義	1	15									29	◎印の選択科目は、 合計6単位以上修得すること		
		コミュニケーション論	講義	1	15											30	
		人間関係学	講義	1	15											46	
		カウンセリング論	講義	1	15											47	
		行動療法と発達心理	講義	1	15												
		◎音楽とこころ	講義	2	15												
		◎美術とこころ	講義	2	15												
	社会生活の理解	言語学	英語Ⅰ-A1	講義	1	15											31
			英語Ⅰ-A2	講義	1	15											48
			英語Ⅱ-A1	講義	1	15											
			英語Ⅱ-A2	講義	1	15											
			英語Ⅰ-B1	講義	1	15											32
			英語Ⅰ-B2	講義	1	15											49
			英語Ⅱ-B1	講義	1	15											
			英語Ⅱ-B2	講義	1	15											
		英語Ⅲ	講義	1	15												
			◎言語表現法	講義	1	8											33
			◎韓国語	講義	2	15											34
		人文社会科目	◎哲学入門	講義	1	8											35
			◎社会学入門	講義	1	8											50
	◎経済学入門		講義	1	8												
	◎法学入門（日本国憲法）		講義	2	15											51	
	◎文化人類学入門		講義	1	8											52	
	◎医療福祉と人権		講義	1	8												
	◎保健ボランティア		演習	1	8												
	◎「自由科目」 年度当初に、他大学等の開講科目で本学が指定した科目は自由科目として2科目2単位以内で、人文社会科目領域の選択科目として本学の卒業要件に含めることができます。																
	環境と情報の理解	環境保健学	環境保健学概論	講義	1	15											36
			環境保健学詳論	講義	1	15											
			放射線健康科学	講義	1	15											
環境疫学・生物学演習			演習	2	22												
健康情報科学		健康情報学	講義	1	15										37		
		生物統計学	講義	1	15										53		
		健康情報処理演習	演習	2	22										38		
からだの理解		生体科学	生体構造論	講義	2	22										39	
			生体機能論	講義	2	22										40	
			生体代謝論	講義	2	22										54	
			応用生体機能反応論	講義	1	15											
		生体反応学	生体反応学概論	講義	1	15										55	
			生体反応学各論	講義	1	15										56	
			微生物免疫論	講義	1	15										57	
			生体薬物反応論	講義	2	22											
		健康運動学	身体運動科学	講義	1	15											
			健康運動学	講義	1	15											
健康運動	実技		1	15										58			
健康運動ボランティア演習	演習		1	8										41			
小計	自然科学の基礎	講義	2	30										42			
	健康科学実験	実験	2	27													
	総合人間学	講義	1	8													
小計				44	15	595	116										

※2年次以降の開講時期は予定です。

科目・単位・年次配置等					1年次		2年次		3年次		4年次		掲載頁	備考		
授業科目			形態	単位		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
区分	担当科目群	科目名称		必修	選択								必修	選択		
基礎看護科学科目	基礎看護学	看護学概論	講義	1	15									43		
		看護理論入門	講義	1	15										59	
		生活援助論	講義	2	30										44	
		医療技術論	講義	2	30											
		基礎看護学実習	実習	2	40										135	
	看護アセスメント学	看護疾病病態論Ⅰ	講義	2	30										60	
		看護疾病病態論Ⅱ	講義	2	30											
		ヘルスアセスメント	講義	1	15											
		看護アセスメント概論	講義	1	15											
		看護アセスメント演習	演習	1	15											
	看護アセスメント学実習	実習	2	40												
小計				17	275											
専門看護学科目	成人・老年看護学	成人看護学概論	講義	1	15										61	
		老年看護学概論	講義	1	15											
		成人看護援助論	講義	2	30											
		老年看護援助論	講義	2	30											
		成人・老年看護学演習	演習	2	22											
		成人看護学急性期実習	実習	3	60											
		成人・老年看護学慢性期実習	実習	4	80											
	小児看護学	小児看護学概論	講義	1	15											
		小児看護援助論	講義	2	30											
		小児看護学演習	演習	2	22											
		小児看護学実習	実習	2	40											
	母性看護学	母性看護学概論	講義	1	15											
		母性看護援助論	講義	2	30											
		母性看護学演習	演習	1	15											
		母性看護学実習	実習	2	40											
	精神看護学	精神看護学概論	講義	1	15											
		精神看護援助論	講義	2	30											
精神看護学演習		演習	1	15												
精神看護学実習		実習	2	40												
統合				1	20											
小計				35	559											
広域看護学科目	保健管理学	健康論	講義	1	15										45	
		保健福祉システム論	講義	1	15											
		健康支援論	講義	1	15											
		初期体験実習	実習	1	20										135	
	地域看護学	地域看護学概論	講義	1	15											
		家族看護学概論	講義	1	8											
		地域看護学実習	実習	1	20											
	国際看護学	国際看護学概論	講義	1	8											
		国際看護比較論	講義	1	8											
		国際看護学演習	演習	1	8											
小計				10	132											
統合科目	看護管理学概論	講義	1	15												
	看護の倫理	講義	1	8												
	看護と遺伝	講義	1	8												
	災害看護論	講義	1	15												
	第1段階看護技術演習(2年次生)	演習	1	15												
	第2段階看護技術演習(3年次生)	演習	1	15												
	第3段階看護技術演習(4年次生)	演習	1	15												
	在宅看護論	講義	2	22												
	ケースマネジメント実習	実習	3	60												
	総合看護学実習	実習	3	60												
	看護スキルアップ演習	演習	1	15												
	看護科学研究	講義	1	15												
卒業研究	演習	5	100													
小計				22	363											
合計				128	151924	116										

※2年次以降の開講時期は予定です。

2)開講科目一覽 (平成21年度改正カリキュラム:平成21,22年度入学生、平成23年度3年次編入生)

科目・単位・年次配置等				1年次		2年次		3年次		4年次		掲載 頁	備考				
区 分	担 当 科 目 群	科 目 名 称	形 態	授 業 回 数		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			前 期	後 期		
				必 修	選 択	前 半	後 半	前 半	後 半	前 半	後 半	前 半	後 半	前 半	後 半		
人間 科学 科目	こころの 理解	人間の仕組	講義	1	15												
		コミュニケーション論	講義	1	15												
		人間関係学	講義	1	15												
		カウンセリング論	講義	1	15												
		◇行動療法論	講義		1	8										62	
		◇人間関係学演習	演習		1	8										63	
		◇発達心理学	講義		1	8										83	
		◇音楽とこころ	講義		2	15										64	
	◇美術とこころ	講義		2	15										65		
	社会生活の 理解	言語学	英語Ⅰ-A1	講義	1	15											
			英語Ⅰ-A2	講義	1	15											
			英語Ⅱ-A1	講義	1	15										66	
			英語Ⅱ-A2	講義	1	15										84	
			英語Ⅰ-B1	講義	1	15											
			英語Ⅰ-B2	講義	1	15											
			英語Ⅱ-B1	講義	1	15										67	
			英語Ⅱ-B2	講義	1	15										85	
		英語Ⅲ	講義	1	15										113		
		◎言語表現法	講義		1	8											
		◎韓国語	講義		2	15											
		人文社会科目	◎哲学入門	講義		1	8										
			◎社会学入門	講義		1	8										
	◎経済学入門		講義		1	8											
	◎法学入門		講義		1	8											
	◎文化人類学入門		講義		1	8											
	◎保健医療ボランティア論		講義		1	8										68	
	■日本国憲法 ¹⁾	講義		1	15										69		
	◎「自由科目」 年度当初に、他大学等の開講科目で本学が指定した科目は自由科目として2科目2単位以内で、人文社会科目領域の選択科目として本学の卒業要件に含めることができます。																
	環境と 情報 の 理 解	環境保健学	環境保健学概論	講義	1	15											
			環境保健学詳論	講義	1	15										70	
			放射線健康科学	講義	1	15										86	
			☆環境保健学演習	演習		1	8									87	
			☆環境リスク論	講義		1	8									114	
			☆環境倫理学	講義		1	8										
		健康情報科学	健康情報学	講義	1	15											
			生物統計学	講義	1	15											
			健康情報処理演習	演習		2	22										
			☆応用情報処理学	講義		1	8									115	
			☆実務情報処理学	講義		1	8										
		からだ の 理 解	生体科学	生体構造論	講義	2	22										
				生体機能論	講義	2	22										
生体代謝論				講義	2	22											
※生体科学特論				講義		1	8										
生体反応学			生体反応学概論	講義	1	15											
			生体反応学各論	講義	1	15											
	微生物免疫論		講義	1	15												
	生体薬物反応論		講義	2	22										71		
	※病態特論		講義		1	8											
健康運動学	身体運動科学		実技	1	15												
	健康運動	実技	1	15													
	健康運動論	講義	1	15										72			
	※健康運動学演習	演習		1	8									88			
	※運動療法特論	講義		1	8									116			
	※運動指導特論	講義		1	8												
小 計	自然科学の基礎	講義	2	22													
	健康科学実験	実験	1	27										133			
	総合人間学	講義	1	8													
				38	27	527	220										

人間科学科目の選択科目は下記の条件を満たして8単位以上修得する必要があります

「※、◇、◎、☆」の群から、それぞれ2科目2単位以上を含むこと。

※「日本国憲法¹⁾」は平成23年度のみ開講で、卒業要件の単位に含まれません。養護教諭2種免許の取得を希望する場合は、別途「日本国憲法」(p69)を履修してください。
 ※1年次の科目を履修する必要がある学生は、教務学生グループで問い合わせてください。
 ※4年次の開講時期は予定です。

科目・単位・年次配置等				1年次		2年次		3年次		4年次		掲載 頁	備 考	
授 業 科 目			単位	授業回数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
区 分	担当科目群	科 目 名 称	形態	必修	選択	前半	後半	前半	後半	前半	後半			前半
基礎看護科学科目	基礎看護学	看護学概論	講義	1	15									
		看護理論入門	講義	1	15									
		生活援助論（生活過程）	講義	1	15									
		生活援助論（生命維持）	講義	1	15									
		医療技術論	講義	1	15									73
	基礎看護学実習	実習	2	40										
	看護アセスメント学	看護疾病病態論Ⅰ	講義	2	30									
		看護疾病病態論Ⅱ	講義	2	30									74
		ヘルスアセスメント	講義	1	15									75
		看護アセスメント概論	講義	1	15									89
看護アセスメント演習		演習	1	15									90	
看護アセスメント学実習	実習	2	40									135		
小 計				16	260									
専門看護学科目	成人・老年看護学	成人看護学概論	講義	1	15								76	
		老年看護学概論	講義	1	15								77	
		成人看護援助論	講義	2	30								78	
		老年看護援助論	講義	2	30								91	
		成人・老年看護学演習	演習	1	15								98	
		成人看護学実習	実習	4	80								135	
		老年看護学実習Ⅰ	実習	1	20								135	
	老年看護学実習Ⅱ	実習	3	60										
	小児看護学	小児看護学概論	講義	1	15									79
		発達と援助論	講義	2	30									99
		小児看護学演習	演習	1	15									100
		小児看護学実習	実習	2	40									135
	母性看護学	母性看護学概論	講義	1	15									80
		母性生理・病態論	講義	2	22									81
		母性看護援助論Ⅰ	講義	1	15									92
		母性看護援助論Ⅱ	講義	1	15									101
		母性看護学演習	演習	1	15									102
		母性看護学実習	実習	2	40									135
	助産学	★助産学概論	講義		1	15								103
		★助産診断・技術学Ⅰ	講義		1	26								104
		★助産診断・技術学Ⅱ	講義		1	26								105
		★助産診断・技術学Ⅲ	講義		1	22								106
		★助産診断・技術学Ⅳ	講義		1	15								
★地域助産活動論		講義		1	15									
★助産学実習※		実習		9	180									
精神看護学	精神看護学概論	講義	1	15									93	
	精神看護援助論	講義	1	15									107	
	精神看護学演習	演習	1	15									108	
	精神看護学実習	実習	2	40									135	
小 計				34	15	572	299							
広域看護学科目	保健管理学	健康論	講義	1	15									
		保健福祉システム論	講義	1	15									94
		保健管理学演習	演習	1	15									117
		初期体験実習	実習	1	20									
	地域看護学	地域看護学概論	講義	1	15									95
		家族看護学概論	講義	1	15									109
		地域生活支援論	講義	2	30									118
		地域看護学演習	演習	1	15									
		地域看護学実習	実習	4	80									
	国際看護学	国際看護学概論	講義	1	8									96
国際看護比較論		講義	1	8									119	
国際看護学演習		演習	1	8									120	
小 計				16	244									
統合科目	看護管理学入門	講義	1	8										
	看護の倫理	講義	1	8									97	
	看護と遺伝	講義	1	8									82	
	保健活動論	講義	2	30									110	
	基礎看護技術演習	演習	1	15									111	
	総合看護学演習	演習	1	15										
	総合看護技術演習	演習	1	15										
	在宅看護論	講義	1	15									112	
	在宅看護学実習Ⅰ	実習	1	20									135	
	在宅看護学実習Ⅱ	実習	1	20										
	総合看護学実習	実習	2	40										
看護研究・卒業研究	演習	5	100											
小 計				18	294									
合 計				122	42	1897	519							

※助産学実習は、履修できる人数に制限があります。p23を参照してください。

※1年次の科目を履修する必要がある学生は、教務学生グループで問い合わせてください。
 ※4年次の開講時期は予定です。

3)開講科目一覧（平成20年度以前入学生、平成22年度3年次編入生）

科目・単位・年次配置等				1年次		2年次		3年次		4年次		掲載 頁	備考		
区分	授業科目群	科目名称	形態	単位		前期	後期	前期	後期	前期	後期			前期	後期
				必修	選択	必修	選択	前半	後半	前半	後半			前半	後半
人間 と 身 体	生体科学	生体構造機能論	講義	2	35									人間科学科目の選択科目は、以下の条件を満たすように選択履修してください。	
		生体代謝論	講義	1	15										
		生体科学演習	演習	1	15										
		※生体科学特論	講義		1	8						■			121
		※生体構造機能特論	講義		1	8									
	生体反応学	生体反応論	講義	1	15										
		生体微生物反応論	講義	1	8										
		生体薬物反応論	講義	1	22										
		感染免疫学	講義	1	8										
		生体反応学演習	演習	1	15										
	健康運動学	※病態特論	講義		1	8						■			122
		身体運動科学	実技	1	15										
		健康運動	実技	1	15										
		健康運動論	講義	1	15										
		※健康運動学演習	演習		1	8									
※運動療法特論		講義		1	8										
人間 と こ こ ろ	人間関係学	※運動指導特論	講義		1	8						■		123	
		人のこころの仕組み	講義	1	15										
		コミュニケーション論	講義	1	15										
		人間関係学	講義	1	15										
		人間関係学演習	演習	1	8										
	人文社会科目	◇行動療法論	講義		1	8									
		◇カウンセリング論	講義		2	15									
		◇心理アセスメント論	講義		1	8									
		◎音楽とこころ	講義		2	15									
		◎美術とこころ	講義		2	15									
人 文 社 会 科 目	◎哲学入門	講義		1	8										
	人間と社会	講義	1	15											
	◎経済学入門	講義		1	15										
	◎法学入門	講義		1	8										
	◎大分の歴史と文化	講義		2	15										
	◎文化人類学入門	講義		2	15										
	◎保健医療ボランティア論	講義		1	8										
	環 境 保 健 学	自然科学の基礎	講義	2	16										
		環境保健学概論	講義	1	15										
		MEの原理と安全管理	講義	1	8										
生活環境論		講義	1	8											
放射線健康科学		講義	1	15											
環境保健学演習		演習	1	8											
◇環境リスク論		講義		1	8										
環 境 保 健 学	◇環境倫理学	講義		1	8							■		124	
	健康情報学	講義	1	15											
	生物統計学	講義	1	15											
	健康情報処理演習	演習	2	22											
	◇応用情報処理学	講義		1	8										
環 境 保 健 学	◇実務情報処理学	講義		1	8							■		125	
	英語Ⅰ-A 1	講義	1	15											
	英語Ⅰ-A 2	講義	1	15											
	英語Ⅱ-A 1	講義	1	15											
言 語 学	英語Ⅱ-A 2	講義	1	15											
	英語Ⅰ-B 1	講義	1	15											
	英語Ⅰ-B 2	講義	1	15											
	英語Ⅱ-B 1	講義	1	15											
	英語Ⅱ-B 2	講義	1	15											
	英語Ⅲ	講義	1	15											
	◇言語表現法	講義		1	8										
	◇韓国語	講義		2	15										
言 語 学	◇スペイン語	講義		2	15										
	健康科学実験	実験	1	27											
小 計	総合人間学	講義	2	15								■		130	
			40	31	545	248									

※養護教諭2種免許の取得を希望する場合は、別途「日本国憲法」(p69)を履修してください。
※1～3年次の科目を履修する必要がある学生は、教務学生グループで問い合わせてください。

科目・単位・年次配置等				1年次		2年次		3年次		4年次		掲載頁	備考			
授業科目			形態	単位		前期	後期	前期	後期	前期	後期			前期	後期	
区分	担当科目群	科目名称		必修	選択											必修
基礎看護科学科目	基礎看護学	看護学概論	講義	1	22											
		看護管理学入門	講義	1	8											
		生活援助論(生活過程)	講義	1	16											
		生活援助論(生命維持)	講義	1	16											
		生活援助論(診断治療)	講義	1	16											
		臨床看護総論	講義	1	15											
		基礎看護学演習	演習	1	16											
		基礎看護学実習	実習	2	40											
	看護アセスメント学	看護と遺伝	講義	1	8											
		看護アセスメント方法論	講義	2	24											
		看護疾病病態論Ⅰ	講義	2	30											
看護疾病病態論Ⅱ		講義	2	30												
	看護アセスメント学実習	実習	2	40												
小計				18	281											
専門看護学	成人・老年看護学	成人看護学概論	講義	1	8											
		老年看護学概論	講義	1	8											
		成人・老年看護援助論Ⅰ	講義	2	30											
		成人・老年看護援助論Ⅱ	講義	2	30											
		成人・老年看護学演習	演習	1	15											
		成人看護学実習	実習	4	80											
		老年看護学実習Ⅰ	実習	2	40											
		老年看護学実習Ⅱ	実習	1	20											
	小児看護学	小児看護学概論	講義	1	8											
		発達と援助論	講義	2	22											
		小児看護援助論	講義	1	15											
		小児看護学実習	実習	2	40											
	母性看護学	母性看護学概論	講義	1	15											
		母性病態論	講義	1	15											
母性看護援助論Ⅰ		講義	1	8												
母性看護援助論Ⅱ		講義	1	14												
臨床母性看護総論		講義	1	8												
母性看護学実習		実習	2	40												
助産学	★助産学概論	講義	1	15												
	★助産診断・技術学Ⅰ	講義	1	26												
	★助産診断・技術学Ⅱ	講義	1	26												
	★助産診断・技術学Ⅲ	講義	1	22												
	★助産診断・技術学Ⅳ	講義	1	16												
	★地域助産活動論	講義	1	15												
	★助産学実習*	実習	6	120												
精神看護学	精神看護学概論	講義	1	15												
	精神看護援助論	講義	1	15												
	精神看護学演習	演習	1	8												
	精神看護学実習	実習	2	40												
小計				32	12	494	240									
広域看護学	保健管理学	健康論	講義	1	15											
		保健福祉システム論	講義	2	22											
		保健活動論	講義	2	22											
		保健管理学演習	演習	1	15											
		初期体験実習	実習	1	20											
	地域看護学	看護の倫理	講義	1	8											
		地域看護学概論	講義	1	8											
		地域生活援助論Ⅰ	講義	2	30											
		地域生活援助論Ⅱ	講義	1	15											
		在宅看護論	講義	1	15											
		家族看護学概論	講義	1	8											
	国際看護学	地域看護学実習	実習	4	80											
		国際看護学概論	講義	1	8											
小計	国際看護比較論	講義	1	8												
	国際看護学演習	演習	1	8												
	小計		21	282												
共通科目	看護研究の基礎	看護研究の基礎(Ⅰ)	講義	1	10											
		原書講読	講義	1	8											
		総合看護学	講義	2	15											
		総合実習	実習	2	40											
		卒業研究	演習	5	100											
小計				11	173											
合計				122	43	1775	488									

※助産学実習は、履修できる人数に制限があります。p23を参照してください。

※1～3年次の科目を履修する必要がある学生は、教務学生グループで問い合わせてください。

4 時間割

1年次・前期時間割

前期前半

【4月11日(月)～6月10日(金)】

時限	曜日	月	火	水	木	金	
1 9:00～10:30	1年	科目	看護学概論	健康論	◎言語表現法	①健康情報処理演習 ②英語 I-A1	◎韓国語
		担当	伊東・志賀(基礎看護)	桜井・平野・井ノ口(保健管理)	日高(非常勤)	品川・坂口・佐伯(健康情報) 宮内(言語)	劉(非常勤)
		教室	23講義室	23講義室	23講義室	情報処理教室 31講義室	23講義室
2 10:40～12:10	1年	科目	コミュニケーション論	健康論	生態構造論	環境保健学概論	自然科学の基礎
		担当	関根(人間関係)	桜井・平野・井ノ口(保健管理)	下田(生体科学)	甲斐・小嶋・小野*(環境)	甲斐(環境)他
		教室	23講義室	23講義室	23講義室	23講義室	23講義室
3 13:00～14:30	1年	科目	自然科学の基礎	①英語 I-A1 ②英語 I-B1		生体機能論	人のこころの仕組み
		担当	甲斐(環境)他	宮内(言語)	Shirley・田原(言語)	下田・岩崎(生体科学)	吉村(人間関係)
		教室	23講義室	31講義室	32講義室	31講義室	23講義室
4 14:40～16:10	1年	科目	生態構造論	①英語 I-B1 ②健康情報処理演習		健康情報学	健康運動ボランティア演習
		担当	下田	Shirley・田原(言語)	品川・坂口・佐伯(健康情報)	佐伯(健康情報)	稲垣(健康運動)・大賀(精神)
		教室	23講義室	32講義室	情報処理教室	31講義室	23講義室
5 16:20～17:50	1年	科目					
		担当					
		教室					

前期後半

【6月13日(月)～9月30日(金)】

時限	曜日	月	火	水	木	金		
1 9:00～10:30	1年	科目	看護学概論	①健康情報処理演習 ②英語 I-B1	①生活援助論 ②人のこころの仕組み	◎哲学入門	◎韓国語	
		担当	伊東・志賀(基礎看護)	品川・坂口・佐伯(健康情報) Shirley・田原(言語)	伊東・他(基礎看護) 吉村(人間関係)	西(非常勤)	劉(非常勤)	
		教室	23講義室	情報処理教室 32講義室	実習室 32講義室	23講義室	23講義室	
2 10:40～12:10	1年	科目	生態構造論	①英語 I-B1 ②健康情報処理演習	①生活援助論 ②英語 I-A1	コミュニケーション論	自然科学の基礎	
		担当	下田(生体科学)	Shirley・田原(言語)	品川・坂口・佐伯(健康情報) 伊東・他(基礎看護)	宮内(言語)	関根(人間関係)	甲斐(環境)他
		教室	23講義室	32講義室 情報処理教室	実習室 31講義室	23講義室	23講義室	
3 13:00～14:30	1年	科目	生体機能論	生体機能論		①人のこころの仕組み ②生活援助論	環境保健学概論	
		担当	下田・岩崎(生体科学)	下田・岩崎(生体科学)		吉村(人間関係) 伊東・他(基礎看護)	甲斐・小嶋・小野*(環境)	
		教室	23講義室	23講義室		32講義室 実習室	23講義室	
4 14:40～16:10	1年	科目	自然科学の基礎	健康運動ボランティア演習		①英語 I-A1 ②生活援助論	健康情報学	
		担当	甲斐(環境)他	稲垣(健康運動)・大賀(精神)		宮内(言語)	伊東・他(基礎看護) 佐伯(健康情報)	
		教室	23講義室	23講義室		31講義室 実習室	23講義室	
5 16:20～17:50	1年	科目						
		担当						
		教室						

7月 5日(火)～ 7月12日(火) 初期体験実習

7月21日(木)～ 9月 5日(月) 夏期休業

1年次・後期時間割

後期前半

【10月3日(月)～11月30日(水)】

時限	曜日	月	火	水	木	金			
1 9:00～10:30	1年	科目	微生物免疫論	◎社会学入門	①英語 I - B2 ②生活援助論	◎法学入門(日本国憲法)	◎文化人類学入門		
		担当	吉田(生体反応)・西園(非常勤)	大杉(非常勤)	Shirley(言語)	伊東,他(基礎看護)	二宮(非常勤)	足立(非常勤)	
		教室	23講義室	23講義室	32講義室	実習室	23講義室	23講義室	
2 10:40～12:10	1年	科目	生体反応学概論	生物統計学	①健康情報処理演習 ②生活援助論	①英語 I - A2 ②健康情報処理演習	生体反応学概論		
		担当	市瀬(生体反応)	坂口・佐伯(健康情報)	品川・坂口・佐伯(健康情報)	伊東,他(基礎看護)	宮内(言語)	品川・坂口・佐伯(健康情報)	市瀬(生体反応)
		教室	23講義室	23講義室	情報処理教室	実習室	31講義室	情報処理教室	23講義室
3 13:00～14:30	1年	科目	生体代謝論	①生活援助論 ②英語 I - B2		①人間関係学 ②健康運動	看護理論入門		
		担当	安部(生体科学)	伊東,他(基礎看護)	Shirley(言語)		吉村(人間関係)	稲垣(健康運動)・甲斐(環境)・大津留(非常勤)	伊東・秦(基礎看護)
		教室	23講義室	実習室	32講義室		32講義室	31講義室または体育館	23講義室
4 14:40～16:10	1年	科目	カウンセリング論	①生活援助論 ②英語 I - A2		①健康運動 ②人間関係学			
		担当	関根(人間関係)	伊東,他(基礎看護)	宮内(言語)		稲垣(健康運動)・甲斐(環境)・大津留(非常勤)	吉村(人間関係)	
		教室	23講義室	実習室	31講義室		31講義室または体育館	32講義室	
5 16:20～17:50	1年	科目							
		担当							
		教室							

後期後半

【12月1日(木)～2月29日(水)】

時限	曜日	月	火	水	木	金			
1 9:00～10:30	1年	科目	微生物免疫論	生体反応学各論	看護疾病態論 I	◎法学入門(日本国憲法)	①英語 I - A2 ②健康情報処理演習		
		担当	吉田(生体反応)・西園(非常勤)	市瀬(生体反応)	藤内・石田・河野・田中(アセスメント)	二宮(非常勤)	宮内	品川・坂口・佐伯(健康情報)	
		教室	23講義室	23講義室	23講義室	23講義室	31講義室	情報処理教室	
2 10:40～12:10	1年	科目	生体代謝論	①健康情報処理演習 ②英語 I - B2	看護疾病態論 I	生体代謝論	①英語 I - B2 ②英語 I - A2		
		担当	安部(生体科学)	品川・坂口・佐伯(健康情報)	Shirley(言語)	藤内・石田・河野・田中(アセスメント)	安部(生体科学)	Shirley(言語)	宮内
		教室	23講義室	情報処理教室	32講義室	23講義室	23講義室	32講義室	31講義室
3 13:00～14:30	1年	科目	看護理論入門	看護疾病態論 I		①健康運動 ②人間関係学	成人看護学概論		
		担当	伊東・秦(基礎看護)	藤内・石田・河野・田中(アセスメント)		稲垣(健康運動)・甲斐(環境)・大津留(非常勤)	吉村(人間関係)	小野・福田・松本(成人・老年)	
		教室	23講義室	23講義室		21講義室または体育館	32講義室	23講義室	
4 14:40～16:10	1年	科目	カウンセリング論	看護疾病態論 I		①人間関係学 ②健康運動	成人看護学概論		
		担当	関根(人間関係)	藤内・石田・河野・田中(アセスメント)		吉村(人間関係)	稲垣(健康運動)・甲斐(環境)・大津留(非常勤)	小野・福田・松本(成人・老年)	
		教室	23講義室	23講義室		32講義室	21講義室または体育館	23講義室	
5 16:20～17:50	1年	科目				生物統計学	生体反応学各論		
		担当				坂口・佐伯(健康情報)	市瀬(生体反応)		
		教室				23講義室	23講義室		

12月24日(土)～1月7日(土) 冬期休業
1月10日(火)～1月24日(火) 基礎看護学実習

2年次・前期時間割

前期前半

【4月8日(金)～6月10日(金)】

時限	曜日	月	火	水	木	金			
1 9:00～10:30	2年	科目	母性看護学概論	①医療技術論	②英語Ⅱ-A1	①英語Ⅱ-A1	②医療技術論	◇美術とこころ	看護疾病病態論Ⅱ
		担当	林(母性)	伊東, 他 (基礎看護)	宮内(言語)	宮内(言語)	伊東, 他 (基礎看護)	澤田(非常勤)	藤内・石田・河野・田中 (アセスメント)
		教室	22講義室	実習室	31講義室	31講義室	実習室	22講義室	22講義室
2 10:40～12:10	2年	科目	◇音楽とこころ	①医療技術論	②英語Ⅱ-B1	①英語Ⅱ-B1	②医療技術論	健康運動論	看護疾病病態論Ⅱ
		担当	宮本(非常勤)	伊東, 他 (基礎看護)	Shirley (言語)	Shirley (言語)	伊東, 他 (基礎看護)	稲垣(健康運動)	藤内・石田・河野・田中 (アセスメント)
		教室	22講義室	実習室	32講義室	32講義室	実習室	22講義室	22講義室
3 13:00～14:30	2年	科目	成人看護学概論	看護疾病病態論Ⅱ			小児看護学概論	生体薬物反応論	
		担当	小野・福田・松本(成人・老年)	藤内・石田・河野・田中 (アセスメント)			高野(小児)	吉田(生体反応)	
		教室	22講義室	22講義室			22講義室	22講義室	
4 14:40～16:10	2年	科目	成人看護学概論	看護疾病病態論Ⅱ			老年看護学概論	生体薬物反応論	
		担当	小野・福田・松本(成人・老年)	藤内・石田・河野・田中 (アセスメント)			小野(成人・老年)	吉田(生体反応)	
		教室	22講義室	22講義室			22講義室	22講義室	
5 16:20～17:50	2年	科目					老年看護学概論	生体薬物反応論	
		担当					小野(成人・老年)	吉田(生体反応)	
		教室					22講義室	22講義室	

前期後半

【6月13日(月)～9月30日(金)】

時限	曜日	月	火	水	木	金		
1 9:00～10:30	2年	科目	生体薬物反応論	成人看護援助論	看護と遺伝	◇美術とこころ	環境保健学詳論	
		担当	吉田(生体反応)	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・橋口(成人・老年)	定金(生体反応)・岩崎(生体科学)・吉河(非常勤)	澤田(非常勤)	小嶋・甲斐・小野*(環境)	
		教室	22講義室	22講義室	22講義室	22講義室	22講義室	
2 10:40～12:10	2年	科目	◇音楽とこころ	成人看護援助論	環境保健学詳論	小児看護学概論	◇行動療法論	
		担当	宮本(非常勤)	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・橋口(成人・老年)	小嶋・甲斐・小野*(環境)	高野(小児)	関根(人間関係)	
		教室	22講義室	22講義室	22講義室	22講義室	22講義室	
3 13:00～14:30	2年	科目	成人看護援助論	①英語Ⅱ-A1	②英語Ⅱ-B1		母性看護学概論	ヘルスアセスメント
		担当	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・橋口(成人・老年)	宮内(言語)	Shirley (言語)		林(母性)	藤内・石田・河野・田中 (アセスメント)
		教室	22講義室	31講義室	32講義室		22講義室	22講義室
4 14:40～16:10	2年	科目	成人看護援助論	①英語Ⅱ-B1	②英語Ⅱ-A1		母性生理・病態論	健康運動論
		担当	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・橋口(成人・老年)	Shirley (言語)	宮内(言語)		林・猪俣(母性) 肥田木・谷口・堀水・宇津宮・上野・佐藤・西田(非常勤)	稲垣(健康運動)
		教室	22講義室	32講義室	31講義室		22講義室	22講義室
5 16:20～17:50	2年	科目	ヘルスアセスメント					
		担当	藤内・石田・河野・田中 (アセスメント)					
		教室	22講義室					

7月21日(木)～9月5日(月)

夏期休業

7月21日(木)～7月22日(金)

◇人間関係学演習(集中講義) 関根・吉村・佐藤み(人間関係学)

7月25日(月)～7月26日(火)

◎保健医療ボランティア論(集中講義) 福元(非常勤)

8月22日(月)～8月25日(木)

■日本国憲法(集中講義) 二宮(非常勤)

2年次・後期時間割

後期前半

【10月3日(月)～11月30日(水)】

時限	曜日	月	火	水	木	金	
1 9:00～10:30	2年	科目	放射線健康科学	老年看護援助論	精神看護学概論	①英語Ⅱ-A2 ②英語Ⅱ-B2	保健福祉システム論
		担当	甲斐・小嶋・小野 [*] (環境)	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・橋口(成人・老年)	影山(精神)	宮内(言語) Shirley(言語)	平野(保健管理)
		教室	22講義室	22講義室	22講義室	31講義室 32講義室	22講義室
2 10:40～12:10	2年	科目	看護アセスメント概論	老年看護援助論	①英語Ⅱ-B2 ②英語Ⅱ-A2	国際看護学概論	保健福祉システム論
		担当	藤内・石田(アセスメント)	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・橋口(成人・老年)	Shirley(言語) 宮内(言語)	李・桑野(国際)	平野(保健管理)
		教室	22講義室	22講義室	32講義室 31講義室	22講義室	22講義室
3 13:00～14:30	2年	科目	健康科学実験	地域看護学概論	健康科学実験	母性看護援助論Ⅰ	放射線健康科学
		担当		江藤・赤星・高波・堀(地域)		林・猪俣(母性) 戸高(非常勤)	甲斐・小嶋・小野 [*] (環境)
		教室	別途指示	22講義室	別途指示	22講義室	22講義室
4 14:40～16:10	2年	科目	健康科学実験	◇発達心理学	健康科学実験	母性生理・病態論	看護アセスメント演習
		担当		吉村(人間関係)		林・猪俣(母性) 肥田木・谷口・堀水・宇津宮・上野・佐藤・西田(非常勤)	藤内・石田・河野・田中(アセスメント)
		教室	別途指示	32講義室	別途指示	22講義室	22講義室
5 16:20～17:50	2年	科目	健康科学実験		健康科学実験		※健康運動学演習
		担当					稲垣(健康運動)
		教室	別途指示		別途指示		22講義室

後期後半

【12月1日(木)～1月27日(金)】

時限	曜日	月	火	水	木	金	
1 9:00～10:30	2年	科目	老年看護援助論	看護アセスメント演習	看護の倫理	①英語Ⅱ-A2 ②英語Ⅱ-B2	看護アセスメント概論
		担当	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・橋口(成人・老年)	藤内・石田・河野・田中(アセスメント)	平野(保健管理) 小野 [*] (成人・老年)	宮内(言語) Shirley(言語)	藤内・石田(アセスメント)
		教室	22講義室	22講義室	22講義室	31講義室 32講義室	22講義室
2 10:40～12:10	2年	科目	老年看護援助論	精神看護学概論	地域看護学概論	①英語Ⅱ-B2 ②英語Ⅱ-A2	☆環境保健学演習
		担当	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・橋口(成人・老年)	影山(精神)	江藤・赤星・高波・堀(地域)	Shirley(言語) 宮内(言語)	甲斐・小嶋・小野 [*] (環境)
		教室	22講義室	22講義室	22講義室	32講義室 31講義室	22講義室
3 13:00～14:30	2年	科目	健康科学実験	健康科学実験	健康科学実験	母性看護援助論Ⅰ	看護の倫理
		担当				林・猪俣(母性) 戸高(非常勤)	平野(保健管理) 小野 [*] (成人・老年)
		教室	別途指示	別途指示	別途指示	22講義室	22講義室
4 14:40～16:10	2年	科目	健康科学実験	健康科学実験	健康科学実験	母性生理・病態論	
		担当				林・猪俣(母性) 肥田木・谷口・堀水・宇津宮・上野・佐藤・西田(非常勤)	
		教室	別途指示	別途指示	別途指示	22講義室	
5 16:20～17:50	2年	科目	健康科学実験	健康科学実験	健康科学実験		
		担当					
		教室	別途指示	別途指示	別途指示		

12月24日(土)～1月7日(土) 冬期休業

1月30日(月)～2月15日(水) 看護アセスメント学実習

2月16日(木)～2月28日(火) 補講期間

2月29日(水) 進級試験

3年次・前期時間割

前期前半

【4月8日(金)～5月27日(金)】

時限	曜日	月	火	水	木	金	
1 9:00～10:30	3年	科目	★助産診断・技術学Ⅰ	精神看護援助論	精神看護援助論	成人・老年看護学演習	発達と援助論
		担当	関屋・石岡(助産) 佐藤昌(非常勤)	大賀(精神)	大賀(精神)	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・樋口(成人・老年)	高野・小代・薬師寺(小児)
		教室	21講義室	21講義室	21講義室	21講義室、実習室・演習室	21講義室
2 10:40～12:10	3年	科目	家族看護学概論	精神看護援助論	発達と援助論	成人・老年看護学演習	発達と援助論
		担当	江藤・赤星・高波・堀(地域)	大賀(精神)	高野・小代・薬師寺(小児)	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・樋口(成人・老年)	高野・小代・薬師寺(小児)
		教室	21講義室	21講義室	21講義室	21講義室、実習室・演習室	21講義室
3 13:00～14:30	3年	科目	在宅看護論	母性看護援助論Ⅱ		母性看護学演習	在宅看護論
		担当	桜井・平野(保健管理) ・佐藤※(看護研究交流センター)	林・猪俣(母性)		林・猪俣・安東(母性)	桜井・平野(保健管理) ・佐藤※(看護研究交流センター)
		教室	21講義室	21講義室		21講義室	21講義室
4 14:40～16:10	3年	科目	在宅看護論	母性看護援助論Ⅱ	★助産診断・技術学Ⅲ	母性看護学演習	★助産学概論
		担当	桜井・平野(保健管理) ・佐藤※(看護研究交流センター)	林・猪俣(母性)	関屋(助産)・宇津宮・佐藤 _n ・飯田・豊福・中村・嶺・軸丸・後藤(非常勤)	林・猪俣・安東(母性)	梅野(助産)
		教室	21講義室	21講義室	21講義室、実習センター	21講義室	21講義室
5 16:20～17:50	3年	科目		★助産診断・技術学Ⅱ			
		担当		梅野・樋口(助産)			
		教室		21講義室			

5月30日(月)～6月3日(金) 老年看護学実習Ⅰ
6月6日(月)～6月10日(金) 在宅看護学実習Ⅰ

※助産診断・技術学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、5月9日から開講

前期後半

【6月13日(月)～7月20日(水)】

時限	曜日	月	火	水	木	金	
1 9:00～10:30	3年	科目	★助産学概論	小児看護学演習	発達と援助論	成人・老年看護学演習	★助産診断・技術学Ⅰ
		担当	梅野(助産)	高野・小代・薬師寺(小児)	高野・小代・薬師寺(小児)	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・樋口(成人・老年)	関屋・石岡(助産) 佐藤昌(非常勤)
		教室	21講義室	21講義室	21講義室	21講義室、実習室・演習室	21講義室
2 10:40～12:10	3年	科目	家族看護学概論	小児看護学演習	発達と援助論	成人・老年看護学演習	★助産診断・技術学Ⅱ
		担当	江藤・赤星・高波・堀(地域)	高野・小代・薬師寺(小児)	高野・小代・薬師寺(小児)	小野・福田・松本・井伊・江月・津留・樋口(成人・老年)	梅野・樋口(助産)
		教室	21講義室	21講義室	21講義室	21講義室、実習室・演習室	21講義室
3 13:00～14:30	3年	科目	家族看護学概論	母性看護援助論Ⅱ	★助産診断・技術学Ⅲ	精神看護学演習	小児看護学演習
		担当	江藤・赤星・高波・堀(地域)	林・猪俣(母性)	関屋(助産)・宇津宮・佐藤 _n ・飯田・豊福・中村・嶺・軸丸・後藤(非常勤)	影山・大賀・津隈(精神)	高野・小代・薬師寺(小児)
		教室	21講義室	21講義室	21講義室、実習センター	21講義室	21講義室
4 14:40～16:10	3年	科目	保健活動論	母性看護学演習	★助産診断・技術学Ⅲ	精神看護学演習	発達と援助論
		担当	桜井・平野・高波・井ノ口 (保健管理)	林・猪俣(母性)	関屋(助産)・宇津宮・佐藤 _n ・飯田・豊福・中村・嶺・軸丸・後藤(非常勤)	影山・大賀・津隈(精神)	高野・小代・薬師寺(小児)
		教室	21講義室	21講義室	21講義室、実習センター	21講義室	21講義室
5 16:20～17:50	3年	科目	保健活動論	★助産学概論		精神看護学演習	基礎看護技術演習
		担当	桜井・平野・高波・井ノ口 (保健管理)	梅野(助産)		影山・大賀・津隈(精神)	市瀬・藤内・桜井、他
		教室	21講義室	21講義室		21講義室	21講義室

7月21日(木)～9月5日(月) 夏期休業

8月31日(水)～9月1日(木) 基礎看護技術演習

9月5日(月)～11月25日(金) 実習期間
成人看護学実習
老年看護学実習Ⅱ
小児看護学実習
母性看護学実習
精神看護学実習

3年次・後期時間割

後期前半

9月5日(月)～11月25日(金)

実習期間

成人看護学実習
老年看護学実習Ⅱ
小児看護学実習
母性看護学実習
精神看護学実習

後期後半

【12月1日(木)～2月29日(水)】

時限	曜日	月	火	水	木	金
1 9:00～10:30	科目	国際看護比較論	保健活動論	★助産診断・技術学Ⅰ	国際看護学演習	保健管理学演習
	担当	李・桑野(国際)	桜井・平野・高波・井ノ口 (保健管理)	関屋・石岡(助産) 佐藤 _田 (非常勤)	李・桑野(国際)	桜井・平野・井ノ口(保健管理)
	教室	21講義室	21講義室	21講義室	21講義室	21講義室
2 10:40～12:10	科目	英語Ⅲ	保健活動論	★助産診断・技術学Ⅰ	※運動療法特論	保健管理学演習
	担当	Shirley・宮内(言語)	桜井・平野・高波・井ノ口 (保健管理)	関屋・石岡(助産) 佐藤 _田 (非常勤)	稲垣(健康運動)	桜井・平野・井ノ口(保健管理)
	教室	31/32講義室	21講義室	21講義室	21講義室	21講義室
3 13:00～14:30	科目	地域生活支援論	英語Ⅲ	★助産診断・技術学Ⅲ	地域生活支援論	★助産診断・技術学Ⅱ
	担当	江藤・赤星・高波・堀(地域)	Shirley・宮内(言語)	関屋(助産)宇津宮・佐藤 _田 ・飯田 ・豊福・中村・嶺・軸丸・後藤(非常勤)	江藤・赤星・高波・堀(地域)	梅野・樋口(助産)
	教室	21講義室	31/32講義室	21講義室, 実習センター	21講義室	21講義室
4 14:40～16:10	科目	地域生活支援論	☆応用情報処理学	★助産診断・技術学Ⅲ	地域生活支援論	★助産診断・技術学Ⅱ
	担当	江藤・赤星・高波・堀(地域)	坂口・佐伯(健康情報)	関屋(助産)宇津宮・佐藤 _田 ・飯田 ・豊福・中村・嶺・軸丸・後藤(非常勤)	江藤・赤星・高波・堀(地域)	梅野・樋口(助産)
	教室	21講義室	21講義室	21講義室, 実習センター	21講義室	21講義室
5 16:20～17:50	科目		☆環境リスク論			
	担当		小嶋・甲斐(環境)			
	教室		21講義室			

12月24日(土)～1月7日(土)

冬期休業

4年次・前期時間割

前期前半

【4月8日（金）～5月6日（金）】

時限	曜日	月	火	水	木	金	
1 9:00～10:30	4年	科目	★助産診断・技術学Ⅳ	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	★助産診断・技術学Ⅳ
		担当	梅野・関屋・石岡 ・樋口(助産)	所属研究室	所属研究室	所属研究室	梅野・関屋・石岡 ・樋口(助産)
		教室	31講義室				31講義室
2 10:40～12:10	4年	科目	★助産診断・技術学Ⅳ	※運動指導特論	※運動指導特論	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	★助産診断・技術学Ⅳ
		担当	梅野・関屋・石岡 ・樋口(助産)	稲垣(健康運動)・大賀(精神) ・大津留(非常勤)	稲垣(健康運動)・大賀(精神) ・大津留(非常勤)	所属研究室	梅野・関屋・石岡 ・樋口(助産)
		教室	31講義室	22講義室	22講義室		31講義室
3 13:00～14:30	4年	科目	★助産診断・技術学Ⅳ	地域生活援助論Ⅱ		地域生活援助論Ⅱ	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)
		担当	梅野・関屋・石岡 ・樋口(助産)	江藤・赤星・高波・堀(地域)		江藤・赤星・高波・堀(地域)	所属研究室
		教室	31講義室	23講義室、演習室、D11		23講義室、演習室、D11	
4 14:40～16:10	4年	科目	★助産診断・技術学Ⅳ	地域生活援助論Ⅱ		地域生活援助論Ⅱ	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)
		担当	梅野・関屋・石岡 ・樋口(助産)	江藤・赤星・高波・堀(地域)		江藤・赤星・高波・堀(地域)	所属研究室
		教室	31講義室	23講義室、演習室、D11		23講義室、演習室、D11	
5 16:20～17:50	4年	科目					
		担当					
		教室					

5月 9日(月)～ 6月17日(金) 地域看護学実習、老年看護学実習Ⅱ
 6月20日(月)～ 7月 1日(金) 総合実習
 6月20日(月)～ 7月29日(金) 助産学実習(選択) 前半

前期後半

【7月4日(月)～9月30日(金)】

時限	曜日	月	火	水	木	金	
1 9:00～10:30	4年	科目	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	◇実務情報処理学	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)
		担当	所属研究室	所属研究室	所属研究室	佐伯(健康情報)	所属研究室
		教室				9月開講	
2 10:40～12:10	4年	科目	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)	◇実務情報処理学	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)
		担当	所属研究室	所属研究室	所属研究室	佐伯(健康情報)	所属研究室
		教室				31講義室	
3 13:00～14:30	4年	科目	※生体科学特論	※病態特論		◇環境倫理学	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)
		担当	安部(生体科学)	市瀬(生体反応)		甲斐(環境)	所属研究室
		教室	9月開講	9月開講		9月開講	
4 14:40～16:10	4年	科目	※生体科学特論	※病態特論		◇環境倫理学	卒業研究 (原書講読:看護研究の基礎Ⅱを含む)
		担当	安部(生体科学)	市瀬(生体反応)		甲斐(環境)	所属研究室
		教室	31講義室	22講義室		23講義室	
5 16:20～17:50	4年	科目					
		担当					
		教室					

7月21日(木)～ 9月 5日(月) 夏期休業
 8月22日(月)～ 9月 2日(金) 助産学実習(選択) 後半

4年次・後期時間割

後期前半

【10月3日(金)～11月30日(水)】

時限	曜日	月	火	水	木	金	
1 9:00～10:30	4年	科目	総合看護学(看護研究の基礎Ⅱ)	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
		担当	市瀬, 藤内, 桜井, 他	所属研究室	所属研究室	所属研究室	所属研究室
		教室	別途指示				
2 10:40～12:10	4年	科目	総合看護学(看護研究の基礎Ⅱ)	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
		担当	市瀬, 藤内, 桜井, 他	所属研究室	所属研究室	所属研究室	所属研究室
		教室	別途指示				
3 13:00～14:30	4年	科目	総合看護学(看護研究の基礎Ⅱ)	★地域助産活動論		★地域助産活動論	卒業研究
		担当	市瀬, 藤内, 桜井, 他	関屋・梅野(助産)宮崎文 ・宮崎理・生野(非常勤)		関屋・梅野(助産)宮崎文 ・宮崎理・生野(非常勤)	所属研究室
		教室	別途指示	23講義室		23講義室	
4 14:40～16:10	4年	科目	総合人間学	★地域助産活動論		★地域助産活動論	卒業研究
		担当		関屋・梅野(助産)宮崎文 ・宮崎理・生野(非常勤)		関屋・梅野(助産)宮崎文 ・宮崎理・生野(非常勤)	所属研究室
		教室	講堂	23講義室		23講義室	
5 16:20～17:50	4年	科目					
		担当					
		教室					

12月 9日(金) 正午	卒業論文提出締切
12月12日(月), 13日(火)	卒業研究発表会
12月14日(水)～22日(木)	補講期間
12月24日(土)～ 1月 7日(土)	冬期休業

Ⅲ 授業科目の履修

1 履修要領

大学における学修は、単位制で行われます。在学期間内に卒業に必要な単位を各年次で修得しなければなりません。卒業要件を確認して履修する選択科目を検討し、みなさんの興味に合わせた履修計画をたててください。

1) 学年・学期

学年は、4月1日から始まり、翌年3月31日で終わります。

学年は次の2学期に分かれています。

前期	4月1日～9月30日
後期	10月1日～翌年3月31日

カリキュラムの進行上、前期・後期をそれぞれ前半・後半に分割して4区分で年間の授業が行われます。ただし、実習や一部の科目については、この区分に従わない開講期間を持つものがありますので注意してください。

2) 休業日

土曜・日曜・祝日ならびに夏期休業期間、冬期休業期間、春期休業期間および開学記念日には、原則として授業は行われません。

夏期休業	7月21日～9月5日
冬期休業	12月24日～翌年1月7日
春期休業	3月1日～4月7日
開学記念日	6月19日

実習や特別な講義など、休業日に行われることがすでに決まっているものがあります。学年暦や授業科目の紹介に記載されていますので、注意してください。

3) 授業時間

時限	授業時間
1限目	9:00～10:30
2限目	10:40～12:10
3限目	13:00～14:30
4限目	14:40～16:10
5限目	16:20～17:50

学外で行われる実習は、開始時刻など別途指示されるので、指示に従ってください。

4) 授業科目の区分

授業科目には、必修科目と選択科目があります。

必修科目・・・学修上必ず履修しなければならない科目です。

選択科目・・・選択して履修しなければならない科目です。ただし、修得すべき単位数等の指定がありますので、授業科目一覧および卒業要件に留意して選択してください。

5)授業の形態と単位の算定基準

授業科目の単位数は、授業の形態により原則として以下の基準で計算します。

講義・演習 …………… 15 時間から 30 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位としています。

実験・実習・実技 …… 30 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位としています。

6)単位互換制度

本学入学前に他の大学等で履修した科目の単位を認定する場合（既修得単位の認定）の他に、本学在学中に他の大学等で履修した科目の単位を認定場合があります。

他の大学等で履修した科目の単位について、教育上有益と認めるときは、30 単位を超えない範囲で本学において履修したものとして単位を認定場合があります。本学が県内の大学等と結んだ単位互換協定に基づいて単位を修得した場合には、この規程により認定されます。また、VOD（ビデオ・オン・デマンド）や遠隔講義として実施され、本学にしながら受講できる他大学等の開講科目についても同様に取り扱われます。

なお、平成 21 年度改正以降のカリキュラムの場合は、あらかじめ指定された他大学等の科目を履修すると、本学の「自由科目」として卒業要件の選択科目に含めることもできます。

制度の詳細や履修できる他大学等の科目については、新年度の掲示物やオリエンテーションで紹介されます。

2 履修登録

履修登録とは、その年度に開講される科目のうち、受講を希望する科目を指定期日までに申請し、承認を得ることをいいます。

指定期日までに申請しなかった場合や記入漏れがあった場合は、履修登録がされません。履修登録をしないで受講しても、単位は修得できません。その結果、進級や卒業に支障をきたすこととなりますので、注意してください。

履修登録は、各人が SYLLABUS に掲載されている授業科目一覧・時間割を参考にし、先ず履修時間割を作成します。その上で、履修しようとする授業科目を下記の履修登録手続きに従い、届けなければなりません。必ず指定の期限を守ってください。

1)履修登録手続き

履修登録の手続きは 前期 4月8日～22日
後期 10月3日～14日 （3年次生は別途指示）

に必ず行ってください。履修登録の手続きと相談は教務学生グループで行います。

2)履修登録の流れ

(1)届出書類の受取

- ・届出書類を教務学生グループで受け取ってください。
- ・新入生については、オリエンテーション時に配布されます。

(2)履修科目の決定

- ・履修規程、SYLLABUS を参考に年間計画を立てます。
 - ・履修に関する相談は教務学生グループで受け付けます。
 - ・選択科目の履修を迷っている方は、履修登録の締切りまでの期間に開始している科目については授業に出席してみたうえで履修計画を立て、履修登録手続きをすることができます。
- ※選択科目の履修については、卒業に必要とされる単位数や選択科目が開講されている学年に注意し、きちんと卒業要件を満たせるようあらかじめ計画を立てましょう。
- ※留年や休学等で履修すべきカリキュラムが開講されていない場合には、履修登録前に、教務学生グループに必ず相談してください。

(3)履修届に記入

- ・記入漏れや登録忘れ等の場合は、履修登録がされず、単位の取得もできませんので、注意してください。

(4)履修届の提出

- ・必ず「履修届の控」を取り、教務学生グループに提出します。
- ・登録受付後は、新たな科目の追加や別科目への変更は認めませんので、登録に際しては、十分に確認してから提出してください。
- ・提出期限を厳守してください。締切り後は、理由のいかんを問わず受け付けません。

3)履修登録上の注意事項

原則として、履修登録内容の変更や取り消しはできません。十分に検討の上、提出してください。必要があれば教務学生グループに相談してください。

履修登録期間中は、手続き者の呼出しを掲示により行うことがありますので、掲示板には十分注意してください。

履修登録が認められない場合・取り消される場合

- ・すでに単位を修得した科目の登録は認められません。
- ・上位の年次の開講科目の登録は認められません。
- ・時間割上重複する科目の登録は認められません。
ただし、再受験科目（p25）との重複である場合は登録が認められます。また、やむを得ない場合には条件により登録が許可されることもあります。教務学生グループに相談してください。
- ・看護学の実習など、指定する科目（「授業科目の紹介」参照）の単位を修得済みもしくは修得見込でなければ履修登録が認められない、もしくは登録が取り消されるといった、履修の前提条件を指定している科目がありますので注意してください。
- ・履修者の選考を行う科目（現時点では助産学実習のみ）は、選考の結果、履修が許可されていない場合は、登録が認められません。

実習に関連した学び直しの指定について

すでに単位を修得した科目の登録は認められませんが、実習の要件として実習を履修する年度に再度学習し、修得を確認することが指定されている場合（p136 参照）があります。この場合、履修登録は不要ですが、事前にその科目の担当教員に連絡を取り、指定された学習を行ってください。

4)助産学選択科目の履修 (平成 23 年度改正カリキュラムを除く)

※平成 23 年度の 1 年次入学生から、学部では助産学科目は開講されません。また、助産学実習は平成 25 年度まで開講されます。

(1)助産学履修者の人数

本学の助産学実習履修者は、定員を 10 人とし、在校生と編入学生とをあわせた人数枠とします。

(2)履修登録・選考方法

在校生では 3 年次へ進級した者、編入生では単位認定の結果、「編入学全員に科される科目」や卒業要件に必要な科目の他に、「助産学」の履修が可能な者、これらの中から、次年度 4 年次において助産学実習履修を希望する者を対象として、3 年次前期に助産学実習履修許可者の選考を行います。

助産学実習履修者の選考は、その時点までの学業成績とその他の試験をあわせた評価により、実施する予定です。詳細は、オリエンテーションおよび「助産学概論」初回講義に出席して説明を受けてください。

助産学実習の履修を希望する場合は、助産学選択科目の履修届をあらかじめ出しておく必要があります。助産学実習の選考にもれた場合は、申し出がない限り助産学選択科目の履修届は自動的に取り消されます。

3 卒業要件、進級判定・進級試験

1)卒業要件

本学において卒業に必要な単位数については、学則・履修規程で定めています。p5 に示す単位数の要件を満たすと、それぞれの国家試験受験資格が与えられ、本学を卒業することができます。

2)進級判定

1～3 年次末に、各年次までに修得すべき必修科目の単位をすべて修得していない場合は、原則として進級できません。特に、以下に指定する科目の単位がすべて修得できていない場合には 3 年次に進級できません。

平成 21 年度改正カリキュラム	生体構造論, 生体機能論, 生体代謝論, 生体反応学概論, 生体反応学各論, 微生物免疫論, 生体薬物反応論
平成 23 年度改正カリキュラム	生体構造論, 生体機能論, 生体代謝論, 生体反応学概論, 生体反応学各論, 微生物免疫論, 生体薬物反応論, 健康論

3)進級試験

2 年次末に進級試験を実施します。2 年次までの必修科目の単位をすべて修得していても進級試験に合格しなければ 3 年次に進級できません。合格の基準は 6 割以上の得点であり、再試験は一回実施する予定です。

4 学修の評価

各科目の学修の評価と単位認定は、各科目の担当教員がシラバスの「授業科目の紹介」(p29～)の中に示した評価方法に従って行います。

1)欠席と遅刻

実習・演習科目は原則として、一度でも欠席すると評価の対象となりません。また、「授業科目の紹介」に記載した評価方法に“出席”を含む科目は、それぞれの担当教員の指示する方法で欠席が取り扱われ、該当する場合には評価の対象となりません。それ以外の科目でも、出席状況・履修態度によっては試験の受験が許可されないことがありますので注意してください。

次に示すように、やむを得ない事情による欠席は、手続きを行うことにより出席として扱われます。また、遅刻等についても欠席に準じて扱われます。

(1)休みの扱い

(病気等の場合)

病気やけがで休む場合は教務学生グループに連絡してください。一般の病気等による休みは欠席扱いですが、学校保健法で指定する伝染病（インフルエンザ、風疹、流行性耳下腺炎等）の場合は原則として出席扱いとします。なお、医師の診断書が必要です。

(慶弔の場合)

2親等以内の親族の死亡に伴う休みは出席扱いとしますが、講義の場合と、実習の場合では取り扱いが異なりますので、必ず事前に教務学生グループに連絡してください。

(2)遅刻等の扱い

原則として、授業開始から20分以内の遅れで出席することを「遅刻」とします。20分を超える遅れや、授業中の退出などが20分を超えた場合には、その授業については「欠席」として扱われます。

学修評価上、遅刻3回で1回の欠席として扱うことになっています。公共交通機関の遅延ややむを得ない事情による場合は、授業担当者または教務学生グループに申し出てください。

2)学修の評価（試験）

学修の評価（試験）は、筆記試験、口述試験、レポート提出などの方法によって行われます。各科目の授業の中で適切な時期に随時、実施されます。試験の方法は各科目の「授業科目の紹介」の「評価方法」に記載されています。必ず試験の実施日を確認し、未受験のないように注意してください。試験については、それぞれの担当教員からの指示に従ってください。

試験に関する用語を説明しますが、ここでの“試験”とは筆記試験だけでなくレポートや実技なども含んでいる点に注意してください。

追試験 ・ ・ やむを得ない理由により試験を欠席した場合は、すみやかに教務学生グループに連絡してください。願い出により追試験が行われることがあります。

再試験 ・ ・ 試験に合格しなかった場合、再試験は原則として行われません。ただし、担当教員が特に必要と認めた場合は、行われることがあります。試験後は、教員からの指示・連絡の掲示に十分注意してください。

不正行為 ・ ・ 試験において、不正行為をした者はその科目が不合格となるだけでなく、学則に基づく懲戒処分を受けることがあります。

3)再試験の手続き

再試験が行われる場合は、実施日の2日前までに、再試験許可願に担当教員の署名・押印を受け、手数料（1件 2,000円）を添えて教務学生グループに提出してください。再試験手続きは、再試験が繰り返されるたびに必要になります。また、再試験を受験する場合には、学生証に加えて再試験受験許可証も必ず持参してください。

4)成績評価

(1)評価

成績は、科目ごとに以下のように評価されます。

評語	点数	判定
A	80点～100点	合格
B	70点～79点	合格
C	60点～69点	合格
D	60点未満	不合格

※再試験による合格の場合は、評語はCとなります。また、成績表ではCdと表記されます。

(2)成績評価に疑義がある場合

配布される成績一覧表を確認し、成績評価に関して疑義がある場合は、「成績評価に関する学生からの疑義に関する教務上の取り扱い（p28）」に従って、成績一覧表配布後2週間以内に最初の疑義申し立てを行ってください。

概略を説明すると、以下の流れとなります。

- ・疑義がある場合は、直接担当の教員に口頭で問い合わせ、確認を行う（学外の講師で連絡が困難な場合は教務学生グループ経由で書面により問い合わせることも可能です）。
- ・教員は、学生の疑義に対して説明を行います。
- ・教員の説明で、疑義が解消されない場合には「成績評価に関する申立書」を提出してください。
- ・学内担当委員会で検討ののち、対応が行われます。

科目の成績評価でなく、成績評価の一部となるレポートや筆記試験などの評価に疑義のある場合も、この取り扱いに準じ、まず担当の教員に直接問い合わせてください。

5)再履修・再受験科目

試験に合格しなかった者または試験を受けなかった者が再びその授業科目の単位を修得しようとするときは、原則として、改めて履修届を提出し再履修しなければなりません。

授業科目によっては、再履修の場合には試験のみを受け、それに合格することによってその科目の単位を与えることがあります。この取り扱いをする科目を再受験科目とよび、年度のはじめに再受験科目と該当者を示します。

6)既修得単位の認定

本学に入学する前に、他大学または短期大学等で履修した科目の単位について教育上有益と認めるときは、30単位を超えない範囲で本学において履修したものとして単位を認定する場合があります。認定を希望する場合は、所定の様式により、別に定める日までに教務学生グループに提出してください。

編入学生においては、看護師、保健師の免許もしくは国家試験受験資格に応じて、認定される既修得単位の上限が変わります。事前に問い合わせてください。

5 履修規程等

大分県立看護科学大学履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大分県立看護科学大学学則（以下「学則」という。）第23条の規定により授業科目の履修及び第36条の規定により第3学年への進級に関し必要な事項を定める。

(履修登録)

第2条 学生は、履修しようとする授業科目について毎学期の所定の期日までに履修登録を行わなければならない。

2 履修登録は履修届（第1号様式）を届け出ることによって行うものとする。

(履修の禁止)

第3条 次の各号に掲げる授業科目は、履修することができない。

- 一 登録をしていない授業科目
- 二 既に単位を修得した授業科目
- 三 授業時間が重複する授業科目
- 四 履修の前提条件を満たしていない授業科目

2 前項にかかわらずその他の履修に関する規程等により認められたときは、履修することができる。

(履修登録の変更)

第4条 前条の履修登録をした授業科目は、変更し、又は取り消すことができない。ただし、特別の事由があると認められる場合においては、この限りではない。

(学修の評価)

第5条 授業科目の学修の評価は、原則として試験により行う。

2 試験は、筆記、口述、レポート等の提出及びその他の方法により授業の中で適切な時期に随時実施する。ただし、授業の出欠状況等により、受験を許可しないことがある。

(追試験)

第6条 試験に欠席した者に対する試験（以下「追試験」という。）は行わない。ただし、病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者に対しては、願い出により追試験を行うことができる。

- 2 前項の願い出は、追試験許可願に病気にあつては医師の診断書、その他の場合にあつてはその事由を証明する書類を添付し、試験終了後10日以内に提出しなければならない。
- 3 追試験の成績評価は通常の試験に準ずる。

(再試験)

第7条 基準に達しなかった者に対する試験（以下「再試験」という。）は行わない。ただし、担当教員が特に必要と認めた場合は行うことができる。

- 2 前項の願い出は、再試験許可願(第2号様式)に担当教員の署名及び手数料を添えて再試験実施日の2日前までに事務局に提出しなければならない。
- 3 再試験の許可を受けた者は、再試験のさいには、許可書を所持しなければならない。
- 4 再試験に合格した場合の成績評価は以下のとおりとする。

成績入力（評語コード）	成績表表示	成績評価・成績証明書
Cd	Cd	C

(成績の評価)

第8条 学則第18条に規定する成績の評価基準は次の各号のとおりとする。

- 一 Aは、80点～100点
- 二 Bは、70点～79点
- 三 Cは、60点～69点
- 四 Dは、60点未満

(再履修)

第9条 授業科目の成績が不合格となった者が翌年度以降において、その授業科目につき単位を修得しようとするときは、改めて履修登録を行い、再履修しなければならない。

2 授業科目によっては、翌年度にその試験のみを受け、それに合格することによって当該授業科目の単位を与えることがある（この授業科目を「再受験科目」という。）。なお、再受験科目は第3条第1項第3号の規定にかかわらず、他の授業科目と授業時間が重複しても履修することができる。

3 再受験科目の取扱いをする授業科目は、年度の初めにこれを示す。

(不正行為)

第10条 試験において不正行為をした者は、当該科目を不合格とする。さらに学則第45条の規定による懲戒処分を受けることがある。

(既修得単位の認定)

第11条 学則第22条に規定する入学前の既修得単位の認定を受けようとする者は、既修得単位認定申請書（第3号様式）により所定の期日までに申請しなければならない。

(第3学年への進級)

第12条 学則第36条に規定する進級については、第3学年に進級するための必要な単位を取得するとともに、第2学年に実施する進級試験に合格しなければならない。

2 進級試験の追試験（試験に欠席した者に対する試験）及び再試験（基準に達しなかった者に対する試験）は、第6条及び第7条を準用する。

(委任)

第13条 この規程に定めるもののほか、授業科目の履修等に関し必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年1月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

成績評価に関する学生からの疑義に対する教務上の取扱い

(平成 18 年 10 月 18 日 教育研究審議会決定)

- 1 成績一覧表の配布後、学生から成績評価に対して疑義があった場合、次のとおり取り扱うこととする。
 - (1) 本学の教員（以下「専任教員」という。）の担当科目については、学生は、直接口頭により専任教員へ問い合わせることとし、専任教員は成績評価について、学生の納得が得られるよう理由を説明する。
 - (2) 本学以外の教員（以下「非常勤講師」という。）の担当科目についても、原則として（1）と同様とするが、非常勤講師に理由を聞く機会がなかった学生から問い合わせがあった場合は、「成績評価に関する質問書（別紙様式 1）」（以下「質問書」という。）により事務局教務学生グループで受け付けるものとする。
 - (3) (1)の口頭による問い合わせ及び(2)の質問書の受付は、成績一覧表交付日から 2 週間以内とする。
- 2 学生から質問書が提出された場合は、次のとおり取り扱うこととする。
 - (1) 疑義内容が事務的に対応できない場合には、教務学生グループから非常勤講師に照会する。
 - (2) 当該非常勤講師は、照会日から 2 週間以内に成績評価の理由・根拠を文書により回答する。教務学生グループは、その回答を学生に通知する。
- 3 専任教員及び非常勤講師（以下「担当教員」という。）から回答された評価理由に納得できない旨の申し出があった場合は、次のとおり取り扱うこととする。
 - (1) 「成績評価に関する申立書（別紙様式 2）」（以下「申立書」という。）に、納得できない理由・根拠を記入して教務学生グループに提出する。
 - (2) 申立書が提出された場合は、教育研究委員会で検討する。
 - (3) 教育研究委員会は、申立内容の正当性の有無を確認の上で、学生及び担当教員に対し個別に面談を行い、必要な対応を講じる。なお、その対応結果については、教育研究審議会へ報告する。
 - (4) 申立書の受付は、口頭で説明を受けた日又は質問書に対する回答を受け取った日から 1 週間以内とする。
- 4 本取扱いは、平成 18 年度前期成績評価から適用する。

IV 授業科目の紹介

1 講義・演習等

(1) 1年次開講科目 前期開講

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
人のこころの仕組み	講義	必修	1	15	1年次 前期
担当教員	吉村 匠平				

【ねらい】

人のこころの仕組み(外の世界の認識・教育・発達に関する基礎的な事項)を学ぶと同時に、看護実践において必要と思われる知識を習得する。他者と協同しながら学ぶ機会を提供し、コミュニケーションを重ねながら学ぶスキルの習得をめざす。

【科目の概要】

外の世界を認識する仕組み、外の世界の情報と相互作用し自分自身や他者の行動パターンが変化していく仕組みについて学ぶ。また、生理的に無力な状態で生まれてくるとされる人間が、どのようなプロセスを経て発達していくのか、その概略を学ぶ。

【授業計画】

1. 外の世界の認識(1)：見るとはどのような活動なのか
2. 外の世界の認識(2)：聞くとはどのような活動なのか
3. 外の世界の認識(3)：記憶の仕組み・働きについて
4. 外の世界の認識(4)：スキーマ、スクリプトによる外の世界の取り入れ～問題解決
5. 外の世界の認識(5)：社会的な知能
6. 防衛(適応)規制：さまざまな防衛機制の理解
7. 学習(1)：条件づけの理解(古典的条件づけ)
8. 学習(2)：条件付けの理解(オペラント条件付け)
9. 学習(3)：学習理論：モデリング・プログラム学習・有意味受容学習・発見学習・協同学習
10. 学習(4)：動機付け：外発的動機付け、内発的動機付け、自己決定理論
11. 発達(1)：遺伝か環境か？発達に関する基本的な概念
12. 発達(2)：エリクソンのライフサイクル論
13. 発達(3)：ピアジェの発生的認識論
14. 発達(4)：愛着の進化心理学的理解
15. 試験

【評価方法】

毎回提出(任意)のショートレポート(約30%)、試験(約30%)、授業への参加度(約25%)、時間外学習課題の提出状況(約10%)により総合的に評価する。授業への積極的参加(発言など)単位認定システムについては、初回にプリントを配布し説明するので出席すること。出席は強制しないが、最小限の出席で単位の修得を目指す場合、相応の努力が必要であることを理解しておくこと。

【テキスト】

必要に応じプリントを配布する。講義ブログ「よしむら学習室：http://blogs.yahoo.co.jp/yoshi_muuu」に授業の感想に対するコメント・終了した分の講義ノート・資料などを全て掲載する。必要な場合には各自ダウンロード(プリントアウト)すること。また、ブログ上の掲示板に自由課題や質問板を置き、投稿者には平常点を配点する。

【その他】

毎回、授業開始時にくじを引いて、座席を指定し、隣に座った人、周囲の人と取り組む課題を出す。色んな人と係わる機会を提供するのが目的。世の中に出れば、色々な人と係わるスキルが必要になってくる。今の内から、少しずつ慣れておくこと。

前期前半は1クラス編成で、前期後半は2クラス編成で講義を行う。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
コミュニケーション論	講義	必修	1	15	1年次 前期
担当教員	関根 剛				

【ねらい】

コミュニケーションにおける言語的、非言語的な表現の大切さを理解し、的確に情報を得る方法と、実践的な表現能力を身につけることを目標にする。

【科目の概要】

人間同士の関わりは最も小さい社会であり、コミュニケーションは対人援助の基本である。本講義では、コミュニケーションを情報を「受ける」「理解する」「発する」という観点から、行動観察、グループエンカウンター、プレゼンテーションなどの体験的な学習を含めて学んでいく。

【授業計画】

1. オリエンテーション：コミュニケーションをとるとのこと（体育館予定）
2. グループエクササイズ（1）人と関わる
3. グループエクササイズ（2）自分らしさに気づく
4. リーダーシップとメンバーシップ
5. 行動観察の方法とまとめ方
6. 行動観察グループワーク（1）
7. プロセスレコード（1）
8. プロセスレコード（2）
9. 行動観察グループワーク（2）
10. プレゼンテーションスキル（1）
11. プレゼンテーションスキル（2）
12. ボディランゲージ：手話
13. プレゼンテーション（1）
14. プレゼンテーション（2）
15. 試験

【評価方法】

試験と出席状況、プレゼンテーションを総合的に評価する

【テキスト】

ハンドアウト配布

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
英語 I-A 1	講義	必修	1	15	1年次 前期
担当教員	宮内 信治				

【ねらい】

英文の内容を把握し、スムーズに音読する力を養う。また、平易な英文で書かれた本を多読することにより、英文処理能力を高める。

【科目の概要】

講義前半において、英語音声学に基づき、英語の母音について発音記号とともにその発声の仕方を教授する。また、20世紀以降の英文学作品から精選し、その英文を書写、音読、暗唱することにより、英語の定着を図る。講義後半では、英語多読用の読本を活用し、易しい英語で書かれたものをできるだけ多量に読むことにより、英語になじませ、英文処理能力の迅速化を図る。

【授業計画】

- 1 Introduction
- 2 Dale Carnegie (1)
- 3 Dale Carnegie (2)
- 4 Anne Morrow Lindbergh (1)
- 5 Anne Morrow Lindbergh (2)
- 6 Mitch Albom (1)
- 7 Mitch Albom (2)
- 8 Recitation Review 1
- 9 Bertrand Russell (1)
- 10 Bertrand Russell (2)
- 11 Albert Einstein (1)
- 12 Albert Einstein (2)
- 13 Robert Fulgum (1)
- 14 Robert Fulgum (2)
- 15 Recitation Review 2
- 16 Examination

【評価方法】

各 Review において、指定された英文の暗唱 (Recitation) を評価し、期末試験とともに成績評価の一部とする。また、出席状況を重視し、欠席・遅刻(早退)には厳しく対処する。(欠課理由の如何にかかわらず、授業欠課3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また、欠課理由の如何にかかわらず、授業欠課4回にて試験の受験資格を失う。なお、授業中における過度の居眠り、または授業進行妨害行為などは、教員の判断により、欠課扱いとする場合がある。) 授業への出欠状況等は、学生が自らの責任において把握、管理すること。

【テキスト】

別途指示

【その他】

授業後半の多読については基本的に評価に含めないが、学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの(書評、書籍紹介、感想など)は、評価対象とし加点する場合がある。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
英語 I-B 1	講義	必修	1	15	1年次 前期
担当教員	Gerald T. Shirley, 田原 歩				

【ねらい】

The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun communicating in English.

【科目の概要】

English language ability is important for nurses. In this class students practice speaking and listening in order to improve their English communication skills. This class has two components: an eight-week-long Computer Assisted Language Learning (CALL) session and speaking and listening activities in the classroom.

【授業計画】

- 1 Introduction
- 2 Conversation Topic 1
- 3 Conversation Topic 1
- 4 Conversation Topic 1 ・ CALL
- 5 Conversation Topic 1 ・ CALL
- 6 Conversation Topic 2 ・ CALL
- 7 Conversation Topic 2 ・ CALL
- 8 Conversation Topic 2 ・ CALL
- 9 Conversation Topic 2 ・ CALL
- 10 Conversation Topic 3 ・ CALL
- 11 Conversation Topic 3 ・ CALL
- 12 Conversation Topic 3
- 13 Conversation Topic 3
- 14 Review
- 15 Test

【評価方法】

Grades will be based on a combination of regular attendance, participation and efforts, and a final examination in the classroom sessions, and efforts at CALL and TOEIC results. (注) Attendance and participation are very important. Absence (regardless of reason) from or non-participation in four classes results in a failing grade; in three classes it results in a reduction of the final class grade one level down. Students, not the instructor, are responsible for being aware of their number of absences.

【テキスト】

No textbook will be used. The instructor makes most of the teaching materials used in class, and will provide students with materials for classroom use.

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
言語表現法	講義	必修	1	8	1年次 前期前半
担当教員	日高 貢一郎				

【ねらい】

人がお互いの意思を伝え合い、理解し合うために必要かつ不可欠な手段である『ことば』について理解を深める。

【科目の概要】

①地域社会の暮らしのことばである「方言」と、②思いを書いて伝える「手紙」の決まり（書き方のルールとマナー）について学習する。

①病院で聞かれる「方言」には、地域に暮らす患者（特に高齢者）の皆さんの率直で端的な思いが込められている。看護師・医師は、その地域でしばしば聞かれる代表的な方言については聞いてしっかり理解できるようになっておくことが望まれる。

②「手紙」は、口ではうまく表現できにくいことも伝えることができるし、社会人にとっては必須の基礎知識である。そのルールといマナーとをしっかりと身につけたい。

【授業計画】

- 1 方言の役割と効用
- 2 医療・看護と方言①
- 3 医療・看護と方言②
- 4 医療・看護と方言③
- 5 手紙の書き方（前文）
- 6 手紙の書き方（主文）
- 7 手紙の書き方（末文）
- 8 手紙の書き方（後付け）
- 9 テスト

【評価方法】

テスト（および平常の受講状況を重視します）

【テキスト】

文化庁編『言葉に関する問答集』第4集（財務省印刷局）から「手紙の書き方」のプリントを配付します。

【その他】

欠席は、最大2回までとします。十分注意してください。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
韓国語	講義	選択	2	15	1年次 前期
担当教員	劉 美貞 (ユ ミジュン)				

【ねらい】

韓国語は文法構造をはじめ、語彙や言い回しなど、日本語とよく似たものがたくさんあることから、日本語を母語とする学習者にとっては非常に学びやすい言語だと言われている。最初は韓国語の文字「ハングル」の発音と書き方を覚えていく。その後、基礎的な文の構造を学びながら簡単な会話のやりとりも試みる。

【科目の概要】

韓国語の基礎を身につけると同時に、隣国同士の付き合いをしていく上で知っておくべき歴史的・社会的・文化的背景をも学習することによって、真の意味でのコミュニケーションについて考える。

【授業計画】

1. 8つの基本母音字母/派生母音字母Ⅰ
2. 10つの基本子音字母
3. 有声音化/激音と濃音
4. 派生母音字母Ⅱ
5. 語末音/連音
6. 2文字パッチム/発音の変化
7. 名詞+です/～は
8. 指示代名詞/～が
9. ～ではありません/～も
10. 漢語系数詞/～の
11. 固有語系数詞/～と
12. 曜日・年月日・時刻など
13. 挨拶と決まり文句
14. 用言の活用Ⅰ
15. 総まとめ
16. テスト

【評価方法】

テストと出席、学習意欲・積極性を総合して評価する。テスト 60%、出席 30%、平常点 10%

【テキスト】

授業時に紹介する。参考文献：プリント配布

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
哲学入門	講義	必修	1	8	1年次 前期後半
担当教員	西 英久				

【ねらい】

医療従事者の立場から、「人間とは何か」という哲学の根本的問いを考察してみる。

【科目の概要】

「私（人間）とは何か」という哲学の根本問題が医療現場においていかに考えられているかを解説する。本講義は、医療における哲学的問題をただ理解するだけでなく、自らの現実問題として考え直してみることを目指している。

【授業計画】

- 1 人間とは何か（哲学的人間学）
- 2 生命の倫理について
- 3 人間の尊厳について
- 4 愛の概念について
- 5 臨床の哲学（臓器移植）について
- 6 臨床の哲学（生殖技術）について
- 7 臨床の哲学（中絶）について
- 8 臨床の哲学（安楽死と尊厳死）について

※ 現実の医療問題と関連させながら、平易に講義を進めていく。

【評価方法】

テスト、出席等により総合的に評価する。

【テキスト】

『生命倫理の基礎づけ』 西 英久著 杉山書店（東京）

【その他】

テストは教科書持ち込み可とする。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
環境保健学概論	講義	必修	1	15	1年次 前期
担当教員	甲斐 倫明, 小嶋 光明, 小野 孝二				

【ねらい】

私たちの環境と健康の関係を理解するために事例などを通して基礎概念を学ぶ。

【科目の概要】

私たちの生活環境に存在する様々な有害物質と環境・健康影響との関係を理解し、私たちの環境と健康を守るための科学を学ぶ。とくに、環境と健康が絡んでいると疑われる社会問題に焦点をあて、いかなる科学的なアプローチが行われているかを学び、環境リスクという概念を理解する。

【授業計画】

1. 公害から環境リスクへ：歴史
2. 現代の環境問題
3. 健康影響の考え方
4. がんの生物学
5. がん以外の健康影響
6. 人における発がん
7. 環境疫学 基礎
8. 環境疫学 事例
9. 安全性試験 1 (リスク評価)
10. 安全性試験 2
11. ライフスタイルと健康
12. 環境リスク論 (リスクガバナンス)
13. 環境リスク心理学
14. 環境リスクの諸問題とまとめ
15. 試験および解説

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

授業ごとにハンドアウトを配布する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
健康情報学	講義	必修	1	15	1年次 前期
担当教員	佐伯 圭一郎				

【ねらい】

人間集団の健康に関する各種情報を正しく読みとる能力を身につけることを目標とする。

【科目の概要】

人口統計や疾病情報など、集団における健康情報の調査法とその概要、ならびに EBN の基盤の一つである疫学の方法について学ぶ。健康情報とその様々な指標に関して、情報の発生源からその意味するものまでを体系的に学ぶことを通じて、集団の健康の現状と推移について理解を深めるとともに、それら情報を適切に理解し活用する能力を養う。

【授業計画】

- 1 健康情報の基礎 — 健康情報とは，保健統計概論
- 2 人口統計 1 — 人口統計の方法，人口静態
- 3 " 2 — 人口動態・生命表
- 4 疾病に関する保健統計 1 — 患者調査，国民生活基礎調査
- 5 " 2 — さまざまな疾病統計
- 6 保健統計指標のまとめ
- 7 中間テスト / 前半の復習
- 8 健康情報の収集 — 情報収集の方法
- 9 疫学 1 — 疫学の考え方，疫学指標
- 10 " 2 — 研究方法論
- 11 " 3 — バイアス
- 12 " 4 — 疫学研究の計画と実施
- 13 " 5 — 疫学研究の実例
- 14 検査やスクリーニングの理論
- 15 最終テスト / 後半の復習

【評価方法】

2回の筆記試験のみ

【テキスト】

「国民衛生の動向」厚生統計協会，その他参考図書は適宜紹介する

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
健康情報処理演習	演習	必修	2	22	1年次 前期～後期
担当教員	品川 佳満, 坂口 隆之, 佐伯 圭一郎				

【ねらい】

情報処理機器の活用を通じて、情報を活用する実践的能力を身につける。

【科目の概要】

ICT（情報通信技術）のスキルを高め、医療機関や地域における看護実践や学習、コミュニケーションにおける情報処理技術の活用をはかるとともに、保健統計・疫学調査の実務におけるデータ管理、分析といった一連の科学的プロセスを演習により身につける。

【授業計画】

1 ネットワークの利用	各種サーバの利用, 電子メール, 情報セキュリティ
2 情報の基礎	情報とは何か (講義形式)
3 文書の作成と管理(1)	Word: 基本操作, 印刷
4 文書の作成と管理(2)	絵・図の作成, 文章との統合
5 文書の作成と管理(3)	表の作成, バックアップ
6 画像処理	デジタルカメラ, スキャナ, 画像編集の基礎
7 プレゼンテーション	PowerPoint: 基本操作
8 表計算(1)	Excel: 基本操作
9 表計算(2)	計算, 関数
10 表計算(3)	グラフ作成
11 課題演習: テスト (筆記), 文書作成・表計算課題 (演習)	
12 統計データの分析(1)	保健統計, 疫学指標
13 医療における情報システム(1)	病院情報システム (講義形式)
14 医療における情報システム(2)	電子カルテ, 遠隔医療システム (講義形式)
15 データベースの利用(1)	データベースとは, 情報検索の基礎
16 データベースの利用(2)	文献, 図書データベース
17 統計データの分析(2)	基本統計量, 相関, 回帰
18 ホームページ作成	HTML, ファイル転送
19 動画画像処理	動画画像編集の基礎
20 課題演習: テスト (筆記), ホームページ作成 (演習)	
21 統計データの分析(3)	Excel による統計演習
22 統計データの分析(4)	統計ソフトウェア SPSS 演習

【評価方法】

出席を重視し、参加態度や提出課題、テストを総合して判定する（配分：出席・課題 50%，テスト 50%）。

欠席が 5 回を超えると自動的に不合格となる。なお、20 分までの遅刻は 1/2 の出席，それを超えると欠席として取り扱う。

【テキスト】

特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。

【その他】

年度始めに開催されるオリエンテーションで、情報処理教室・メディアセンター利用法の講習を受けること。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
生体構造論	講義	必修	2	22	1年次 前期
担当教員	下田 浩				

【ねらい】

生命体としての人体の成り立ち（発生・分化・構造）を理解する。

【科目の概要】

細胞から組織、器官、個体レベルまで人体の構造と機能形態学的特徴を説明できる。

【授業計画】

1. 人体の正常構造について系統的に概説する。

学習要項： 1) 発生・分化
 2) 解剖学用語
 3) 細胞・組織・器官
 4) 骨格系
 5) 筋系
 6) 神経系
 7) 内分泌系
 8) 消化器系
 9) 呼吸器系
 10) 血液系
 11) 循環器系
 12) 泌尿器系
 13) 生殖器系
 14) 感覚器系
 15) 免疫系

2. 臨床医学的側面より見た局所解剖学的特徴について概説する。

3. 人体の解剖学的特徴と疾患発生・病態生理との関連について概説する。

【評価方法】

筆記試験（80%）、レポート（20%）

【テキスト】

人体の構造と機能「1」解剖生理学（医学書院）

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
生体機能論	講義	必修	2	22	1年次 前期
担当教員	下田 浩, 岩崎 香子				

【ねらい】

生命体としての人体の構造と機能を統合的に理解する。

【科目の概要】

細胞から組織、器官、個体レベルまで生命活動・生活行動を営むための人体の生理機能を説明できる。

【授業計画】

1. 人体の生理機能について構造的特徴と連関して概説する。

- 学習要項：
- 1) 細胞・組織・器官
 - 2) 植物機能と動物機能
 - 3) 体液とホメオスタシス
 - 4) 骨格系
 - 5) 筋系
 - 6) 神経系
 - 7) 内分泌系
 - 8) 消化器系
 - 9) 呼吸器系
 - 10) 血液系
 - 11) 循環器系
 - 12) 泌尿器系
 - 13) 生殖器系
 - 14) 感覚器系
 - 15) 免疫系

2. 生体の生理機能調節システムについて概説する。

3. 人体の生理機能と疾患発生・病態生理との関連について概説する。

【評価方法】

筆記試験（80%）、レポート（20%）

【テキスト】

人体の構造と機能「1」解剖生理学（医学書院）

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
健康運動ボランティア演習	演習	必修	1	8	1年次 前期～後期
担当教員	稲垣 敦, 大賀 淳子				

【ねらい】

人、社会、自然と直接かかわる体験を通して、社会、地域、人のために何かをすることで喜びを感じるという人間としてごく自然な暖かい感情を育む。地域や社会の構成員としての自覚を確認し、相互に支え合うという意識を醸成する。社会と接点をもつことで学習意欲を高めるとともに、就職を含め将来の自分の人生について考える。

【科目の概要】

各自でボランティアをいくつか選んで参加し、事後にレポートを作成する。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション、レクリエーション
- 2 ボランティアについて
- 3 TAKIO ソーランの練習（1）
- 4 TAKIO ソーランの練習（2）
- 5～8 各種ボランティア活動の実施

【評価方法】

出席、ボランティア参加、レポート

【テキスト】

なし

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
自然科学の基礎	講義	必修	2	30	1年次 前期
担当教員	甲斐 倫明, 小嶋 光明, 小野 孝二, 岩崎 香子, 定金 香里, 品川 佳満, 吉田 成一, 佐伯 圭一郎, 坂口 隆之				

【ねらい】

大学で看護学を専攻するに際して、自然科学の基礎として習得しておくべき基本的事項を学ぶ。

【科目の概要】

看護学を専攻する学生の基礎教養としての入門的講義内容である。物理、化学、生物、数学の基本的事項を習得する。高校までに十分に習得できなかった項目を学ぶための講義であると同時に、自然科学の考え方について理解するための講義となるように配慮している。

【授業計画】

1. 全体：科学的自然観とは
2. 入学後試験（物理、化学、生物、数学）
3. 生物：細胞とは
4. 生物：細胞分裂の仕組み
5. 生物：DNA複製の仕組み
6. 生物：遺伝子・遺伝の仕組み 1
7. 生物：遺伝の仕組み 2
8. 生物：タンパク質合成の仕組み
9. 生物：生物の発生（1）受精
10. 生物：生物の発生（2）胚発生
11. 生物：エネルギー、酵素、代謝
12. 生物：化学エネルギーを獲得する経路
13. 生物：試験
14. 物理：力とエネルギー
15. 物理：熱と圧力
16. 物理：温度と相変化
17. 物理：電気と磁気
18. 物理：光と音
19. 物理：試験
20. 化学：物質の構成
21. 化学：物質の反応
22. 化学：モルと濃度計算
23. 化学：化学変化：酸化と還元、酸とアルカリ
24. 化学：有機化合物の構造
25. 化学：試験
26. 数学：数学の基礎 1
27. 数学：数学の基礎 2
28. 数学：数学の基礎 3
29. 数学：数学の基礎 4
30. 数学：試験

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

教科書を指定する。

追加説明として、プリントを配布する

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
看護学概論	講義	必修	1	15	1年次 前期
担当教員	伊東 朋子, 志賀 寿美代				

【ねらい】

看護学の導入部分としての看護とは何か、看護の本質と機能および看護専門職の役割と活動等について理解し、自らの看護に対する興味や関心を高める。

【科目の概要】

看護の本質や機能、歴史の変遷および看護活動の場と看護職の役割など看護についての概括的な知識と考え方を理解する。またそれらを支える倫理や法律、教育などについても学ぶことを通して、自らの看護に対する姿勢を考える。

【授業計画】

- 1 導入：看護学概論オリエンテーション
- 2 看護学とは、看護学の位置づけ
- 3 看護の概念
- 4 人間の理解
- 5 生活と健康
- 6 看護と環境
- 7 看護とコミュニケーション
- 8 看護と観察
- 9 看護活動の場と看護職の役割
- 10 看護の歴史
- 11 看護と教育
- 12 看護と法律
- 13 看護と倫理
- 14 安全管理
- 15 期末試験

【評価方法】

筆記試験、授業態度、出欠席などから総合的に評価する

【テキスト】

- 1 ヴァージニア・ヘンダーソン著／湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版 会, 1995
- 2 系統看護学講座 専門1 看護学概論／藤崎 郁他 医学書院
- 3 適時、資料を配付する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
生活援助論	講義	必修	2	30	1年次 前期後半・ 後期前半
担当教員	伊東 朋子, 志賀 寿美代, 秦 さと子, 栗林 好子, 福元 幸志, 佐藤 秋子				

【ねらい】

日常生活の援助技術および医療に伴う看護技術の基礎を修得する。

【科目の概要】

日常生活における基本的ニーズを充足させる技術の基本とそれら看護技術に対するエビデンスを学び、実際に技術を体験する。「対象者の安全を守るとは何か」、「対象者に安楽を提供するとは何か」について考究し、健康に資するよう行動する人々を援助する技術を修得する。

【授業計画】

1. 衛生学的手洗
2. 療養環境（ベッドメイキング）
3. ボディメカニクス・休息・安楽
4. 活動・安全
5. バイタルサインⅠ
6. バイタルサインⅡ
7. 栄養（食事介助・口腔ケア）
8. 排泄Ⅰ（便器・尿器・オムツ交換）
9. 衣生活Ⅰ（寝衣交換・リネン交換）
10. 衣生活Ⅱ（臥床・点滴患者の寝衣・リネン交換）
11. 清潔Ⅰ（全身清拭）
12. 清潔Ⅱ（洗髪・手浴）
13. 清潔Ⅲ（足浴・陰部洗浄）
14. 筆記試験
15. 実技試験

【評価方法】

出欠席、提出物、態度、実技試験、筆記試験から総合的に評価する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門2 「基礎看護技術Ⅰ」医学書院
 系統看護学講座 専門3 「基礎看護技術Ⅱ」医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
健康論	講義	必修	1	15	1年次 前期前半
担当教員	桜井 礼子, 平野 互, 井ノ口 明美				

【ねらい】

健康および健康増進の意義について理解する。
救命救急法について学ぶ。

【科目の概要】

健康に対する考え方の歴史的な変遷を理解し、健康維持と健康増進の重要性について学ぶ。人々の健康ニーズを把握し、健康増進活動における看護職の役割を認識して、専門職として積極的に取り組む姿勢を養う。

救命救急法を学び、日常の救急場面に対応できる知識・技術を身につける。

【授業計画】

- 1 健康とは（看護の視点から健康を考える）
- 2 ライフサイクルと健康
- 3 疾病構造とライフスタイル
- 4 健康度の評価
- 5 健康づくりと健康日本 21 の展開
- 6 健康づくり 健康と栄養
- 7 健康づくり 健康と運動、喫煙、飲酒
- 8 健康づくり こころの健康
- 9 健康づくり 喫煙、飲酒
- 10 健康と環境
- 11 看護職の役割と感性
- 12 救急法（日本赤十字社）
- 13 救急法
- 14 救急法
- 15 救急法
- 16 試験

【評価方法】

筆記試験

救急法 出席・認定証の取得

【テキスト】

授業ごとにハンドアウトを配布する。

【その他】

(2) 1年次開講科目
後期開講

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
人間関係学	講義	必修	1	15	1年次 後期
担当教員	吉村 匠平				

【ねらい】

人が人を理解するということがどのような「営み」なのか、心理学の観点から明らかにする。また、協同で学習する機会を提供し、学ぶという活動が個人の内側に閉じた活動ではなく、他者との間に開かれた活動であることを体験的に理解する。

【科目の概要】

心理学がどのように性格を理解しているのかについて学ぶ。性格を実体化し、標準化された方法による客観的な理解を目指す「自然科学的」アプローチと、性格の一貫性・安定性を想定しない「状況論的」アプローチの双方を学ぶ。また、性格を測定する尺度、状況論的な理解に必要な態度（カウンセリングマインド）についても合わせて学習する。

【授業計画】

1. 人格？性格？
2. 血液型性格判断について(日常生活における性格の理解)
3. 自然科学的な性格理解① (特性論的な性格理解)
4. 自然科学的な性格理解② (類型論的な人格の理解)
5. 自然科学的な性格理解③ (類型論と特性論)
6. 自然科学的な性格理解④ (心理テスト体験)
7. 心理検査法の理解 (質問紙法、投影法、作業検査法、テストバッテリー)
8. 状況論的な性格理解① ミルグラム実験を通して
9. 状況論的な性格理解② 役割の取得に伴う人格の変容 (模擬監獄実験、DVD 視聴)
10. 対象を状況論的に理解するために コミュニケーションにおける「拘束」の理解
11. 他者との人間関係を作るための枠組み (ロジャースの3条件)
12. ロジャースの3条件① 無条件の肯定的関心 (コップの水)
13. ロジャースの3条件② 評価せずに共感する (音叉共鳴実験、振子共振実験)
14. ロジャースの3条件③ 自己一致 (DVD 視聴: DARC)
15. 試験

【評価方法】

毎回受講後に提出任意のショートレポートを課す。授業中への参加 (出席+発言) を、得点化し評価に加える。授業への参加度 (約 30%) + ショートレポート (約 30%) + 試験 (約 30%) + 時間外学習 (約 10%) で評価する。初回講義時に説明する。

【テキスト】

特に指定しない。講義情報は、http://blogs.yahoo.co.jp/yoshi_muuu よしむら学習室に掲載する。

【その他】

今期からの初の試みとして、クラスを2分割し小教室で講義を行う。抽選による座席指定は、前期「こころの仕組み」と同じ。授業中の発言を求める (ペアを単位とした) ので、そのつもりで受講すること。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
カウンセリング論	講義	必修	1	15	1年次 後期
担当教員	関根 剛				

【ねらい】

カウンセリングの基礎となる理論とコミュニケーションスキルを学び、実際に適切なコミュニケーションを行えるようになる。

【科目の概要】

講義前半は、カウンセリングの考え方や複数の理論について解説し、様々な視点から人をとらえる。また、看護師、保健師、養護教諭として、いかにカウンセリングを利用することができるかについて解説をする。講義後半は、他者を理解するためのコミュニケーション・スキルについて解説するとともに、実践的にロールプレイを繰り返して行って、スキルを身につけていく。

【授業計画】

1. カウンセリングの考え方：なぜ変わるのか
2. 日常のコミュニケーションスキル：報告、指示、依頼の方法
3. コミュニケーションスキル（1）：あいづち、くりかえしを中心に
4. コミュニケーションスキル（2）：質問、要約を中心に
5. コミュニケーションスキル（3）：言い換え、共感を中心に
6. ロールプレイ（1）
7. ロールプレイ（2）
8. ロールプレイ（3）
9. ロールプレイ（4）
10. 来談者中心療法：会話で変化を起こす
11. 精神分析：無意識を探る
12. 認知行動療法：行動変化を促す
13. 学校の問題：不登校、非行
14. 危機介入：災害・犯罪被害
15. 試験

【評価方法】

試験および出席状況を総合的に評価する

【テキスト】

ハンドアウト配布

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
英語 I-A 2	講義	必修	1	15	1年次 後期
担当教員	宮内 信治				

【ねらい】

前期に引き続き、講義前半ではスムーズな音読を目指す。講義後半の多読においては、難易度の一つ（ないし二つ）高い本にも挑戦してみる。

【科目の概要】

講義前半では、19世紀以降の英文学作品から精選し、その英文を書写、音読、暗唱することにより、英語の定着を図る。音読指導に当たっては、英語音声学に基づき、英語の子音について発音記号とともにその発声の仕方を教授する。講義後半では、英語多読用の読本を活用し、易しい英語で書かれたものをできるだけ多量に読むことにより、英語になじませ、英文処理能力の迅速化を図る。また、英文読書に慣れた学生に対しては、比較的語数の多い読本に接するように徐々に指導していく。

【授業計画】

- 1 Ralph Waldo Emerson (1)
- 2 Ralph Waldo Emerson (2)
- 3 Inazo Nitobe (1)
- 4 Inazo Nitobe (2)
- 5 Inazo Nitobe (3)
- 6 Okakura Kakuzo (1)
- 7 Okakura Kakuzo (2)
- 8 Okakura Kakuzo (3)
- 9 Recitation Review 3
- 10 Walt Whitman
- 11 Robert Frost
- 12 Daisetz T. Suzuki (1)
- 13 Daisetz T. Suzuki (2)
- 14 Daisetz T. Suzuki (3)
- 15 Recitation Review 4
- 16 Examination

【評価方法】

各 Review において、指定された英文の暗唱 (Recitation) を評価し、期末試験とともに成績評価の一部とする。また、出席状況を重視し、欠席・遅刻(早退)には厳しく対処する。(欠課理由の如何にかかわらず、授業欠課3回にて成績評価レベルを一段階下げる。また、欠課理由の如何にかかわらず、授業欠課4回にて試験の受験資格を失う。なお、授業中における過度の居眠り、または授業進行妨害行為などは、教員の判断により、欠課扱いとする場合がある。) 授業への出欠状況等は、学生が自らの責任において把握、管理すること。

【テキスト】

別途指示

【その他】

授業後半の多読については基本的に評価に含めないが、学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの(書評、書籍紹介、感想など)は、評価対象とし加点する場合がある。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
英語 I-B 2	講義	必修	1	15	1年次 後期
担当教員	Gerald T. Shirley				

【ねらい】

The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun communicating in English.

【科目の概要】

English language ability is important for nurses. In this class students continue to practice speaking and listening in order to improve their English communication skills. A wide variety of relevant and meaningful speaking and listening activities maximize student interaction. These activities help students to increase their fluency in speaking and listening and help them gain self-confidence in communicating in English.

【授業計画】

- 1 Introduction
- 2 Conversation Topic 4
- 3 Conversation Topic 4
- 4 Conversation Topic 4
- 5 Conversation Topic 5
- 6 Conversation Topic 5
- 7 Conversation Topic 5
- 8 Conversation Topic 6
- 9 Conversation Topic 6
- 10 Conversation Topic 6
- 11 Conversation Topic 7
- 12 Conversation Topic 7
- 13 Conversation Topic 7
- 14 Review
- 15 Test

【評価方法】

Grades will be based on a combination of regular attendance, participation and effort, and a final examination. (注) Attendance and participation are very important. Absence (regardless of reason) from or non-participation in four classes results in a failing grade; in three classes it results in a reduction of the final class grade one level down. Students, not the instructor, are responsible for being aware of their number of absences.

【テキスト】

No textbook will be used. The instructor makes most of the teaching materials used in class, and will provide students with materials for classroom use. Students will be charged a fee for learning materials.

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
社会学入門	講義	必修	1	8	1年次 後期前半
担当教員	大杉 至				

【ねらい】

私たちが生きている社会をとらえる目を養う。

【科目の概要】

私たちは社会の中で生きているので、社会はいつみれば空気のような存在である。しかし、社会は私たちに拘束しているし、私たちは社会に頼って生きていく他はない。本講義では、社会学の巨匠たちが社会をどうとらえてきたかを概説する。それぞれの論者によって、様々な社会のとらえ方があることを理解し、社会を見る目を豊かにされたい。

【授業計画】

- 1 社会学とは何か（社会学の成立—A. コント—）
- 2 M. ウェーバーの社会学方法論
- 3 ウェーバーの資本主義成立論
- 4 マルクスの社会理論
- 5 マルクスの資本主義成立論
- 6 デュルケムの社会学方法論
- 7 デュルケムの犯罪理論
- 8 デュルケムの自殺理論
- 9 試験

【評価方法】

試験

【テキスト】

特になし。プリントを配布すると同時に参考文献をその都度紹介する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
法学入門（日本国憲法）	講義	選択	2	15	1年次 後期
担当教員	二宮 孝富				

【ねらい】

法律の基礎知識と憲法の基本原理・仕組みと問題点などを学ぶ。

【科目の概要】

近代法についての基本的なことから、日本国憲法の基本原理と仕組み、基本的人権に関わる諸問題を具体的な事柄に即して解説する。

【授業計画】

- 1) 法とは何か
- 2) 近代憲法と市民法
- 3) 日本国憲法について
- 4) 基本的人権～1 法の下での平等・表現の自由・信教の自由
- 5) 基本的人権～2 労働権・生存権
- 6) 基本的人権～3 新しい権利（知る権利・プライバシー権・環境権等）
- 7) 基本的人権～4 適正手続きの保障
- 8) 憲法と統治機構
- 9) 家族生活と法～1 夫婦・親子
- 10) 家族生活と法～2 相続・成年後見制度
- 11) 職場生活と法～1 労働法と職場生活
- 12) 職場生活と法～2 ハラスメント
- 13) 訴訟と裁判
- 14) 犯罪と法
- 15) 裁判員制度

【評価方法】

試験の成績による。

【テキスト】

大矢吉之・奥村文男編『スタンダード法学・憲法』法律文化

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
文化人類学入門	講義	選択	1	8	1年次 後期前半
担当教員	足立 恵理				

【ねらい】

異なる文化をどのように理解するかを学ぶ視点として、文化人類学の基礎的な考え方を学ぶ。

【科目の概要】

文化人類学では、フィールドワークを通して、異なる民族や文化の考え方を経験的に学ぶことにより、近代西洋の思考法のみが唯一絶対で普遍的なものであるというような考え方を問い直し、相対化することをめざす学問です。

この講義では、様々なテーマをとりあげ、人間の背景にある文化的多様性に目を向け、私たち自身のものの見方・考え方を相対化するための基礎的な考え方を学びます。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション：「文化」とは何か
- 2 グローバリゼーションの中の民族と文化
- 3 文化相対主義と自民族中心主義（エスノセントリズム）
- 4 交換の理論
- 5 宗教と世界観
- 6 文化と医療 1
- 7 文化と医療 2
- 8 まとめ

【評価方法】

試験および平常点（出席／欠席）。

【テキスト】

特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

参考図書：波平恵美子編『文化人類学 [カレッジ版]』医学書院

【その他】

他者との意見の交換や経験の共有を通して学ぶこと自体が「文化的多様性」について考える契機にもなります。そのため講義の中でワークやディスカッションを取り入れることがあります。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
生物統計学	講義	必修	1	15	1年次 後期
担当教員	坂口 隆之, 佐伯 圭一郎				

【ねらい】

統計学の基本的な知識・考え方を習得します。看護研究において適切な統計処理をすることができるよう、統計的な考え方の訓練を積み、実践的な解析能力を養成します。

【科目の概要】

統計学は、観測されたデータをもとに科学的な判断を下すための方法論です。一般には、(1)調査・実験計画を立ててデータを集める、(2)収集したデータを図表・数値化(記述)することで特徴をつかむ、(3)調査対象に対して推理をする、(4)最終的な判断をくだす、というプロセスを踏みます。本講義では、主に(2)と(3)における基本的な考え方や道具について学びます。また、統計ソフトの演習を通じて理解を深める予定です。

【授業計画】

1. 記述統計(1) データを記述する その1
2. 記述統計(2) データを記述する その2
3. 記述統計(3) データを記述する その3
4. 記述統計(4) データを記述する その4
5. 母集団と標本 調査対象とデータ
6. 確率分布(1) 計数値データの分布
7. 確率分布(2) 計量値データの分布
8. 推測統計(3) 調査対象に対する仮説検証 その1
9. 推測統計(4) 調査対象に対する仮説検証 その2
10. 推測統計(5) 調査対象に対する仮説検証 その3
11. 推測統計(6) 調査対象に対する仮説検証 まとめ
12. 推測統計(7) 調査対象の平均を見積もる その1
13. 推測統計(8) 調査対象の平均を見積もる その2
14. 推測統計(9) 推測統計のまとめ
15. 筆記試験

【評価方法】

課題提出(30%)と筆記試験(70%)により評価します。

【テキスト】

特に指定しません。必要に応じて、資料を配布します。

【その他】

健康情報処理演習において、統計ソフトウェアを用いた演習をおこないます。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
生体代謝論	講義	必修	2	22	1年次 後期
担当教員	安部 眞佐子				

【ねらい】

代謝について学ぶ。体内に入ってきた物質は生命を維持するために使われるが、ヒトで利用されるための代謝を受け、エネルギー源になったり、体を作り上げたりする。その変換の様子を概観し、生体の状況に応じた適切な栄養補給法を考える。

【科目の概要】

生体内の代謝状態を把握するためには、まず生体を構成する生体分子の種類と性質を知る必要がある。さらに、生体分子が受ける代謝をエネルギー産生から遺伝情報の流れまで総合的に理解できるようにする。そのうえで、生体に取り入れる食物についての知識をまとめ、食生活指針に基づいた健康増進のための適切な食事のありかたを学ぶ。

【授業計画】

生体分子

1. 生化学とは
2. 糖質・脂質
3. タンパク質・核酸
4. 水・ミネラル
5. ホルモン
6. 生理活性物質
7. 血液と尿の生化学

生体内の代謝

8. 酵素
9. ビタミン
10. 糖質代謝
11. 脂質代謝
12. タンパク質代謝

13. 遺伝情報

14. テスト

代謝の異常

15. 骨粗鬆症、高尿酸血症
16. 糖尿病、脂質異常症

栄養学の基礎

17. 食事バランスガイド
18. 各種食品の特性
19. 食事摂取基準
20. 栄養状態の評価 食事調査の実際
21. 栄養状態の評価 身体測定の実際
22. テスト

【評価方法】

出席と筆記試験 2回

【テキスト】

系統看護学講座「人体の構造と機能 [2] 生化学」 (医学書院)

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
生体反応学概論	講義	必修	1	15	1年次 後期前半
担当教員	市瀬 孝道				

【ねらい】

疾病の基本事項と発生病理の理解。

【科目の概要】

物理、化学、生物学的な外的要因と内的要因に対する生体の反応機構と病的変化を学ぶ。特にここでは、代謝異常、修復・再生、循環障害、炎症・免疫・アレルギー、腫瘍病変、先天異常といった総論的な基礎病理学と、それに関連した疾患を結びつけて学び、病気の本態や成り立ちについて理解する。

【授業計画】

- 1 生体の内外諸因と疾病
- 2 退行性変化（萎縮と変性、壊死、死後変化）
- 3 進行性変化（肥大、増生、化生、修理現象）
- 4 代謝障害（高脂血症、糖尿病等）
- 5 代謝障害（黄疸、結石）
- 6 循環障害（循環血量の異常、閉塞性の循環障害）
- 7 循環器系の疾患（動脈硬化症、心筋梗塞、動脈瘤など）
- 8 炎症（炎症細胞の種類と役割、炎症の分類、急性炎症・慢性炎症）
- 9 免疫（即時型反応、遅延型反応、自己免疫疾患等）
- 10 感染症（日和見感染、AIDS、結核など）
- 11 腫瘍（腫瘍の疫学）
- 12 腫瘍（腫瘍の分類、腫瘍の転移と進行）
- 13 老化と老人病
- 14 先天性疾患・小児の疾患
- 15 試験

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

系統看護講座 専門基礎4『病理学』 中村恭一著（医学書院）

参考書：病気の地図帳 山口和克（講談社）

【その他】

生理学、解剖学をよく理解しておいてください。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
生体反応学各論	講義	必修	1	15	1年次 後期後半
担当教員	市瀬 孝道				

【ねらい】

疾病の基本事項と発生病理の理解。

【科目の概要】

外的・内的要因によって起こる疾病を系統別に学ぶ。ここでは、循環器、呼吸器、消化器、造血器、泌尿器、生殖器、脳・神経、内分泌、運動器に発生する様々な疾病の発生・病態生理を理解し、病理学各論的な疾病の基礎知識を学ぶ。

【授業計画】

1. 消化器系の疾患
2. 呼吸器系の疾患
3. 循環器系の疾患
4. 内分泌系の疾患
4. 腎・尿路系の疾患
5. 生殖器系の疾患
6. 造血器系の疾患
7. 脳・神経系の疾患
8. 運動器系の疾患
9. 感覚器系の疾患
10. 試験

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

系統看護講座 専門基礎4『病理学』 中村恭一著（医学書院）

参考書：病気の地図帳 山口和克（講談社）

【その他】

生理学、解剖学をよく理解しておいてください。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
微生物免疫論	講義	必修	1	15	1年次 後期
担当教員	吉田 成一，西園 晃				

【ねらい】

微生物と生体、環境との関わりを理解する。特に微生物感染症について理解する。
また、微生物に対する生体の防御機構を理解する。

【科目の概要】

院内感染防止や感染看護に関する知識は看護業務を行う上で重要である。本講義では、臨床上前問題となる感染症を理解し、患者への対応、処置等感染症に対する看護の基本的事項について学ぶ。またこれらの感染に対する生体側の防御機構、防御機構が起因となって生じる疾患についての基礎知識を理解する。さらに、微生物による疾患に対する生体側の防御、免疫システムに関して理解する。

【授業計画】

- 1 微生物学総論
- 2 消毒・滅菌法など
- 3 感染症（院内感染、新興再興感染症など）、食中毒
- 4－5 病原細菌学各論
- 6 病原ウイルス学各論
- 7 臓器別感染症とその原因物質
- 8 病原性微生物とは
- 9－10 感染と免疫（総論）
- 11－15 免疫学各論
- 16 筆記試験

【評価方法】

試験

【テキスト】

教科書：コンパクト微生物学 小熊恵二・東匡伸 編（南江堂）

参考書：「看護のための病院感染ハンドブック」V.A. ストック著（岸下 雅通、三宅 寿美訳）
（医歯薬出版）

「看護テキスト 微生物学」小田 紘 著（廣川出版）

【その他】

全ての微生物感染症について詳細に扱うには、時間的な制約があるため、特に重要な点を力説する。その他講義で扱えないところは自己学習等が必要になります。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
健康運動	実技	必修	1	15	1年次 後期
担当教員	稲垣 敦, 甲斐 倫明, 大津留 麗理				

【ねらい】

種々のニュースポーツの体験を通して、運動の楽しさ、素晴らしさ、必要性を体感し、自己の生涯スポーツにつなげるとともに、福祉レクリエーションについて理解する。適切な運動強度や運動量の運動を実施することにより、体力を高め、ストレスを低減させ、学生間のコミュニケーションを促進する。

【科目の概要】

種々のニュースポーツを体験する。
 体力テストを実施する。
 福祉レクリエーションについて考える。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション、レクリエーション、学内ビンゴ
- 2 体力測定
- 3 フライングディスクの基礎
- 4 ディスクゴルフ
- 5 ユニバーサルホッケー
- 6 インディアカ
- 7 ソフトバレーボール
- 8 リングテニス
- 9 フットサル／スポーツチャンバラ
- 10 アルティメット
- 11 3オン3／チェックボール
- 12 ティーボール／ソフトボール
- 12 ヨガ（大津留）
- 13 テニス（甲斐）
- 14 バドミントン
- 15 福祉レクリエーション

【評価方法】

出席、レポート

【テキスト】

必要に応じて、資料を配付します。

【その他】

特に連絡のない場合は、運動のできる服装で体育館に集合して下さい。
 天候等の理由で順序は変わります。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
看護理論入門	講義	必修	1	15	1年次 後期
担当教員	伊東 朋子, 秦 さと子				

【ねらい】

看護理論とは何か、なぜ看護理論を学ぶ必要があるのか、看護を目指す初心者が「看護理論はおもしろいと感じ、看護に興味を持てるように、具体的な実践例を通して学習する。看護における「実践」と「理論」は表裏一体の関係にあり、どちらが欠けても看護にはなりえないことについて学ぶ。

【科目の概要】

看護学を支える基盤として、看護学とは何かを示す看護理論の範囲について理解する。看護理論の変遷に触れながら学習する。また看護理論の中心的テーマとしてのニード論、相互作用・人間関係、システムなどを通して、実際の場面ではどのようにその理論が応用されているのかなどを学ぶ。主な理論家としてはナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ウィーデンバック、ベナー、ロイ等について学ぶ。

【授業計画】

1. 看護理論とは
2. 看護理論の歴史的変遷
3. 個々の理論家について解説
 - ナイチンゲール（環境論）
 - ヘンダーソン（ニード論）
 - オレム（セルフケア不足理論）
 - ウィーデンバック（臨床看護における援助技術）
 - ペプロウ（人間関係の看護論）
 - ロイ（適応モデル）

【評価方法】

筆記試験、出欠席、授業態度などから総合的に評価する

【テキスト】

1. 黒田裕子監修：ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 改訂3版
2. 適宜、資料配布

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
看護疾病病態論 I	講義	必修	2	30	1年次 後期後半
担当教員	藤内 美保, 石田 佳代子, 河野 梢子, 田中 佳子				

【ねらい】

専門的看護援助の理論としての疾患別の病態生理、臨床像、治療について学ぶ。

【科目の概要】

看護過程を進めるにあたり、疾患面からみた病態と症状面からみた病態の両者を多角的・有機的に把握する能力を修得させることを目的とし、主に成人を対象とした疾患別（系統別）の病態生理・臨床像・治療についての基本的知識を学ぶ。本講義では、人体の構造や機能を理解しやすいように系統解剖学的構成にしたがって知識を整理しながら展開する。

【授業計画】

- 1～4 アレルギー・膠原病・感染症
- 5～6 眼科疾患
- 7～8 耳鼻咽喉科疾患
- 9～10 皮膚科疾患
- 11～12 筆記試験
- 13～18 消化器疾患、肝・胆・膵疾患
- 19～24 呼吸器疾患
- 25～28 腎・泌尿器疾患
- 29～30 筆記試験

【評価方法】

出席状況および筆記試験
詳細は別途資料配布

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2, 5, 8, 11, 12, 13, 14〕 医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
成人看護学概論	講義	必修	1	15	1年次 後期後半
担当教員	小野 美喜, 福田 広美, 松本 初美				

【ねらい】

成人期の身体・精神・社会的な特徴をふまえ、成人期に生じる多様な健康問題と対象への看護援助の概要を学ぶ

【科目の概要】

ライフサイクルの中で、特に成人期の位置付けと特徴を、発達、行動、社会、健康の側面から総合的に理解する。成人期の対象に特徴的な健康問題をとらえ、看護実践に必要な知識と援助を導く理論を学ぶ。さらに健康レベルに応じた看護活動を理解する。

【授業計画】

1. ライフサイクルにおける成人の特徴
2. 成人の生活と健康問題
3. 成人への基本的アプローチ
4. 成人の危機的な状況へのアプローチ
5. 健康障害をもつ成人の特徴と理解
6. "
7. 成人の事例検討（グループワーク）
8. "
9. 急性期・回復期にある成人への看護アプローチ
10. "
11. 慢性期にある成人への看護アプローチ
12. "
13. 終末期にある成人への看護アプローチ
14. "
15. 試験

【評価方法】

出席状況（原則 全出席）10%

グループワーク活動、発表内容 20%

筆記試験 70%

【テキスト】

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論』 医学書院

参考図書

『よくわかる中範囲理論』学研

【その他】

(3) 2年次開講科目
前期開講

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
行動療法論	講義	選択	1	8	2年次 前期後半
担当教員	関根 剛				

【ねらい】

学習心理学の知見を応用した行動修正・改善の具体的な方法について学ぶ。

【科目の概要】

人の生活習慣や不適切な行動を変えるのは、助言・指導やカウンセリングだけではない。学習心理学（こころのしくみ参照）の知見を応用した方法が大きな効果を及ぼすことがあり、また実際に利用もされている。この講義では、行動分析学の考え方などをもとにして、人の行動変容を促す技法について理解するとともに、自分の行動変容にも応用してみる。

【授業計画】

1. 行動変容の基本的な考え方；行動療法、認知行動療法
2. 行動を変える方法（1）；問題行動の明確化、ステージモデル
3. 行動を変える方法（2）；好子、学習、死人テスト
4. 行動を変える方法（3）；シェイピング、強化スケジュール
5. 看護や臨床への応用
6. 行動変化を促すプログラムを作る
7. 自分の行動を変える
8. 行動変化を促すプログラムの再検討

【評価方法】

レポート

【テキスト】

ハンドアウト配布

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
人間関係学演習	演習	選択	1	8	2年次 前期後半
担当教員	関根 剛, 吉村 匠平, 佐藤 みつよ				

【ねらい】

自分自身の在り方や他者とのコミュニケーションの在り方を、課題遂行を通して、振り返る。

【科目の概要】

下記にあげるような課題の中から、複数の課題を選択し、単独またはグループ課題に取り組む。参加者相互がコミュニケーション活動を行う機会を出来る限り設ける。

【授業計画】

自分自身の在り方、及び他者との関わりについて、感じ、考えるために、下記のような課題を行う。課題については、全てを行うわけではなく、参加者との協議の上で決定する。

- ・フィンガーペインティング
- ・フォトコラージュの作成（個人作成、グループ作成）
- ・写真投影法によるセルフプレゼンテーション
- ・看護と私（図式的投影法の体験）
- ・絵本の読み聞かせ（絵本の選択～読み聞かせまで）
- ・コミュニケーションカードを用いたグループワーク
- ・私の嫌いなこの言葉（プレゼンテーション課題）
- ・質問紙法の心理検査を用いた自己分析とプレゼンテーション
- ・類型化の練習（例：大分市内の公立学校の校章の分類）
- ・集団による問題解決演習

【評価方法】

授業中に作成した課題とプレゼンテーションから総合的に判断する。評価を受けるためには、二日間の参加が必須条件になる。

【テキスト】

必要な場合は、適宜ハンドアウトを配布する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
音楽とこころ	講義	選択	2	15	2年次 前期
担当教員	宮本 修				

【ねらい】

音楽！観たり、聴いたり、歌ったり、受講者の音楽的感受性を高めることにより、知的要素（理論理屈）でなく、感性で人間（こころ）理解へアプローチしてみる。

【科目の概要】

現代社会では、音楽に接する機会が非常に多くなってきた。様々なメディアを通して、あらゆるジャンルの音楽を耳にすることができる。講義では、クラシック音楽からポピュラー音楽まで、それぞれの楽しみ方のポイントをひもとき、音楽とこころの関係を考察してみる。また、ストレス社会における音楽の癒しについて、さらに音楽療法についても言及する。

【授業計画】

- | | | | |
|----|---------|-------------------|----|
| 1 | ①音楽を楽しむ | 1. オーケストラ入門 | I |
| 2 | | 2. " | II |
| 3 | | 3. 吹奏楽とジャズ音楽 | I |
| 4 | | 4. " | II |
| 5 | | 5. ピアノ音楽の楽しみ | I |
| 6 | | 6. " | II |
| 7 | | 7. ヴォーカルの楽しみ | I |
| 8 | | 8. " | II |
| 9 | | 9. コーラスの楽しみ | I |
| 10 | | 10. " | II |
| 11 | ②音楽で考える | 1. 「音楽の励まし」について | |
| 12 | | 2. 「音楽の癒し」について | |
| 13 | | 3. 「音楽療法」とは何 | |
| 14 | | 4. 「モーツァルト効果」について | |
| 15 | | 5. 「音楽とこころ」 まとめ | |

【評価方法】

出席状況を最重視し、レポート等で総合的に評価する。

【テキスト】

「モーツァルトを聴けば病気にならない」（著、和合 治久） KK ベストセラーズ

【その他】

1. 視聴覚教材鑑賞が多いので、視力の弱い学生はメガネ、コンタクトレンズを絶対に忘れないこと。
2. 毎授業時、講義終了後、その日の授業内容をレポートし、退出するように。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
美術とこころ	講義	選択	2	15	2年次 前期
担当教員	澤田 佳孝				

【ねらい】

自己を表現することの楽しさ、感じたこと・考えたことを形に表すこと（造形表現）の歓びを、描く体験を通じて理解する。

【科目の概要】

利便性を重視する現代社会においては、とかく失われがちな、人が生まれながらに持っている物を作る力・表現する心・工夫する能力などについて、描く体験を通して考える。またスライドレクチャーの形式で造形の歴史（西洋美術史）についてまなび、先人たちが残した各時代の表現について理解を深める。

【授業計画】

- 1～5 描写（素描を中心とした）
- 6～10 色彩表現
- 11～15 総合表現

【評価方法】

出席状況と提出作品により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【その他】

必用な表現材料については、その都度各自が準備するものを事前に説明する。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
英語Ⅱ-A 1	講義	必修	1	15	2年次 前期
担当教員	宮内 信治				

【ねらい】

Vocabulary Builder 教材を用い、英語の語彙の習得、増強を図る。また、様々な難易度の語彙・英文で書かれた本を多読し、英文処理能力の更なる向上を目指す。

【科目の概要】

前半 45 分：教科書に Word Power Made Easy を使用する。ギリシャ語、ラテン語を起源とする英単語を、語源を手掛かりにその意味を理解し、習得することを目的とする。各レッスンごとに設定された 10 の基本単語については、記憶の定着を図るために小テストを行い評価する。期間内に 2 度、教科書から抜粋した英文を暗唱する Recitation Review を実施し、評価の対象とする。筆記形式にて期末試験を行う。

後半 45 分：多読教材のうち、Level 1、Level 2 を中心に出来るだけたくさんの英文に接することで、英文処理能力の向上を図る。一冊の本を読み通す達成感と、読書の楽しみを実感してほしい。

【授業計画】

- 1 Introduction
- 2 Lesson 1: How to Talk About Personality Types: Session 1
- 3 Session 2
- 4 Session 3
- 5 Lesson 2: How to Talk About Doctors: Session 4
- 6 Session 5
- 7 Session 6
- 8 Recitation Review 1
- 9 Lesson 3: How to Talk About Various Practitioners: Session 7
- 10 Session 8
- 11 Session 9
- 12 Session 10
- 13 Lesson 4: How to Talk About Science and Scientists: Session 11
- 14 Session 12
- 15 Recitation Review 2
- 16 Examination

【評価方法】

各レッスンに示されている基本英単語 10 個について、小テストを行い、期末試験とともに成績評価の一部とする。また、出席状況を重視し、欠席・遅刻(早退)には厳しく対処する。(欠課理由の如何にかかわらず、授業欠課 3 回にて成績評価レベルを一段階下げる。また、欠課理由の如何にかかわらず、授業欠課 4 回にて試験の受験資格を失う。なお、授業中における過度の居眠り、または授業進行妨害行為などは、教員の判断により、欠課扱いとする場合がある。) 授業への出欠状況等は、学生が自らの責任において把握、管理すること。

【テキスト】

別途指示

【その他】

授業後半の多読については基本的に評価に含めないが、学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの(書評、書籍紹介、感想など)は、評価対象とし加点する場合がある。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
英語Ⅱ-B 1	講義	必修	1	15	2年次 前期
担当教員	Gerald T. Shirley				

【ねらい】

The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun communicating in English.

【科目の概要】

A wide variety of relevant and meaningful speaking and listening activities will be used in class to maximize student interaction. These activities help students to improve their speaking and listening abilities, increase their fluency in speaking and listening, help them gain self-confidence in communicating in English, and teach them how to use learning strategies. This is a learner-centered class rather than a teacher-centered class, so students should be aware that they will be expected to participate actively in every class.

【授業計画】

- 1 Introduction
- 2 Conversation Topic 1
- 3 Conversation Topic 1
- 4 Conversation Topic 1
- 5 Conversation Topic 2
- 6 Conversation Topic 2
- 7 Conversation Topic 2
- 8 Conversation Topic 3
- 9 Conversation Topic 3
- 10 Conversation Topic 3
- 11 Conversation Topic 4
- 12 Conversation Topic 4
- 13 Conversation Topic 4
- 14 Review
- 15 Test

【評価方法】

Grades will be based on a combination of regular attendance, participation and effort, and a final examination. (注) Attendance and participation are very important. Absence (regardless of reason) from or non-participation in four classes results in a failing grade; in three classes it results in a reduction of the final class grade one level down. Students, not the instructor, are responsible for being aware of their number of absences.

【テキスト】

No textbook will be used. The instructor makes most of the teaching materials used in class, and will provide students with materials for classroom use. Students will be charged a fee for learning materials.

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
保健医療ボランティア論	講義	選択	1	8	2年次 前期後半
担当教員	福元 満治				

【ねらい】

国際的なボランティア活動、いわゆる発展途上国でのボランティア活動の実践報告を通して、ボランティア活動の現状と本質について考える。それを将来の実践につなげる。

【科目の概要】

パキスタン・アフガニスタンでのNGO活動の実際の報告。10カ所の診療所を作り、1600本の井戸を掘り、25.5キロの用水路を建設した日本人医者の活動記録。グローバリズムの現状、メディアの報道の問題についても考え、国際的な視野と異文化理解を深める。(スライド/ビデオ使用)

【授業計画】

1. 現地活動報告 NGOとは何か
2. 現地活動報告 異文化のなかでの医療活動(イスラム文化への偏見を糾す)
3. 現地活動報告 差別されるハンセン病
4. 戦乱のなかでの医療(アフガン戦争)
5. 医者井戸を掘る
6. きれいな水が病気を予防
7. なぜ 医者が用水路を(農業が生存の基本)
8. NGOの課題と役割

【評価方法】

出席とレポート

【テキスト】

講師著書「伏流の思考 私のアフガンノート 増補版」(石風社)

参考資料配賦

【その他】

参考図書

中村哲著「アフガニスタンの診療所から」(筑摩文庫)、「ダラエヌールへの道」、「医者井戸を掘る」、「医者、用水路を拓く」(石風社)

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
日本国憲法	講義	選択	2	15	2年次 前期後半
担当教員	二宮 孝富				

【ねらい】

日本国憲法の歴史的意義についての理解を深めるとともに、私たちの生活と憲法が深くかかわっていることを認識することをねらいとする。

【科目の概要】

日本国憲法の基本的な理念と仕組みと基本的人権にかかわる様々なことがらについて具体的な生活の中での諸問題に即して解説する。

【授業計画】

- 1、近代立憲主義と日本国憲法の歴史
- 2、憲法の基本原理
- 3、法の下での平等・表現の自由・信教の自由
- 4、家族生活に関わる権利 1（婚姻・離婚）
- 5、家族生活に関わる権利 2（親子・相続）
- 6、労働権（職場の人権～パワハラ・セクハラ）
- 7、社会保障・社会福祉と人権
- 8、新しい権利（環境権・プライバシー権など）
- 9、刑事司法と人権（1 犯罪捜査から起訴まで）
- 10 裁判員制度 1
- 11 裁判員制度 2
- 12、刑事司法と人権（2 更生保護制度）
- 13、国家賠償制度・損失補償制度
- 14、統治機構（国会・内閣・裁判所・地方自治）
- 15、日本国憲法の現状と課題

【評価方法】

試験の成績による。

【テキスト】

大矢吉之・奥村文男編『スタンダード法学・憲法』法律文化

【その他】

平成 23 年度のみ開講する。

2～4 年次生で、養護教諭 2 種免許取得を希望する場合は、この科目の単位を取得しなければならない。

この科目の単位は、選択科目の卒業要件単位数には含まれないので注意すること。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
環境保健学詳論	講義	必修	1	15	2年次 前期後半
担当教員	小嶋 光明, 甲斐 倫明, 小野 孝二				

【ねらい】

環境因子が及ぼす健康影響について、基礎から実例までを学ぶ。それによって身近な環境問題への理解を深め、環境保健学的な視点を育む。

【科目の概要】

講義の前半では、環境因子と健康との関係を理解するための基礎的事項を学ぶ。後半では、生活の中で遭遇する身近な環境因子について、具体的な健康影響とその予防・安全管理の実際を学ぶ。

【授業計画】

1. 物理的因子の健康影響
2. 化学的因子の健康影響
3. 生物的因子の健康影響
4. リスクアセスメント
5. 疫学データ解析
6. リスク比較
7. リスクと便益
8. 電気と電磁界
9. 温熱環境と気圧
10. 騒音、振動、悪臭
11. 室内汚染
12. 上水道と下水道
13. 食品添加物と食品中の残留物質
14. 食中毒
15. 試験および解説

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

授業ごとにハンドアウトを配布する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
生体薬物反応論	講義	必修	2	22	2年次 前期
担当教員	吉田 成一				

【ねらい】

生体に対する薬物の作用について理解する。

【科目の概要】

薬物の作用を病気の治療薬という観点から学ぶ。個体レベル、組織レベル、細胞レベル、分子レベルでの作用機序を理解して薬の作用の本質や基本原理を学ぶ。各種薬物と生体との反応機序について学ぶ。

医薬品を使用する際、その意義および医療上で注意すべきことを理解する。

【授業計画】

- 1－2 薬理学総論
- 3 小児、妊婦、高齢者の薬物療法
- 4－5 自律神経作用薬（交感神経）
- 6－7 自律神経作用薬（副交感神経）
- 8 筋弛緩薬、局所麻酔薬
- 9 中枢神経作用薬（全身麻酔薬）
- 10 中枢神経作用薬（鎮痛薬、睡眠薬）
- 11－12 中枢神経作用薬（精神病治療薬）
- 13 オータコイドなど
- 14－15 解熱鎮痛薬、抗炎症薬、心臓作用薬、腎臓作用薬、降圧薬
- 16－17 呼吸器作用薬、消化器作用薬
- 18－19 血液・造血器系作用薬、ホルモン、ビタミン、化学療法薬
- 20－21 抗悪性腫瘍薬、消毒薬、免疫調節薬、免疫療法薬、輸液など
- 22 筆記試験

【評価方法】

試験

【テキスト】

教科書：わかりやすい薬理学 第2版 安原 一、小口 勝司 編（ニューヴェルヒロカワ）

今日の治療薬 水島 裕 編（南江堂）

参考書：臨床で役立つ薬の知識 折井 孝男 監修（学研）

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
健康運動論	講義	必修	1	15	2年次 前期
担当教員	稲垣 敦				

【ねらい】

健康と体力や運動の関連性について学び、運動の必要性を学ぶ。

具体的なトレーニング方法を身につける。

科学的なものの見方や考え方を身につける。

【科目の概要】

進化や発生の過程、生活習慣病や介護予防など最近の健康問題を視野に入れながら講義を進める。

【授業計画】

- 1 科学とは？
- 2 骨
- 3 骨と運動
- 4 筋と筋力
- 5 老化・不活動・運動による筋と筋力の変化
- 6 トレーニングの原則
- 7 筋力トレーニングの方法
- 8 柔軟性とストレッチング
- 9 運動強度と運動量の表現
- 10 持久力
- 11 呼吸循環器系持久力の測定法
- 12 知的ダイエット
- 13 運動技術の学習
- 14 看護ボディメカニクス（1）
- 15 看護ボディメカニクス（2）

【評価方法】

レポート、出席

【テキスト】

なし

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
医療技術論	講義	必修	1	15	2年次 前期前半
担当教員	伊東 朋子, 志賀 寿美代, 秦 さと子, 栗林 好子, 福元 幸志, 佐藤 秋子				

【ねらい】

日常生活の援助技術及び医療に伴う看護技術の基礎を修得する

【科目の概要】

生活援助論の技術をふまえ、診療の補助行為を行うために必要な基本的知識・技術を習得する。診療の補助行為を提供する上で、医療におけるリスクマネジメントについても言及し、事故発生に關与する要因についても考え学習する。

【授業計画】

1. 与薬Ⅰ（経口・皮下・筋肉注射）
2. 与薬Ⅱ（静脈注射・点滴静脈内注射）
3. 検査・採血
4. 排泄Ⅱ（浣腸・摘便）
5. 排泄Ⅱ（導尿）
6. 吸入（酸素・薬液）
7. 吸引（口腔内・上気道内・気管内）
8. 実技試験
9. 筆記試験

【評価方法】

出欠席、提出物、態度、実技試験、筆記試験から総合的に評価する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門2「基礎看護技術Ⅰ」医学書院

系統看護学講座 専門3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
看護疾病病態論Ⅱ	講義	必修	2	30	2年次 前期前半
担当教員	藤内 美保, 石田 佳代子, 河野 梢子, 田中 佳子				

【ねらい】

専門的看護援助の理論としての疾患別の病態生理、臨床像、治療について学ぶ。

【科目の概要】

看護過程を進めるにあたり、疾患面からみた病態と症状面からみた病態の両者を多元的・有機的に把握する能力を修得させることを目的とし、主に成人を対象とした疾患別（系統別）の病態生理・臨床像・治療についての基本的知識を学ぶ。本講義では、人体の構造や機能を理解しやすいように系統解剖学的構成にしたがって知識を整理しながら展開する。

【授業計画】

- 1～6 内分泌・代謝疾患
- 7～10 血液・造血器疾患
- 11～12 筆記試験
- 13～14 生殖器系疾患
- 15～19 循環器疾患
- 20～22 筆記試験
- 23～28 脳・神経系疾患
- 29～32 運動器疾患
- 33～34 筆記試験

【評価方法】

出席状況、筆記試験
詳細は別途資料配布

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3, 4, 6, 7, 9, 10,〕 医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
ヘルスアセスメント	講義	必修	1	15	2年次 前期後半
担当教員	藤内 美保, 石田 佳代子, 河野 梢子, 田中 佳子				

【ねらい】

看護に必要な対象者の情報を五感を駆使して収集する方法およびアセスメント能力を身につける。

【科目の概要】

看護過程におけるアセスメントの位置づけとその重要性を理解し、解剖生理、病態理論および疾患の基本的知識に基づき、身体的の観察を五感を使って、身体所見や検査所見の的確な把握が行える能力を養う。併せて、心理面、環境面、社会面も含めた対象者の情報を収集して対象者の健康問題をアセスメントできる能力を養う。

【授業計画】

- 1 フィジカルアセスメント技術の基礎、健康歴聴取
- 2 呼吸器系障害患者のアセスメント
- 3 学内実習
- 4 循環器系障害患者のアセスメント
- 5 学内実習
- 6 神経系障害患者のアセスメント
- 7 運動器・感覚障害患者のアセスメント
- 8～9 全身フィジカルアセスメント演習
- 10 学内実習
- 11 消化器系障害患者のアセスメント
- 12 学内実習
- 13 筆記試験
- 14～15 実技試験

【評価方法】

出席状況、学内演習評価、筆記試験、レポートなどによる総合評価
詳細は別途資料配布

【テキスト】

藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド，学研，2001

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
成人看護学概論	講義	必修	1	15	2年次 前期前半
担当教員	小野 美喜, 福田 広美, 松本 初美				

【ねらい】

成人期の身体・精神・社会的な特徴をふまえ、成人期に生じる多様な健康問題と対象への看護援助の概要を学ぶ

【科目の概要】

ライフサイクルの中で、特に成人期の位置付けと特徴を、発達、行動、社会、健康の側面から総合的に理解する。成人期の対象に特徴的な健康問題をとらえ、看護実践に必要な知識と援助を導く理論を学ぶ。さらに健康レベルに応じた看護活動を理解する。

【授業計画】

1. ライフサイクルにおける成人の特徴
2. 成人の生活と健康問題
3. 成人への基本的アプローチ
4. 成人の危機的な状況へのアプローチ
5. 健康障害をもつ成人の特徴と理解
6. "
7. 成人の事例検討（グループワーク）
8. "
9. 急性期・回復期にある成人への看護アプローチ
10. "
11. 慢性期にある成人への看護アプローチ
12. "
13. 終末期にある成人への看護アプローチ
14. "
15. 試験

【評価方法】

出席状況（原則 全出席）10%

グループワーク活動、発表内容 20%

筆記試験 70%

【テキスト】

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論』 医学書院

参考図書

『よくわかる中範囲理論』学研

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
老年看護学概論	講義	必修	1	15	2年次 前期前半
担当教員	小野 美喜				

【ねらい】

老年期に生じる健康問題の特徴と高齢者への看護援助の概要を学ぶ。

【科目の概要】

ライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的、心理的、社会的側面から理解し、健康障害を持つ人々に対する看護を学ぶ。慢性疾患や機能障害を持ちながら日常生活を送る人々について、社会との関連の中で医療・看護・福祉のネットワークを理解し、生活の質の維持・向上の面から日常生活の拡大と社会復帰、あるいは死へ向かう看護を考察する。

【授業計画】

1. ライフサイクルにおける老年期の特徴
2. 老年期における健康問題の特徴
3. 高齢者の社会保障と看護の役割
4. 〃
5. 高齢者の ADL と基本的アプローチ
 - 1) コミュニケーション
 - 2) 食事/排泄
 - 3) 移動/視覚/聴覚
6. 高齢者とセルフケア（事例検討 GW）
7. 〃
8. 〃
9. 〃
10. 認知症高齢者の理解
11. 高齢者と看取りのケア
12. 高齢者と退院調整
13. 介護保健サービスにおける施設ケア
14. 介護保健サービスにおける在宅ケア
15. 試験

【評価方法】

筆記試験 80%、事例検討への参加度 10% 出席状況 10%（原則全日）

【テキスト】

ハンドアウトを配布

参考書：『系統看護学講座 専門分野 老年看護学』 医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
成人看護援助論	講義	必修	2	30	2年次 前期後半
担当教員	小野 美喜, 福田 広美, 松本 初美, 井伊 暢美, 江月 優子, 津留英里佳, 橋口 久代				

【ねらい】

成人期の特性をふまえて、健康障害レベルに応じた援助方法を理解する。

【科目の概要】

成人期にある対象の特性をふまえ、特徴的な健康障害時の急性期、慢性期、回復期、終末期の各期における看護援助方法を学ぶことを目的とし、これまで学んだ障害や疾病の知識を土台に科学的な看護実践のために必要な知識と技術を身につける。

【授業計画】

- 1-4 周手術期（術前、術中、術後）にある対象への看護援助
- 5-10 循環器疾患のある対象者への看護援助
- 11-14 消化器疾患のある対象への看護援助
- 15-16 クリティカルケア
- 17 筆記試験
- 18-19 内分泌疾患のある対象への看護援助
- 20-21 代謝疾患のある対象への看護援助
- 22-23 腎疾患のある対象への看護援助
- 24-25 泌尿器疾患のある対象への看護援助
- 26-27 食事療法
- 28-29 性と生殖機能に関する健康問題をもつ対象への看護援助
- 30 筆記試験

【評価方法】

筆記試験 80%、レポート 10%、出席（原則 全出席）10%

【テキスト】

- 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』 医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3, 5, 6, 8, 9』 医学書院
- 『糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版』 日本糖尿病協会・文光堂

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
小児看護学概論	講義	必修	1	15	2年次 前期
担当教員	高野 政子				

【ねらい】

前半は、小児の特性および小児看護の役割と小児医療における倫理を学ぶ。また、世界の中の子どもの医療、教育等の問題、子どもを取り巻く保健・医療・福祉の動向を理解する。後半は、小児各期の栄養や、成長・発達について理解する。

【科目の概要】

小児医療および小児看護学の変遷と専門性を学ぶ。我が国の小児保健と児童福祉施策と、世界の子どもの医療・福祉を学ぶ。また、小児看護の役割と看護上の倫理を学ぶ。さらに小児各期の成長・発達の特性を学ぶ。

【授業計画】

1. 科目オリエンテーション
2. 小児医療の沿革と小児看護の変遷
3. 小児看護の専門性
4. 小児の成長・発達
5. 子ども観の変遷と小児医療における倫理
6. 子どもの権利条約と児童虐待
7. 世界の子どもの健康・医療・福祉
8. 小児と家族を取り巻く社会と福祉施策
9. 小児の栄養、母乳育児、離乳食
10. 子どもの安全と事故防止
11. 子どもとのコミュニケーション
12. 遊びの機能と発達
13. 乳児期の成長と保育(1)
14. 乳児期の成長と保育(2)
15. 乳児健診と予防接種

【評価方法】

出席状況および記録物、レポート等を考慮して評価する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門 22 小児看護学【1】 医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
母性看護学概論	講義	必修	1	15	2年次 前期
担当教員	林 猪都子				

【ねらい】

母性看護の意義及び母性各期における看護の役割と機能について理解する。

【科目の概要】

母性看護学の基本概念を理解し、人間の性と生殖の側面から、女性の全生涯を通じた健康生活の促進と健康問題への援助活動を学び、更に、健康な家庭づくりについて理解し、母性看護の役割と重要性について認識を深める。

【授業計画】

- 1 母性看護とは
- 2 セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ
- 3 母性看護における倫理的問題
- 4 母性看護に有用な概念・理論
- 5 母性看護の歴史的変遷、母子保健施策からみた現状
- 6 母子保健統計からみた動向、母性看護に関する組織と法律
- 7 ウイメンズヘルスの概念、思春期の女性の理解と看護
- 8 成熟期の女性の理解と看護
- 9 女性の健康問題と看護（人工妊娠中絶、性感染症）
- 10 家族計画と受胎調節
- 11 更年期・老年期の女性の理解と看護
- 12 女性の健康問題と看護（児童虐待・DV等）
- 13 女性の健康問題と看護（女性と労働・子育て支援）
- 14 母性看護の対象の理解（生殖器の形態・機能、ホルモン動態）
- 15 母性看護の対象の理解（妊娠と胎児の性分化）
- 16 評価

【評価方法】

出席状況、筆記試験及びレポート課題

【テキスト】

新体系 看護学全書 32 母性看護学① 母性看護学概論 母性保健 女性のライフサイクルと母性看護 新道幸恵編 メヂカルフレンド社

【その他】

参考文献：わが国の母子保健（平成23年）母子衛生研究会編 母子保健事業団 2011
 病気がみえる vol 9 婦人科・乳腺外科 医療情報科学研究所編 メディックメディア
 病気がみえる vol 10 産科 医療情報科学研究所編 メディックメディア

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
母性生理・病態論	講義	必修	2	22	2年次 前期後半・後期
担当教員	林 猪都子, 猪俣 理恵, 肥田木 孜, 谷口 一郎, 堀永 孚郎, 宇津宮 隆史, 上野 桂子, 佐藤 昌司, 西田 欣広				

【ねらい】

女性のライフサイクルにおける主要な疾患の生理・病態を理解する。

【科目の概要】

女性のライフサイクルにおける性と生殖に関連する生理的変化を踏まえて、産婦人科学的な疾患の生理・病態および検査・治療について理解する。さらに、妊娠・分娩・産褥の母体の身体的・生理的変化および胎児または新生児の生理や成長を踏まえ周産期における特有な疾患の生理・病態および治療について学ぶ。

【授業計画】

1. 不妊症の病態生理
2. 不妊症の診断と治療
3. 不妊症の対象の理解
4. 胎児の発育、胎児-胎盤系
5. 妊娠に伴う母体の変化
6. 妊婦の健康診査
7. 母体と胎児の管理
8. 妊娠期の不快症状
9. 妊娠期異常 1
10. 妊娠期異常 2
11. 妊娠期異常 3
12. 妊娠期異常 4
13. 子宮頸がん
14. 子宮体がん
15. 絨毛性疾患
16. 月経異常・更年期障害
17. 子宮筋腫、子宮内膜症、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣腫瘍の看護
18. 分娩の生理
19. 分娩の経過
20. 分娩期異常 1
21. 分娩期異常 2
22. 分娩期異常 3
23. 筆記試験

【評価方法】

出席状況、筆記試験及びレポート課題

【テキスト】

病気が見える Vol.9 婦人科・乳腺外科 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア
 病気が見える Vol.10 産科 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア
 新体系 看護学全書 33 母性看護学② 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護 新道幸恵編 メヂカルフレンド社

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
看護と遺伝	講義	必修	1	8	2年次 前期後半
担当教員	定金 香里, 岩崎 香子, 吉河 康二				

【ねらい】

遺伝学の基礎およびヒトの遺伝病とその発現のしくみを理解し、看護者として患者の抱く遺伝病や遺伝子診断についての疑問に的確に答えられるだけの問題解決能力を育てる。

【科目の概要】

メンデルの法則をはじめとする遺伝学の基本概念を十分に理解した上で、ヒトにおける遺伝子の発現および調節のメカニズムを学習し、体質や個体差、さらに疾病発生における遺伝要因のかかわりについて学ぶ。さらに医療現場で用いられている遺伝子解析技術についても知識を深める。それらの知識をもとに、遺伝子疾患と遺伝カウンセリングの現場において遺伝学や遺伝子検査がどのように応用されているのかについて学ぶ。

【授業計画】

- 1 遺伝学の基礎：染色体と DNA (定金)
- 2 遺伝学の基礎：染色体と遺伝 (定金)
- 3 遺伝学の基礎：メンデルの法則 (定金)
- 4 突然変異とその生物学的意義：突然変異のしくみ、遺伝的多型 (岩崎)
- 5 遺伝子と疾患：体質と遺伝、遺伝子とガン (岩崎)
- 6 臨床遺伝学概説：家系図、メンデル遺伝病 (吉河)
- 7 臨床遺伝学概説：多因子遺伝病、ミトコンドリア遺伝病、染色体異常症 (吉河)
- 8 遺伝カウンセリング概説：再発率の予測、カウンセリング技術、遺伝学的検査 (吉河)
- 9 試験

【評価方法】

筆記試験を行う。3人の試験の合計点が6割以上で単位認定とする。

【テキスト】

定金：特にテキストは指定せず、資料を配布する。

- (参考資料) 遺伝看護：安藤 広子、溝口 満子、塚原 正人、医歯薬出版、2002
 ヒューマンバイオロジー：シルビア・メイダー、医学書院、2005
 細胞の分子遺伝学 第4版：Bruce Alberts、ニュートンプレス、2004

岩崎：特にテキストは指定せず、資料を配布する。

- (参考資料) 遺伝看護：安藤 広子、溝口 満子、塚原 正人、医歯薬出版、2002

吉河：特にテキストは使用しない。資料は配付しない。

- (参考資料) 遺伝カウンセリングマニュアル (改訂第2版) 新川詔夫、福嶋義光：南江堂、2003

【その他】

(4) 2年次開講科目
後期開講

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
発達心理学	講義	選択	1	8	2年次 後期前半
担当教員	吉村 匠平				

【ねらい】

人間は、環境要因と遺伝要因の相互作用の間で揺れ動く存在である。性格、知性、行動様式といった人の在り方が、単一の要因で規定されることはありえないということを具体的に理解するとともに、人間という存在を複眼的に解釈する柔軟性を養う。物事を一人で抱え込んで考えるのではなく、様々な人と協同で考える機会を提供する。

【科目の概要】

講義前半では、言語、運動の発達に加え、知能を測定する方法について学び、発達を計量的に明らかにしようとするアプローチの利点と脆弱性について学ぶ。講義後半では、前半に学んだ知識をベースに、自閉症について学び、発達という概念を、相対化できる態度を養う。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション、言語発達
- 2 運動発達
- 3 障がいについての理解
- 4 知能の測定と知能テスト体験
- 5 自閉症（広汎性発達障がい）の理解
- 6 自閉症スペクトラムという概念の理解
- 7 自閉症（広汎性発達障がい）の子どもとの関わり方
- 8 自閉症（広汎性発達障がい）の進化心理学的理解
- 9 試験

【評価方法】

毎回講義終了後に作成するショートレポート（約 30%）、テスト（約 30%）、授業への参加度（約 30%）、時間外学習状況（約 10%）で、総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。質問・意見がある場合には、授業ブログ上の質問板に投稿すること。

【その他】

毎回くじびきによる座席指定を行う。ペアワークに加え、全体で議論をしながら理解を深めていく時間を設ける。講義中には、頻繁に指名され発言が要求される。授業内容の理解を促進するような発言（話題提供）に関しては、平常点を配点する。このことを前提に受講すること。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
英語Ⅱ-A2	講義	必修	1	15	2年次 後期
担当教員	宮内 信治				

【ねらい】

前期に引き続き、Vocabulary Builder 教材を用い、英語の語彙の習得、増強を図る。また、様々な難易度の語彙・英文で書かれた本を多読し、英文処理能力の更なる向上を目指す。

【科目の概要】

前半 45 分：教科書に Word Power Made Easy を使用する。ギリシャ語、ラテン語を起源とする英単語を、語源を手掛かりにその意味を理解し、習得することを目的とする。各レッスンごとに設定された 10 の基本単語については、記憶の定着を図るために小テストを行い評価する。期間内に 2 度、教科書から抜粋した英文を暗唱する Recitation Review を実施し、評価の対象とする。筆記形式にて期末試験を行う。

後半 45 分：Level 2 の本を読んだ後に、Easy Starts や Level 1 の本を読むことで、自分の能力の向上を実感してほしい。辞書は一切使用しない。

【授業計画】

- 1 Lesson 5: How to Talk About Liars and Lying: Session 14
- 2 Session 15
- 3 Session 16
- 4 Session 17
- 5 Session 18
- 6 Lesson 6: How to Talk About Actions: Session 19
- 7 Session 20
- 8 Recitation Review 3
- 9 Session 21
- 10 Session 22
- 11 Session 23
- 12 Lesson 7: How to Talk About Various Speech Habits: Session 24
- 13 Session 25
- 14 Session 26
- 15 Recitation Review 4
- 16 Examination

【評価方法】

各レッスンに示されている基本英単語 10 個について、小テストを行い、期末試験とともに成績評価の一部とする。また、出席状況を重視し、欠席・遅刻(早退)には厳しく対処する。(欠課理由の如何にかかわらず、授業欠課 3 回にて成績評価レベルを一段階下げる。また、欠課理由の如何にかかわらず、授業欠課 4 回にて試験の受験資格を失う。なお、授業中における過度の居眠り、または授業進行妨害行為などは、教員の判断により、欠課扱いとする場合がある。) 授業への出欠状況等は、学生が自らの責任において把握、管理すること。

【テキスト】

別途指示

【その他】

授業後半の多読については基本的に評価に含めないが、学習内容の習得・達成を何らかの形で自主的に表現し提出したもの(書評、書籍紹介、感想など)は、評価対象とし加点する場合がある。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
英語Ⅱ-B2	講義	必修	1	15	2年次 後期
担当教員	Gerald T. Shirley				

【ねらい】

The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun communicating in English.

【科目の概要】

A wide variety of relevant and meaningful speaking and listening activities will be used in class to maximize student interaction. These activities help students to improve their speaking and listening abilities, increase their fluency in speaking and listening, help them gain self-confidence in communicating in English, and teach them how to use learning strategies. This is a learner-centered class rather than a teacher-centered class, so students should be aware that they will be expected to participate actively in every class.

【授業計画】

- 1 Introduction
- 2 Conversation Topic 5
- 3 Conversation Topic 5
- 4 Conversation Topic 5
- 5 Conversation Topic 6
- 6 Conversation Topic 6
- 7 Conversation Topic 6
- 8 Conversation Topic 7
- 9 Conversation Topic 7
- 10 Conversation Topic 7
- 11 Conversation Topic 8
- 12 Conversation Topic 8
- 13 Conversation Topic 8
- 14 Review
- 15 Test

【評価方法】

Grades will be based on a combination of regular attendance, participation and effort, and a final examination. (注) Attendance and participation are very important. Absence (regardless of reason) from or non-participation in four classes results in a failing grade; in three classes it results in a reduction of the final class grade one level down. Students, not the instructor, are responsible for being aware of their number of absences.

【テキスト】

No textbook will be used. The instructor makes most of the teaching materials used in class, and will provide students with materials for classroom use. Students will be charged a fee for learning materials.

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
放射線健康科学	講義	必修	1	15	2年次 後期前半
担当教員	甲斐 倫明, 小嶋 光明, 小野 孝二				

【ねらい】

現代医療に不可欠な放射線の物理、生物・健康影響、その防護について基本的な事項を学ぶ。

【科目の概要】

放射線は種々の環境有害因子の中で、健康影響に関する情報が豊富であり、安全問題に対する体系的な考え方が比較的確立している。現代の医療において放射線の利用は不可欠なものであり、これらの原理と人体影響について医療関係者が理解すべき基本的な事項を学ぶ。

【授業計画】

- 1 放射線影響と放射線防護の歴史
- 2 放射線とは何か
- 3 放射性同位元素と放射能
- 4 身近な放射線・放射線源
- 5 放射線と物質との相互作用
- 6 放射線の線量
- 7 放射線の生体応答 -DNA 損傷と突然変異
- 8 放射線の生体応答 -染色体異常と細胞死
- 9 放射線の健康影響（確率的影響）
- 10 放射線の健康影響（確率的影響）
- 11 放射線リスクの評価とその不確かさ
- 12 安全の考え方と放射線防護基準
- 13 患者のための放射線防護
- 14 医療における放射線利用
- 15 まとめ

【評価方法】

試験を実施する。

【テキスト】

授業ごとにハンドアウトを配布する。

参考図書：放射線健康科学（杏林書院）、看護の実践に役立つ放射線の基礎智識（医学書院）

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
環境保健学演習	演習	選択	1	8	2年次 後期後半
担当教員	甲斐 倫明, 小嶋 光明, 小野 孝二				

【ねらい】

環境問題でとりあげられるリスク情報を理解するためには、その情報の定量的な側面の理解が不可欠である。演習では、計算演習を通して環境リスクに関する基礎的概念を理解する。

【科目の概要】

この演習では、2人ずつのグループになって、Excelを用いて、環境問題に関連するデータの解析を行う。

【授業計画】

- 1 演習の進め方について
- 2 生命表
- 3 平均余命の計算
- 4 がん死亡統計（部位別年齢階級別）
- 5 がん罹患統計（ " ）
- 6 年齢調整罹患率
- 7 データのバラツキと基準値（血圧データの分布など）
- 8 レポート作成

【評価方法】

出席とレポートで総合評価を行う。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
健康運動学演習	演習	選択	1	8	2年次 後期前半
担当教員	稲垣 敦				

【ねらい】

健康運動論で学んだ内容に関する測定実習を行ない、理解を深める。

【科目の概要】

身体機能や体力、ボディメカニクス等に関する実習を通して、自己評価し、簡単なレポートにまとめる。

【授業計画】

- 1 重心・バランス（1）
- 2 重心・バランス（2）
- 3 筋力・パワー（1）
- 4 筋力・パワー（2）
- 5 呼吸循環器系持久力（1）
- 6 呼吸循環器系持久力（2）
- 7 身体活動量・エネルギー消費量

【評価方法】

レポート、出席

【テキスト】

なし

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
看護アセスメント概論	講義	必修	1	15	2年次 後期
担当教員	藤内 美保, 石田 佳代子				

【ねらい】

個人、家族、地域社会のヘルスニーズを達成するための方法論である看護過程について理解する。

【科目の概要】

健康障害をもつ対象者における看護の必要性をアセスメントし、問題解決を踏まえた看護過程を展開するための基礎理論を学ぶ。

【授業計画】

- 1 看護過程の概要
- 2 看護過程と看護理論
- 3～5 看護過程の展開：アセスメント
- 6～8 看護過程の展開：診断
- 7～8 看護過程の展開：計画
- 9～10 看護過程の展開：実施・評価
- 11～15 看護過程の展開：事例
- 16 筆記試験、レポート

【評価方法】

筆記試験、レポート
詳細は別途資料配布

【テキスト】

リンダ・J・カルペニート：看護診断ハンドブック（第8版），医学書院，2009 他

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
看護アセスメント演習	演習	必修	1	15	2年次 後期
担当教員	藤内 美保, 石田 佳代子, 河野 梢子, 田中 佳子				

【ねらい】

看護過程の主にアセスメントに焦点を当てて、既習の関連科目の知識・理論の統合を図るとともに、対象者の健康問題を解決していく科学的思考を育成することにより、第3段階実習への橋渡しとする。

【科目の概要】

糖尿病などの慢性症状や心筋梗塞などの急性症状をもつ事例を提示し、グループごとに事例を担当しパネルディスカッション形式で検討することにより、心理・環境的側面、症状・病態的側面などから患者を総合的に把握するアセスメント能力を養う。併せて、総合的・全人的な患者像の把握と多面的な理解からの看護診断と適切な看護介入の方針を立案することのできる能力を養う。

【授業計画】

- 1 事例演習オリエンテーション
- 2～5 事例演習（グループワーク）
- 6 中間発表会
- 7～10 事例演習（グループワーク）
- 11～12 全体発表会

【評価方法】

出席、グループワークへの参加度、演習記録、発表などから総合的に評価する。
詳細は別途資料配布

【テキスト】

リンダ・J・カルペニート：看護診断ハンドブック（第8版），医学書院，2009 他

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
老年看護援助論	講義	必修	2	30	2年次 後期
担当教員	小野 美喜, 福田 広美, 松本 初美, 井伊 暢美, 江月 優子, 津留 英里佳, 橋口 久代				

【ねらい】

老年期の特性をふまえて、健康問題に応じた援助方法を理解する。

【科目の概要】

老年期の身体、心理、社会的機能の特性をふまえ、老年期に代表的な障害や疾病をもつ高齢者への看護援助方法を身につける。特に障害や疾病が生活に及ぼす影響をとらえ、高齢者の生活の質を考えた援助方法について考える能力を身につける。

【授業計画】

1-6 呼吸・鼻咽喉器疾患のある対象への看護援助

7-10 血液・免疫のある対象への看護援助

11 筆記試験

12-15 筋・骨格系疾患のある対象への看護援助

16-21 脳・神経疾患のある対象への看護援助

22-23 感覚器障害のある対象への看護援助

24-29 緩和ケア

30 筆記試験

【評価方法】

筆記試験 80%、レポート 10%、出席（原則 全出席） 10%

【テキスト】

『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2, 4, 7, 10, 11, 12, 13, 14, と別巻 緩和ケア』医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
母性看護援助論 I	講義	必修	1	15	2年次 後期
担当教員	林 猪都子, 猪俣 理恵, 戸高 佐枝子				

【ねらい】

妊娠および分娩が母児及びその家族に及ぼす影響とその看護について学ぶ。

【科目の概要】

妊娠・分娩による母体及び胎児の生理的変化とその影響因子や母子とその家族の看護について理解する。

【授業計画】

1. 妊娠の経過
2. 妊婦への看護
3. 妊婦への看護
4. 妊娠と栄養
5. 妊婦の心理、分娩の計画と準備
6. 産婦への看護
7. 産婦への看護
8. フリースタイル分娩
9. 妊産婦と胎児・新生児および家族への看護
10. 国内・海外における母性看護活動
11. 妊婦の異常と看護 1
12. 妊婦の異常と看護 2
13. 妊婦の異常と看護 3
14. 産婦の異常と看護 1
15. 産婦の異常と看護 2
16. 評価

【評価方法】

出席状況、筆記試験

【テキスト】

新体系看護学全書 33 母性看護学② 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護 新道幸恵編 メヂカルフレンド社.

病気がみえる vol10 産科 医療情報科学研究所編 メディックメディア

ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 佐世正勝/石村由利子編 医学書院

ナーシング・グラフィカ 31 母性看護学 母性看護技術 横尾京子他 メディカ出版

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
精神看護学概論	講義	必修	1	15	2年次 後期
担当教員	影山 隆之				

【ねらい】

人の精神的健康問題について多角的に理解できるようになる。2年次前期までに人の心理社会的側面について学んだ知識が基礎となるので、じゅうぶんな復習が必要である。紹介する参考書は自主的に多読することを強く推奨する。

【科目の概要】

精神的健康問題について多角的に理解するための視点・モデルを学ぶ。主な精神症状、状態像、精神疾患、および精神医療で行われる主な治療法について、基礎的な事項を理解する。精神看護と精神保健の歴史を知り、今日の精神科医療と精神保健に求められることとその背景を理解する。

【授業計画】

1. 心のしくみと心の健康
2. ストレス、危機、悲嘆
3. 家族と人間関係
4. 精神症状と状態像
5. 観察と検査
- 6～10. 主な精神疾患（統合失調症、気分障害、認知症、アルコール依存症、摂食障害、ストレス関連障害）
- 11～12. 精神医療での治療と援助（薬物療法、精神療法、作業療法）
13. 精神医療と歴史
14. 精神看護と社会・法
15. 試験

【評価方法】

中間と最終の筆記試験、授業中の小テスト・小レポートによる。

【テキスト】

『系統看護学講座 専門分野 II 精神看護学の基礎 精神看護学[1]』（医学書院）
その他、必要に応じてハンドアウトを配付する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
保健福祉システム論	講義	必修	1	15	2年次 後期前半
担当教員	平野 互				

【ねらい】

国民の生命・健康と生活を支える保健・医療・福祉サービスを提供するための制度と考え方を学ぶ。

【科目の概要】

保健・医療・福祉は、憲法に謳われた国民の権利を保障するためにある。まず生存権と社会保障の意義を理解した上で、個人および集団の生活を支え、健康を保持・増進するための保健・医療・福祉に関する法制度および行政上のシステムを学び、さらに保健・医療・福祉のそれぞれの領域における看護職の役割を理解する。

【授業計画】

- 1 権利としての保健・福祉－社会保障と「生存権」
- 2 " －生活の保障（1）：公的年金制度
- 3 " －生活の保障（2）：生活保護
- 4 " －受療権の保障：医療保険制度
- 5 保健・福祉の制度と関係法規－保助看法と関連諸法
- 6 " －医療法と医療計画
- 7 " －保健所と保健行政の概要
- 8 " －感染症対策
- 9 " －母子保健・児童福祉
- 10 " －高齢者医療と高齢者福祉
- 11 " －介護保険制度
- 12 " －障がい概念
- 13 " －障がい者福祉とノーマライゼーション
- 14 保健・福祉のルール－守秘義務と個人情報保護法、インフォームド・コンセント
- 15 <期末試験>

【評価方法】

筆記試験による。講義時間内に期末試験を実施する。

【テキスト】

講義ごとにハンドアウトを配布する。

自習のための参考図書を次項に示す。

【その他】

参考図書

厚生統計協会「国民衛生の動向」2011-12年版

系統看護学講座「健康支援と社会保障制度(3) 社会福祉」(医学書院)

同 「健康支援と社会保障制度(4) 看護関係法令」(医学書院)

津村智恵子「三訂 地域看護学」(中央法規)

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
地域看護学概論	講義	必修	1	15	2年次 後期
担当教員	江藤 真紀, 赤星 琴美, 高波 利恵, 堀 裕子				

【ねらい】

地域看護の基本的な考え方と活動方法を学ぶ。

【科目の概要】

個人や家族、集団、地域への看護活動を行うための、地域看護及びヘルスプロモーションの概念に基づいた活動の原則と方法を学ぶ。

【授業計画】

- 1 地域看護学の概念
- 2 地域看護の変遷
- 3 プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション
- 4 地域看護活動の場と特性
- 5 公衆衛生の意義と考え方（地域保健活動概要）
- 6 保健所の概要と保健師の役割
- 7 市町村（保健センター）の概要と保健師の役割
- 8 地域看護活動の対象と方法：個人、家族、集団、地域社会
- 9 個人・家族を対象とした地域看護活動の展開
- 10 集団と地域社会を対象とした地域看護活動の展開
- 11 対象別活動地域看護活動の展開：母子保健
- 12 対象別活動地域看護活動の展開：成人保健、高齢者保健
- 13 対象別活動地域看護活動の展開：精神保健、障害者保健、感染症対策、難病対策
- 14 地域看護活動の実際
- 15 試験

【評価方法】

出席状況と授業参加態度、授業中の課題、筆記試験で総合的に評価する。

【テキスト】

津村智恵子編著 『三訂 地域看護学』 中央法規

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
国際看護学概論	講義	必修	1	8	2年次 後期前半
担当教員	李 笑雨, 桑野 紀子				

【ねらい】

This course is an introduction to understand of the concept of International Nursing and health, the global perspectives on health, and the global cooperation of nursing and health.

【科目の概要】

Understanding for the concepts related to International Nursing and Health included globalization, culture, networks, and global health care problems.

【授業計画】

- 1, Orientation
- 2, Introduction to the Nature of International Nursing.
 - Definition, Characteristics, Aims, Relations with some Factors
- 3, Main Nursing concepts in International Nursing
- 4, Trends of International Nursing and Health
 - Globalization Nursing, International Cooperation in Health and Nursing
Trans-cultural Nursing
- 5 International Cooperation & Globalization in Health and Nursing
 - Definition, Models for Services in Globalization,
History of Globalization of Health and Nursing, Global Health Care Problems
- 6, Risks to Health and Life in the World
 - Introduction, Risks Factors, Mortality Causes
- 7, International Networking of Health-World Health Organization-
- 8, Test

【評価方法】

Written test on course contents 50%
Assignment reports 20%
Class attendance and active participation for discussion 30%

【テキスト】

Text contents will be distributed through web site one week ahead.

【その他】

Classes/activities are proceeded in English.

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
看護の倫理	講義	必修	1	8	2年次 後期後半
担当教員	平野 亙, 小野 美喜				

【ねらい】

臨床における具体的な事例をとおして、看護専門職に必要な倫理的態度、生命倫理学の知識と倫理的判断能力を習得する。

【科目の概要】

Bioethics（生命倫理）と看護の倫理規定に関する基本原則を理解し、倫理的判断の基本を学ぶ。さらに、看護職の直面する諸々の倫理的問題の解決に向けて、事例演習を通じて、保健・医療・福祉における倫理的意思決定について学ぶ。

【授業計画】

- 1) Bioethics：生命倫理の展開と課題
- 2) Profession の責任と倫理、看護の倫理規程
- 3) 倫理的判断の方法
- 4) 看護師の価値観と文化、社会規範
- 5) 生殖と出生に関わる倫理
- 6) 生と死のかたちに関わる倫理
- 7) 医療従事者の責任と事故対応
- 8) 人間の尊厳、個人の尊重と自立支援

以上のテーマで、講義のほか、テキストの事例による演習を行なう。

【評価方法】

筆記試験は実施せず、最終レポートによる評価を行うが、講義への出席と予習を前提として事例演習を行い、演習での発表および随時課すミニレポートの提出状況を勘案して総合的に成績を評価する。

【テキスト】

赤林 朗・大林雅之編『ケースブック 医療倫理』（医学書院）

【その他】

参考図書 小西恵美子編『看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ』（南江堂）

(5) 3年次開講科目
前期開講

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
成人・老年看護学演習	演習	必修	1	15	3年次 前期
担当教員	小野 美喜, 福田 広美, 松本 初美, 井伊 暢美, 江月 優子, 津留 英里佳, 橋口 久代				

【ねらい】

臨床実践能力の向上を図るため、成人期および老年期の人々を対象に、健康問題に応じた看護過程の展開と看護の方法を学ぶ

【科目の概要】

成人期、老年期の特徴を踏まえ、臨床の場で健康問題を持つ急性期、慢性期、終末期の対象に援助必要な看護過程の展開と援助技術を学内で修得するために、模擬事例を対象に看護問題を査定し、個別性あるケアプランを立案・実践・評価する方法を身につける。

【授業計画】

1-2 高齢者の健康問題と看護の展開－アセスメント

3-4 高齢者の健康問題と看護の展開－技術練習（1）

5-6 高齢者の健康問題と看護の展開－技術練習（2）

7-8 高齢者の健康問題と看護の展開－技術練習（3）

9-10 急性期・慢性期にある成人の健康問題と看護の展開－アセスメント

11-12 急性期・慢性期にある成人の健康問題と看護の展開－技術練習（1）

13-14 急性期・慢性期にある成人の健康問題と看護の展開－技術練習（2）

15 急性期・慢性期にある成人の健康問題と看護の展開－技術練習（3）

【評価方法】

看護過程記録 70%、グループ討議 20%、レポート 10%、出席（原則 全出席）10%

【テキスト】

『基本から学ぶ 看護過程と看護診断』 医学書院

『カルペニート看護診断マニュアル』 医学書院

『看護診断ハンドブック 第8版』 医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
発達と援助論	講義	必修	2	30	3年次 前期前半
担当教員	高野 政子, 小代 仁美, 薬師寺 綾				

【ねらい】

小児の各期における成長発達の特性と環境を理解し、小児と小児をとりまく環境との相互作用を理解するための理論と看護への活用方法を学ぶ。

【科目の概要】

【授業計画】

1. 幼児期の成長発達と課題 (1)
2. 幼児期の成長発達と課題 (2)
3. 学童期の成長発達と課題
4. 思春期・青年期の成長発達と課題
5. 家族の特徴と家族アセスメント
6. 小児看護で活用する理論
7. 小児の病態と看護 (1)
8. 小児の病態と看護 (2)
9. 小児の病態と看護 (3)
10. 小児の病態と看護 (4)
11. 小児の病態と看護 (5)
12. 病気をもつ小児の療養生活と看護
13. 病気をもつ小児と家族の看護
14. 発達障害のある小児の理解と看護 (1)
15. 発達障害のある小児の理解と看護 (2)
16. 未熟児の看護
17. 親子関係に問題のある場合の看護 (1)
18. 親子関係に問題のある場合の看護 (2)
19. 小児のフィジカルアセスメント (1)
20. 小児のフィジカルアセスメント (2)
21. 小児における主な疾患についてのGW (1)
22. 小児における主な疾患についてのGW (2)
23. 小児の呼吸器系の疾患と看護
24. 小児の循環器系の疾患と看護
25. 小児の膠原病・代謝系の疾患と看護
26. 小児の消化器系の疾患と看護
27. 小児の泌尿器系の疾患と看護
28. 小児の脳神経系の疾患と看護
29. 小児感染症と看護
30. テスト

【評価方法】

筆記試験 (70%)、出席 (20%) GWの参加状況 (10%)

【テキスト】

系統看護学講座 専門 22 小児看護学【1】、専門 23 小児看護学【2】 医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
小児看護学演習	演習	必修	1	15	3年次 前期後半
担当教員	高野 政子, 小代 仁美, 薬師寺 綾				

【ねらい】

小児の主要な疾患・健康障害に対して行われる治療や看護について学び、看護過程の展開や、援助技術を学ぶ。

【科目の概要】

主要な小児の疾患の病態と治療・看護の要点を学び、小児と家族に対する援助方法を学ぶ。

また、小児の健康障害を保健・医療・教育など総合的な観点から捉え、紙上事例を通して看護上の問題を抽出し必要な看護ケアなど看護過程を展開して学ぶ。また、小児看護における援助技術を演習を通して習得する。

【授業計画】

1. 小児の看護過程の展開
2. 小児の悪性腫瘍と看護
3. 事例検討GW (1)
4. 事例検討GW (2)
5. 急性・慢性の小児の事例検討
6. 予後不良の小児の事例検討
7. 手術を必要とする小児の事例検討
8. 先天異常のある小児の事例検討
9. 小児看護技術演習 (1)
10. 小児看護技術演習 (2)
11. 小児看護技術演習 (3)
12. 小児看護技術演習 (4)
13. 小児の救急法 (1)
14. 小児の救急法 (2)
15. 試験

【評価方法】

筆記試験 (70%)、出席(10%)、参加と発言等の状況 (20%)

【テキスト】

系統看護学講座 専門 22 小児看護学【1】、専門 23 小児看護学【2】 医学書院
写真でわかる小児看護技術 インターメディアカ

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
母性看護援助論Ⅱ	講義	必修	1	15	3年次 前期
担当教員	林 猪都子, 猪俣 理恵				

【ねらい】

妊娠期、分娩期、産褥期の母子及びその家族のニーズと母性看護の役割について学ぶ。

【科目の概要】

妊娠・分娩・産褥期の生理及び心理・社会的特徴とその援助、新生児の看護など

【授業計画】

1. 妊娠経過の全体像
2. 産褥の生理（身体的・心理的・社会的変化）
3. 褥婦の状態のアセスメント
4. 褥婦に対する看護ケア
5. 母子関係の確立のための援助（母乳育児、母子相互作用など）
6. 褥婦にみられる異常
7. 異常状態にある褥婦の看護
8. 分娩期の全体像
9. 帝王切開を受けた産褥婦の看護
10. 新生児の特徴
11. 正常新生児の看護（出生直後から生後 24 時間以内の看護）
12. 正常新生児の看護（生後 24 時間以降の看護）
13. 新生児にみられる異常
14. 異常状態にある新生児の看護（新生児仮死・分娩外傷・低出生体重児・高ビリルビン血症など）
15. 母子分離時の看護
16. 評価

【評価方法】

筆記試験、出席状況、授業態度

【テキスト】

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学[2]、森恵美ほか、医学書院
2. ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図、佐世正勝／石村由利子、医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
母性看護学演習	演習	必修	1	15	3年次 前期
担当教員	林 猪都子, 猪俣 理恵, 安東 照美				

【ねらい】

母性看護の実践に必要な看護技術を理解し基本的看護技術を習得する。

【科目の概要】

モデル人形およびペーパーペイシエントを用いた母性看護技術の実践

【授業計画】

1. 母性看護学演習オリエンテーション
2. 母性看護学演習①（沐浴他）
3. 母性看護学演習②（妊婦健診、レオポルド、妊婦体験、CTGモニター、内診台体験、悪露交換、新生児計測・バイタルサイン測定）
4. 課題学習①（グループワーク：実習ノート作成・指導用パンフレット作成）
5. 課題学習②（ “ ” ）
6. 課題学習発表会①（実習ノート・パンフレット）
7. 課題学習発表会②（ “ ” ）
8. 看護過程演習（講義：母性看護における看護過程）
9. 看護過程演習（事例提示、グループワークオリエンテーション）
10. 看護過程演習（グループワーク：アセスメント）
11. 看護過程演習（グループワーク：看護診断）
12. 看護過程演習（グループワーク：看護計画立案）
13. 看護過程演習（グループワーク：実施・評価）
14. 看護過程事例発表会①
15. 看護過程事例発表会②

【評価方法】

課題レポート、出席状況、参加態度で総合的に判断する。

【テキスト】

1. 写真とCDでわかる周産期ケアマニュアル 立岡弓子 医学芸術者
2. ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 佐世正勝／石村由利子 医学書院
3. その他、必要に応じて資料を配布する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
助産学概論	講義	選択	1	15	3年次 前期
担当教員	梅野 貴恵				

【ねらい】

助産とは何かを理解し、助産師の責務と役割について学ぶ。

【科目の概要】

助産の基本概念および女性をとりまく社会的背景を認識し、助産師が専門職として社会に対して果たしていくべき役割と重要性について認識を深める。さらに助産師として自覚をもって積極的に取り組む姿勢を養う。

【授業計画】

- 1～2. 助産の概念
3. 出産の変遷
- 4～5. 助産の歴史、お産と文化
6. 女性をとりまく社会の変化
7. 親子関係をめぐる問題
8. 助産学を構成する理論
- 9～10. 助産師の職制と業務（関係法規、母子保健行政の歴史）
11. 助産師と倫理
- 12～13. 日本と諸外国の助産師教育
14. ICM（国際助産師連盟）の活動 - 諸外国の助産師活動
15. 評価

【評価方法】

筆記試験、レポート、出席状況等で総合的に評価する。

【テキスト】

1. 助産学講座 1 基礎助産学 1 助産学概論：我部山キヨ子他、医学書院、2008.
2. 助産学講座 4 基礎助産学 4 母子の心理・社会学：村瀬聡美他、医学書院、2008.

【その他】

参考文献：助産師基礎教育テキスト第1巻 助産概論、山元あい子、日本看護協会出版会、2009.
 助産師基礎教育テキスト第2巻 女性の健康とケア、吉沢豊予子、日本看護協会出版会、2009.
 わが国の母子保健(平成23年)母子衛生研究会編、母子保健事業団、2011

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
助産診断・技術学Ⅰ	講義	必修	1	26	3年次 前期・後期
担当教員	関屋 伸子, 石岡 洋子, 佐藤 昌司				

【ねらい】

助産過程の展開に必要な助産技術及び助産の実践に必要な基本的技術を学び妊産婦の主体性を尊重した出産を支援する能力を養う。

【科目の概要】

妊娠期及び分娩期における母子の健康状態に関するアセスメント及びマタニティ診断とそれに基づく妊娠期の保健指導や分娩準備教育、親になる準備教育など、母子とその家族への具体的な支援を修得する。

【授業計画】

1. 助産診断・技術学とは
2. 妊娠期の助産診断 1
3. 妊娠期の助産診断 2
4. 妊娠期の助産診断 3
5. 妊婦への支援 1
6. 妊婦への支援 2
7. 妊婦への支援 3
8. 妊婦への支援 4
9. 妊婦への支援 5
10. 妊娠期のマタニティ診断とケア計画 1
11. 妊娠期のマタニティ診断とケア計画 2
12. 妊娠期における保健指導計画 1
13. 妊娠期における保健指導計画 2
14. 妊娠期における保健指導計画 3
15. 中間評価
16. 分娩期の助産診断 1
17. 分娩期の助産診断 2
18. 分娩期の助産診断 3
19. 分娩期の助産診断 4
20. 産婦への支援 1
21. 産婦への支援 2
22. 産婦への支援 3
23. 産婦への支援 4
24. 産婦への支援 5
25. 産婦への支援 6
26. 最終評価

【評価方法】

筆記試験、レポート、出席状況、演習等の参加状況

【テキスト】

- 1) 助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ 第4版 堀内成子編 医学書院
- 2) 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期第4版 我部山キヨ子、武谷雄二編 医学書院
- 3) 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩・産褥期第4版 我部山キヨ子、武谷雄二編 医学書院
- 4) 実践マタニティ診断第2版 日本助産診断・実践研究会編 医学書院
- 5) 今日の助産改訂第2版 北川真理子、内山和美編 生田克夫医学監修 南江堂

【その他】

- 1) 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 我部山キヨ子、大石時子編 医学書院
- 2) 周産期看護 看護基準・標準看護計画・クリニカルパス
- 3) 周産期看護マニュアル よくわかるリスクサインと病態生理 中井章人 東京医学社
- 4) これだけは知っておきたい周産期ケア Q&A 大田博明、米山万里江編 総合医学社

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
助産診断・技術学Ⅱ	講義	選択	1	26	3年次 前期・後期
担当教員	梅野 貴恵, 樋口 幸				

【ねらい】

女性のライフサイクルにおけるセクシュアリティに関する諸問題を理解し、マタニティサイクルにある褥婦および新生児の助産診断を行い、助産を実践するために必要な知識と技術を学ぶ。

【科目の概要】

I. 女性のライフサイクルにおけるセクシュアリティをめぐる健康問題への援助を行う基本的な知識・技術を習得する。

II. マタニティサイクルにある産褥、新生児・乳幼児の生理的及び心理社会的特徴を理解し、助産診断に基づいて、助産を実践するための基本的な知識・技術を習得する。

【授業計画】

1. 生殖器の形態と機能 (1)
2. 生殖器の形態と機能 (2)
3. セクシュアリティ
4. セクシュアリティとリプロダクティブ・ヘルス
5. 家族計画
6. 受胎調節法の実際
7. 産褥期の生理：正常産褥期の経過
8. 産褥期の援助：産褥期の日常生活と動静
9. 産褥期の援助：産褥期の心理社会的側面
10. 産褥期の異常：異常褥婦の経過と援助
11. 中間評価
12. 新生児の生理：身体的生理的特徴
13. 新生児の助産診断とケア
14. 異常新生児の援助
15. 新生児演習（新生児救急蘇生法含む）
16. 産褥のケア
17. 産褥のケア演習
18. 母乳育児促進への援助
19. 乳房ケア演習
- 20～22. 乳幼児の助産診断とケア
23. 演習①産褥退院指導要領作成
24. 演習②産褥退院指導の実際
25. 演習③産褥退院指導の実際
26. 最終評価

【評価方法】

筆記試験、レポート、演習、出席状況等で総合的に評価する

【テキスト】

我部山キヨ子他編：助産学講座2 母子の基礎科学第4版 医学書院

我部山キヨ子他編：助産学講座3 母子の健康科学第4版 医学書院

堀内成子編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ第4版 医学書院

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 第4版 医学書院

横尾京子編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 第4版 医学書院

久保秀史：受胎調節指導用テキスト、日本家族計画協会

松原まなみ、山西みな子著：母乳育児の看護学 MCメディカ出版

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
助産診断・技術学Ⅲ	講義	必修	1	22	3年次 前期・後期
担当教員	関屋 伸子, 宇津宮 隆史, 佐藤 昌司, 飯田 浩一, 豊福 一輝, 中村 聡, 嶺 真一郎, 軸丸 美枝子, 後藤 清美				

【ねらい】

妊娠経過の正常・異常を判断するために必要な最新の医学的な知識と技術を習得し、周産期における緊急事態に対応する姿勢と能力を養う。

【科目の概要】

女性の性機能に対する知識に基づき、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における一般的な医学的管理及び各期における主な異常に対する病態とその検査・治療・予後について理解する。

【授業計画】

1. 性機能と女性の健康 1
2. 性機能と女性の健康 2
3. 不妊症とその検査・治療 1
4. 不妊症とその検査・治療 2
5. 妊婦の一般管理 1
6. 妊婦の一般管理 2
7. 妊娠期の異常と管理 1
8. 妊娠期の異常と管理 2
9. 妊娠期の異常と管理 3
10. 胎児の異常とその治療・予後
11. 分娩の一般管理
12. 分娩期の異常と管理 1
13. 分娩期の異常と管理 2
14. 分娩期の異常と管理 3
15. 分娩期の異常と管理 4
16. 産褥期の異常と管理 1
17. 産褥期の異常と管理 2
18. 新生児の一般管理
19. 新生児期の異常とその管理 1
20. 新生児期の異常とその管理 2
21. 新生児期の異常とその管理 3
22. 筆記試験・レポート

【評価方法】

筆記試験、出席状況

【テキスト】

- 1) 最新産科学 正常編 荒木勤 文光堂
- 2) 最新産科学 異常編 荒木勤 文光堂
- 3) 新生児学入門第3版 仁志田博司 医学書院

【その他】

- 1) 産科婦人科用語集・用語解説集 改訂第2版 日本産科婦人科学会編 金原出版株式会社
- 2) 標準産科婦人科学 第3版 丸尾猛、岡井崇編 医学書院
- 3) 周産期管理 池ノ上克監修 MCメディカ出版
- 4) 妊娠高血圧症候群 (PIH) 管理ガイドライン 2009 日本妊娠高血圧学会編 MEDICAL VIEW
- 5) 産科救急の初期診療 北川道弘編 永井出版
- 6) 改訂第7版医師国家試験完全対策 コンパス産婦人科 西嶋重光著 メック出版

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
精神看護援助論	講義	必修	1	15	3年次 前期前半
担当教員	大賀 淳子				

【ねらい】

臨床の場で必要となる精神看護学の知識について学ぶ。

【科目の概要】

精神科医療施設をはじめとする様々な臨床の場で、精神的な問題を持つ人々に対する看護を実践するために必要となる基本的知識を学ぶ。地域精神保健の法制度とシステム、精神看護におけるコミュニケーション、見立て、検査法、治療法などを臨床場面に活用しやすいように具体的に学ぶ。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 精神科以外での精神看護、学校・職場における精神看護
3. 地域における精神看護 1
4. 地域における精神看護 2
5. 精神科入院治療と看護の展開 1
6. 精神科入院治療と看護の展開 2
7. 主な精神症状とその看護 1
8. 主な精神症状とその看護 2
9. 統合失調症患者とその家族へのケア 1
10. 統合失調症患者とその家族へのケア 2
11. うつ病患者とその家族へのケア 1
12. うつ病患者とその家族へのケア 2
13. 認知症患者とその家族へのケア 1
14. 認知症患者とその家族へのケア 2
15. 筆記試験

【評価方法】

ミニレポート（毎回提出）、小論文および筆記試験の結果を総合して評価する。なお本科目での評価がCとなった者については、精神看護学演習および精神看護学実習の評価に反映させる場合がある。

【テキスト】

その都度、必要な資料を配付する。

【その他】

精神看護学概論の知識が基礎となるので、十分に復習をしておくこと。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
精神看護学演習	演習	必修	1	15	3年次 前期後半
担当教員	影山 隆之, 大賀 淳子, 津隈 亜弥子				

【ねらい】

対象者の精神的健康に焦点を当てた看護を実践するために、対象者の人となりの全体的な理解、自己理解、および対象者との相互関係についての理解を深める方法について、体験的に学ぶ。精神科医療、入院医療以外の精神保健医療について具体的に理解を深める。

【科目の概要】

ワークシート等を用いた事例演習、ロールプレイ、精神科医療に関する特別講義、精神科における非薬物療法についての演習等を行う。

【授業計画】

1～6. 事例演習

7～14. 非薬物療法についての演習、関係者による特別講義等

15. 精神看護学実習について

(外部講師の都合により順序を変更する可能性がある)

【評価方法】

全回の無遅刻・無欠席を、単位認定のための最低条件とする。さらに各回のレポートおよび課題への取り組み姿勢、発表・討論の状況を加味して、総合判定を行なう。

【テキスト】

その都度、必要な資料を配付する。

【その他】

場所を変更する場合にはその都度指示をする。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
家族看護学概論	講義	必修	1	15	3年次 前期
担当教員	赤星 琴美, 江藤 真紀, 高波 利恵, 堀 裕子				

【ねらい】

家族看護の基本的な考え方と援助方法を学ぶ。

【科目の概要】

家族を単位としてとらえ、家族が自らの健康問題を主体的に解決するために必要とされる家族看護の基本的な考え方と援助方法を学ぶ。

【授業計画】

- 1 家族看護とは
- 2 家族の構造と機能
- 3 家族を理解するための諸理論
- 4 家族看護における看護職の役割
- 5 〃
- 6 家族支援の視点
- 7 家族の介護力の対応能力アセスメント
- 8 家族の危機的状況と受容過程
- 9 家族のセルフケア能力の向上と自立支援・エンパワーメント
- 10 家族看護過程
- 11 家族看護過程（演習）
- 12 〃
- 13 〃
- 14 〃
- 15 試験

【評価方法】

出席状況と授業参加態度、グループワークへの参加状況、筆記試験で総合的に評価する。

【テキスト】

鈴木和子・渡辺裕子著 『家族看護学-理論と実践 第3版』 日本看護協会出版会

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
保健活動論	講義	必修	2	30	3年次 前期後半・ 後期後半
担当教員	桜井 礼子, 平野 互, 高波 利恵, 井ノ口 明美				

【ねらい】

学校保健、産業保健、災害看護を通して地域における保健活動のあり方、考え方を学ぶ。

【科目の概要】

個人および集団の健康の保持・増進、疾病予防のための看護職としての支援のあり方を理解し、保健活動の具体的な実践方法およびその評価方法について学ぶ。

救急救命、災害看護を通して、地域での救急看護活動のあり方を理解し、災害時の救急救命法の技術を修得する。

【授業計画】

前期後半

- 1 看護職と地域保健活動
- 2 救命救急医療と看護活動
- 3-4 健康教育
- 5-6 健康教育の実際
- 7 救急救命処置と看護（講義）
- 8-10 救急救命処置と看護（実技） 健康教育

後期後半

- 11-16 災害看護活動
- 17 試験
- 18 産業看護の考え方・あり方
- 19 産業保健における健康管理
- 20-23 産業保健活動の実際
- 24 学校保健の組織と看護職
- 25-27 学校保健活動の実際— I
- 28-29 学校における保健学習
- 30 試験

【評価方法】

救急救命処置については、実技試験を必須
講義・演習での小レポート
筆記試験

【テキスト】

講義ごとにハンドアウトを配布する。
災害看護：教科書指定

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
基礎看護技術演習	演習	必修	1	15	3年次 前期後半
担当教員	市瀬 孝道, 桜井 礼子, 藤内 美保, 関屋 伸子, 秦 さと子, 高波 利恵, 猪俣 理恵, 桑野 紀子, 津留 英里佳, 津隈 亜弥子, 薬師寺 綾				

【ねらい】

対象への安全・安楽に配慮した看護基本技術の実践能力を身に付けることをねらいとし、具体的には以下の4点を習得することが目的である。

- 1) 日常生活援助技術は、1人で確実に実施できる
- 2) 患者の安全・安楽を保障する技術は確実に実践でき、リスクの判断ができる
- 3) 単に技術のhow-toだけではなく、技術の根拠・方法の選択など判断能力を養う
- 4) 患者への配慮を実践に反映できる

【科目の概要】

4段階実習で身につけておくべき基本的看護技術が実施できるよう、事例を提示し、事例に応じて学生は練習をする。担当教員は3～4名の学生を受け持ち指導、最後に技術チェックを行う。実習直前に担当教員による技術チェックを行う。事例は必修項目と選択項目があり、1学生2題のチェックを受ける。学生は自己評価をし、自己の実践能力を振り返り課題を明確にする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2～14 個別練習
- 15～16 技術チェック

【評価方法】

チェックリストによる評価で7割以上
練習時間

【テキスト】

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
在宅看護論	講義	必修	1	15	3年次 前期前半
担当教員	桜井 礼子, 平野 互, 佐藤 弥生				

【ねらい】

在宅看護の基本的な考え方と援助方法を学ぶ。

【科目の概要】

疾病や障害をもちながら地域で生活する人々とその家族に対して、在宅看護を行うために必要とされる基本的な考え方や援助方法を理解する。さらに、近年多様化する医療依存度の高い人へのケアや在宅ターミナルケアについて学ぶ。

【授業計画】

- 1 在宅看護とは
- 2 在宅看護の場と特性
- 3 医療依存度の高い人へのケア
- 4 社会資源の種類と活用(医療施設から在宅への移行を含む)
- 5 家族の特性と生活支援の方法
- 6 家族の特性と生活支援の方法
- 7 在宅看護過程
- 8 在宅看護過程(演習)
- 9 在宅看護過程(演習)
- 10 在宅看護ケースマネジメント
- 11 在宅看護ケースマネジメント(演習)
- 12 在宅看護ケースマネジメント(演習)
- 13 在宅ターミナルケア
- 14 訪問看護ステーションにおける看護活動の実際
- 15 試験

【評価方法】

筆記試験

授業内のレポート

【テキスト】

木下由美子編著 『新版 在宅看護論』 医歯薬出版株式会社
 ハンドアウトの資料

【その他】

(6) 3年次開講科目
後期開講

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
英語Ⅲ	講義	必修	1	15	3年次 後期後半
担当教員	Gerald T. Shirley , 宮内 信治				

【ねらい】

英語 A: 医療・看護・福祉に関連する英文を読解する。

英語 B: The aims of this class are for students to improve their communication skills in English, and to have fun communicating in English.

【科目の概要】

英語 A: 400 語程度からなる英文の解釈を通して、文法理解と語彙増強を促進するとともに、パラグラフ構成の理解をもとに、全体の構造や論理の流れに着目するよう促し、文章理解力の涵養を図る。文章の一部を暗唱することによる定着も随時図る。

英語 B: A wide variety of relevant and meaningful speaking and listening activities will be used in class to maximize student interaction.

【授業計画】

- 1 Conversation Topic 1
- 2 Conversation Topic 2
- 3 Conversation Topic 3
- 4 Conversation Topic 4
- 5 Conversation Topic 5
- 6 Conversation Topic 6
- 7 Conversation Topic 7
- 8 Review
- 9 Introduction, Session 1
- 10 Session 2 - 3
- 11 Session 4 - 5
- 12 Session 6 - 7
- 13 Session 8 - 9
- 14 session 10 - 11
- 15 Review
- 16 Examination

【評価方法】

出席状況を重視し、欠席・遅刻(早退)には厳しく対処する。学習態度、試験に基づいて総合評価する。(注) Attendance and participation are very important. Absence (regardless of reason) from or non-participation in four classes results in a failing grade; in three classes it results in a reduction of the final class grade one level down. Students, not the instructor, are responsible for being aware of their number of absences.

【テキスト】

別途指示

【その他】

(注) 前半と後半は担当者が入れ代わる。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
環境リスク論	講義	選択	1	8	3年次 後期後半
担当教員	小嶋 光明, 甲斐 倫明				

【ねらい】

現代の様々な環境問題を多角的な視点からとらえ、リスク論の意義と限界を学ぶ。

【科目の概要】

現在の環境問題は影響の及ぶ範囲が広く、しかも様々な要因が複雑に絡み合っている。ある有害因子が人の健康や環境に与える影響を直接検証することは困難であり、間接的な情報や理論を基に推定され対策がとられることが多い。個々の具体的なテーマを通して、これらの事項を学ぶ。

【授業計画】

1. 環境リスク論とは
2. BSE のリスク
3. 遺伝子組換え食品のリスク
4. 環境ホルモンのリスク
5. 鳥インフルエンザのリスク
6. 化学物質の発がんリスク
7. 生態リスク
8. 地球温暖化のリスク

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

授業ごとにハンドアウトを配布する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
応用情報処理学	講義	選択	1	8	3年次 後期後半
担当教員	坂口 隆之, 佐伯 圭一郎				

【ねらい】

自ら統計手法を学び、その手法によるデータ解析を体験します。これによって、座学だけでは難しい、統計手法に対する深い理解を得ることができます。また、学んだことを整理・要約して発表することで、プレゼンテーション能力を高めます。以上の一連のプロセスを通して、看護研究への基礎体力を養う事が、本科目のねらいです。

【科目の概要】

いくつかのグループに分かれて、グループ単位で1つの統計手法について深く学習をします。統計手法は、重回帰分析、分散分析、主成分分析、因子分析、ロジスティック回帰分析、コレスポネンデンス分析、を想定しています。もちろん、希望があれば、これ以外の統計手法をテーマとすることもできます。グループごとに、選んだ統計手法について学びながら、実際のデータに適用し、結果を解釈してもらいます。そして、最後に、他のグループの学生にも理解できるように、学んだ成果をわかりやすく発表してもらう予定です。

【授業計画】

1. ガイダンス, グループ決めとテーマの選定
2. テーマについての学習(1)
3. テーマについての学習(2)
4. データ解析(1)
5. データ解析(2)
6. 発表の準備
7. 発表(1)
8. 発表(2)

【評価方法】

出席と作成資料および発表により総合的に評価します。

【テキスト】

なし。参考図書は逐次紹介します。

【その他】

履修者数によっては、上記の計画を多少修正する場合があります。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
運動療法特論	講義	選択	1	8	3年次 後期後半
担当教員	稲垣 敦				

【ねらい】

運動療法の理論を学び、運動メニューを作成、指導できるようにする。

【科目の概要】

運動療法の理論と方法を講義する。

運動負荷試験を実習する。

【授業計画】

- 1 運動療法概論
- 2 運動処方概論（1）
- 3 運動処方概論（2）
- 4 運動負荷試験実習
- 5 運動療法各論（1）
- 6 運動療法各論（2）
- 7 運動療法各論（3）

【評価方法】

レポート、出席

【テキスト】

なし

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
保健管理学演習	演習	必修	1	15	3年次 後期後半
担当教員	桜井 礼子, 平野 互, 井ノ口 明美				

【ねらい】

具体的な事例を用いて、看護職の視点から多面的に検討し、問題解決能力を養う。

【科目の概要】

小グループに分かれて、問題提示－解決方式（Problem-Oriented Approach）の学習を行う。地域で生活する人々の健康や生活にかかわる具体的な事例を取り上げ、保健・医療・福祉の視点から考察を加える過程を通して、保健・医療・福祉に関する広範な状況に対して適切に対処する方法を学習する。

【授業計画】

学校保健、産業保健、地域保健（母子保健、成人保健、老人保健など）、災害看護、在宅看護等の各分野から具体的な状況を設定した課題を設定し、以下の点についてレポートをまとめ発表を行う。

- 1) 個々の状況における健康問題に対する援助方法に関する考察
- 2) 保健指導・健康教育など教育技法を用いたプレゼンテーションの企画立案と実施
- 3) 保健活動の根拠法、社会制度や社会資源の活用の理解

演習は以下のスケジュールで進める。

- 1 オリエンテーション
グループ分けの後、各グループに1題ずつ検討課題を提示する。
 - 2 グループ学習
演習室・図書館等で、グループ毎に資料収集・考察を行う。
 - 3 発表会
グループ毎に各課題のプレゼンテーションを行い、思考過程を明らかにする。
- 他のグループの発表を通して経験を共有するとともに、討論を通じてより深い考察を行う。

【評価方法】

①出席、②グループワークの発表内容、③発表会での討議への参加状況、④レポート以上を総合して判定する。

【テキスト】

各グループで課題の解決に必要な文献等を系統的に検索して学習する。ただし、図書館にない本・雑誌等の文献については、適宜相談に応じる。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
地域生活支援論	講義	必修	2	30	3年次 後期後半
担当教員	江藤 真紀, 赤星 琴美, 高波 利恵, 堀 裕子				

【ねらい】

保健所、市町村を基盤とした行政機関における地域看護活動の基本的考え方と展開方法を学ぶ。

【科目の概要】

地域看護活動の展開過程を通して、地域で生活している人びとの健康問題の特性を理解し、人びとが健康問題を自ら解決できるための具体的な支援方法を対象別に学ぶ。

【授業計画】

- 1～2 地域看護活動の展開（地域看護とは など）
- 3～4 地域看護活動の展開（地域診断とは など）
- 5 地域におけるケアシステム
- 6 地区組織化活動（セルフヘルプグループ含む）
- 7 家庭訪問
- 8 健康相談
- 9～12 地域看護診断（演習）
- 13 地域看護診断振り返り
- 14 対象別地域看護活動：難病保健活動
- 15～16 対象別地域看護活動：成人保健活動
- 17～18 対象別地域看護活動：母子保健活動
- 19 対象別地域看護活動：高齢者保健活動
- 20 対象別地域看護活動：障害者保健活動
- 21～22 対象別地域看護活動：精神保健活動
- 23 対象別地域看護活動：感染症保健活動（危機管理含む）
- 24 対象別地域看護活動：感染症保健活動（保健師活動の実際）
- 25～26 感染症保健活動（演習）
- 27 対象別地域看護活動：保健師の災害看護活動
- 28 市町村における地域看護活動
- 29 試験
- 30 第1回地域看護学実習オリエンテーション

【評価方法】

出席状況と授業参加態度、グループワークへの参加状況、授業中の態度、筆記試験で総合的に評価する。

【テキスト】

津村智恵子編著「三訂 地域看護学」中央法規

宮崎美砂子・北山三津子他編「最新 地域看護学総論」日本看護協会出版会

宮崎美砂子・田村須賀子編「最新 地域看護学 各論1」日本看護協会出版会

宮崎美砂子・春山早苗編「最新 地域看護学 各論2」日本看護協会出版会

国民衛生の動向 2011/2012

国民の福新動向 2011/2012

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
国際看護比較論	講義	必修	1	8	3年次 後期後半
担当教員	李 笑雨, 桑野 紀子				

【ねらい】

The purpose of this course is an understanding of the new roles and responsibilities of nursing in diverse eco-geological, socioeconomic, cultural and political contexts, and competency in global communication in international nursing and health milieus.

【科目の概要】

International comparison of health issues, health care systems and human resources of nations in different levels of development, and interrelated health, nursing and aid/relief networks are presented and discussed in the classroom.

【授業計画】

- 1, Overview of International Nursing
- 2, Issues and Challenges for International Nursing and Health Development
-Economic Globalization, Poverty, Population group & gender, culture, Environment, Health Care System
- 3, Global Strategies of Health care Issues
-Historical review of world health movement & it's strategies
International Networking history, Strategies of health for all in 21st C.-
- 4, Human Resources Development and Planning
- 5, Workforce related to ICN
- 6, International Relief Organization: JICA, Red Cross
- 7, Test

【評価方法】

Written test on course contents 50%
Assignment reports 20%
Class attendance & active participation in class 30%

【テキスト】

Text contents will be distributed through web site one week ahead.

【その他】

Classes/activities are conducted in English.

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
国際看護学演習	演習	必修	1	8	3年次 後期後半
担当教員	李 笑雨, 桑野 紀子				

【ねらい】

The purpose of this course is the development of perspectives on national, regional and global health issues and strategies, the realization of the roles and responsibilities of nursing in the development of the strategic planning on nursing/health, and the development of global leadership potential in nursing and health.

【科目の概要】

Students attempt to analyze the health/nursing issues and strategies of a specific nation or group of nations through active participation in group work/study and in presentations.

【授業計画】

Activities:

Group work/study and presentations; carried out by students in groups of 4-5, according to prior planned schedule.

Themes for the group works/studies and presentations;

- I . Health issues and strategies of a population group
- II . Health issues and strategies of a Nation
- III . Human resources for health/nursing of a nation/group of nations
- IV . Impact and context of the aid of JICA: of a Nation

【評価方法】

Group work; content (reports)(20%), participation(20%), presentation (verbal/visual aids)(20%), Attendance(20%), Active participation for group work(20%)

【テキスト】

Reference and visual materials are all given to students.

【その他】

Course activities are conducted in English.

(7) 4年次開講科目
前期開講

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
生体科学特論	講義	選択	1	8	4年次 前期後半
担当教員	安部 眞佐子				

【ねらい】

生体科学の科目の中で広く人体の構造、機能と代謝を学んだが、栄養に焦点をあて、特にこれからの看護、保健において重要となる分野およびトピックスについて深く追求する。また、これまで看護の各段階で学んだ食事療法や、ライフステージでの栄養についてまとめる。

【科目の概要】

看護の各段階で学んだ食事療法を振り返り、疾病の回復への栄養補給の方法を概観し、チーム医療で役立つ基礎知識を身につける。また、幼児から高齢者までの栄養補給のありかたをまとめ、生体の状態に適応した栄養補給について考える。

【授業計画】

1. 栄養補給法
2. 循環器疾患の栄養
3. 消化器疾患の栄養
4. 腎疾患の栄養
5. 栄養代謝性疾患の栄養
6. 術前・術後の栄養管理
7. 妊産婦とこどもの栄養
8. 高齢者の栄養

【評価方法】

レポートと出席

【テキスト】

系統看護学講座 栄養食事療法 医学書院

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
病態特論	講義	選択	1	8	4年次 前期後半
担当教員	市瀬 孝道				

【ねらい】

病気経過中の臨床データ、病理解剖所見、病理組織所見等を総合して病態の全体像を把握・理解する。

【科目の概要】

本講義では幾つかの症例を取り上げて、ホルマリン固定された病気臓器の肉眼観察と組織標本の顕微鏡観察を行う。また、その臨床データ、病理解剖所見を総合して病態の全体像を解説する。この講義以外に機会があれば実際に病理解剖の見学を行う場合もある。

【授業計画】

- 1－3 2 症例：臓器の肉眼観察と組織標本の顕微鏡観察
- 4－6 2 症例：臓器の肉眼観察と組織標本の顕微鏡観察
- 7, 8 1 症例：臓器の肉眼観察と組織標本の顕微鏡観察

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし。

必要に応じて資料を配付する。

参考書：エキスパートナース M00K19. 「わかりやすい病態生理」 照林社

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
運動指導特論	講義	選択	1	8	4年次 前期前半
担当教員	稲垣 敦, 大賀 淳子, 大津留 麗理				

【ねらい】

様々な対象者の運動、レクリエーション、ゲームを学び、指導できるようにする

【科目の概要】

様々な対象者の運動、レクリエーション、ゲームを体験する。
指導法および指導上の注意点について学ぶ。

【授業計画】

- 1 精神障害者の運動指導：運動表現療法1 (精神看護学：大賀)
- 2 精神障害者の運動指導：運動表現療法2 (精神看護学：大賀)
- 3 妊婦の運動指導：妊婦・産褥体操 (未定)
- 4 子供の運動指導：子供のレクリエーション (健康運動学：稲垣)
- 5 自然の中での運動指導：ネイチャー・ゲーム (健康運動学：稲垣)
- 6 中高齢者の運動指導1：介護・腰痛予防 (健康運動学：稲垣)
(「お元気しゃんしゃん体操」を含む)
- 7 中高齢者の運動指導2：生活習慣病予防 (健康運動学：稲垣)
(ウォーキング、スロージョギングを含む)
- 8 中高齢者の運動指導3：ヨガ (非常勤講師：大津留)
(ストレッチを含む)

【評価方法】

レポート、出席

【テキスト】

資料を配付する

【その他】

実技が中心なので、受講者が6名に満たない場合は開講しません。

実施場所や準備は、各教員が毎回掲示等で連絡します。

運動のできる服装および筆記用具は毎回準備して下さい。

授業の順序は天候等により変わります。

地域実習や総合実習で住民に運動指導する人には受講することを勧めます。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
環境倫理学	講義	選択	1	8	4年次 前期後半
担当教員	甲斐 倫明				

【ねらい】

現代社会の新しい倫理的問題を環境問題の中から学ぶ

【科目の概要】

現代および将来の環境問題を社会的な視点から検討するために、環境倫理について理解する。現代の生命倫理の事例と対比させたり、環境問題の事例に基づきながら、生態学的視点および社会経済的視点から見た環境問題に対する環境倫理の役割について学ぶ。

【授業計画】

- 1 応用倫理学とは
- 2 生命倫理学と環境倫理学の違い
- 3 人間中心主義と生命中心主義
- 4 生物種の生存権
- 5 世代間倫理
- 6 地球の有限性
- 7 環境倫理のトピックス
- 8 まとめ

【評価方法】

試験を実施する。

【テキスト】

参考図書：加藤尚武、新・環境倫理学のすすめ（丸善ライブラリー）

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
実務情報処理学	講義	選択	1	8	4年次 前期後半
担当教員	佐伯 圭一郎				

【ねらい】

保健・医療の場における情報の活用能力を高める。

【科目の概要】

これまでに修得した情報処理能力を看護師・保健師の実務の場を想定した具体的事例を通じて、さらに高度なものへと高める。

健康教育や病院実務、地域保健を想定し、疫学、統計学、情報処理の応用力を養う。

【授業計画】

- | | | | |
|---|---------------------------|---|----------------|
| 1 | イントロダクション | － | 保健医療看護における情報処理 |
| 2 | 健康教育における情報処理の実例 | | |
| 3 | 地域保健における疫学の応用 | | |
| 4 | 発表・資料作成における技術（デザイン演習を中心に） | 1 | |
| 5 | 〃 | | 2 |
| 6 | 事例を想定した情報処理演習 | 1 | |
| 7 | 〃 | | 2 |
| 8 | 〃 | | 3 |

取り扱う題材については、受講者の要望によって若干調整を行う予定である。

【評価方法】

出席およびレポート（6～8回）により評価を行う。評価の配分は、出席 50%、授業中の質疑応答 20%、レポート 30%。

【テキスト】

指定しない。参考図書は適宜紹介する。

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
助産診断・技術学IV	講義	選択	1	16	4年次 前期前半
担当教員	梅野 貴恵, 関屋 伸子, 石岡 洋子, 樋口 幸				

【ねらい】

助産に関連する基本知識・技術を、実践で統合、応用する能力を養う。

【科目の概要】

助産診断に基づいて分娩期のペーパーペイシエントを用いて助産過程の展開を行う。また、分娩期にある対象に助産を実践するための基本的な分娩介助技術を習得する。

【授業計画】

1～8 分娩介助技術演習

9～16 助産過程の展開

【評価方法】

筆記試験、レポート、演習、出席状況などで総合的に評価する。

【テキスト】

日本助産診断・実践研究会編著；実践マタニティ診断、医学書院
進 純郎著；助産師必携 会陰保護技術、MCメディカ

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
地域生活援助論Ⅱ	講義	必修	1	15	4年次 前期前半
担当教員	江藤 真紀, 赤星 琴美, 高波 利恵, 堀 裕子				

【ねらい】

地域看護に関連する既習の知識・技術を、実践で統合、応用する能力を養う。

【科目の概要】

地域看護学実習前の演習として位置づけ、地域看護診断、家庭訪問・健康相談における基本的な技術を習得する。

【授業計画】

- 1 演習オリエンテーション
- 2～7 地域看護診断
- 8～13 家庭訪問・健康相談の技術
- 14 まとめ
- 15 地域看護学実習オリエンテーション

【評価方法】

出席状況、グループワークへの参加状況、プレゼンテーション（ロールプレイ）の内容、レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

津村智恵子編著 『三訂 地域看護学』 中央法規
宮崎美砂子・北山三津子他編 『最新 地域看護学総論』 日本看護協会出版会
宮崎美砂子、田村須賀子編 『最新 地域看護学 各論1』 日本看護協会出版会
宮崎美砂子、春山早苗編 『最新 地域看護学 各論2』 日本看護協会出版会
国民衛生の動向 2010/2011
国民の福祉の動向 2010/2011

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
原書講読	講義	必修	1	8	4年次 前期
担当教員	市瀬 孝道				

【ねらい】

健康・医療・福祉関連の文献を講読し、看護、医学に関する基本的な用語を学び、専門分野における英語力、論理的な思考力を養う。

【科目の概要】

卒業研究を進めるにあたって必要とされる原著、原書を種々の手段を用いて検索、選択し、教員の指示に従って講読する。本原書講読は英文の正確な読み方を学ぶのではなく、専門論文の大意を把握し、研究を行う上での論理的な展開法を学び得ることを目的とする。

【授業計画】

- ・原著、原書の選択
- ・文献、原書内容をまとめ、発表要旨原稿を作成
- ・発表要旨原稿を用いて、卒業研究と実施する研究室ごとに行う抄読会で発表（卒業研究 期間中3回以上）

【評価方法】

発表要旨原稿及び発表内容によって評価。

【テキスト】

講読する原著、原書は教員の指示に従って決定すること。

【その他】

発表要旨原稿の作成法や発表法、抄読会の日時等は所属研究室の指示に従うこと。

単位は総合看護学とあわせ、看護研究の基礎Ⅱとする。

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
卒業研究	講義	必修	5	100	4年次 前期・後期
担当教員	市瀬 孝道				

【ねらい】

個々の学生が指導教官と相談のうえ研究テーマを選び、既修の知識・技術をもとに、論文作成・研究発表の体験を通して、研究テーマの中の問題解決や仮説を検証するために必要かつ適切な研究方法とは何かを学び、将来の研究活動の基本を修得する。

【科目の概要】

学生は、配属された研究室で教員の提示する研究テーマを参考に、自分の取り組むテーマを選択し、研究方法、論文作成、研究発表の指導を受ける。

【授業計画】

- | | |
|---------------|----------------------------------|
| 1. 研究室配属 | 平成 23 年 2 月 1 日 (火) |
| 2. 卒業研究テーマ提出 | 平成 23 年 3 月 31 日 (木) |
| 3. 卒業論文要旨提出 | 平成 23 年 12 月 2 日 (金 : 17:00) |
| 4. 卒業論文提出 | 平成 23 年 12 月 9 日 (金 : 12:00) |
| 発表用パワーポイント締切り | 同上 |
| 5. 卒業研究発表会 | 平成 23 年 12 月 12 日 (月) , 13 日 (火) |

【評価方法】

【テキスト】

【その他】

学生は配属研究室の教員の指示に従うこと。

(8) 4年次開講科目
後期開講

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
総合人間学	講義	必修	2	15	4年次 後期
担当教員	市瀬 孝道				

【ねらい】

人間性の育成の集大成として、人間として、また医療従事者として、備えておくべき豊かな知性と感性を養う。

【科目の概要】

さまざまな分野で活躍し、かつ造詣の深い講師の方々から、ものの見方や考え方を学ぶ。講義は訓話・講演形式で行う。

【授業計画】

【評価方法】

出席状況

【テキスト】

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
地域助産活動論	講義	選択	1	15	4年次 後期前半
担当教員	関屋 伸子, 梅野 貴恵, 宮崎 文子, 宮崎 豊子, 生野 末子				

【ねらい】

住民の多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供できるための能力を養うとともに、保健・医療・福祉関係者と連携・共同しながら地域の母子保健を推進するための能力を養う。また、助産業務の管理、助産所の運営の基本並びに周産期医療システムについて学び、周産期における医療安全の確保と医療事故への対応及び責任について理解する。

【科目の概要】

地域母子保健の意義及び国内外における母子保健の現状と動向を理解する。また、女性のライフサイクル支援や新生児訪問、褥婦訪問、地域子育て支援アプローチなど具体的な助産師の参画について学ぶ。関連法規と助産の義務・責任について理解し、病産院及び助産所における助産業務管理、助産と医療経済、周産期の医療事故とリスクマネジメントについて学ぶとともに、周産期医療システムにおける助産師の役割を考察する。

【授業計画】

1. 地域母子保健の意義、母子保健の現状と動向
2. 地域母子保健行政の体系
3. 地域母子保健活動の展開：参画、展開の場、女性のライフサイクル支援
4. 地域母子保健活動の展開：新生児訪問、褥婦訪問、地域子育て支援アプローチ
5. 国際化時代の母子保健
6. 助産管理とは（管理の基本概念とプロセス、助産管理の概念）
7. 助産業務管理（業務管理、労務管理、人事管理、情報管理、安全管理）
8. 助産と医療経済
9. 助産サービス提供システムとその評価
10. 関連法規と助産の義務・責任
11. 周産期医療システムと助産師の役割
12. 周産期の医療事故とリスクマネジメント
13. 病産院における助産業務管理
14. 助産所における助産業務管理
15. 筆記試験

【評価方法】

筆記試験、レポート、出席状況

【テキスト】

- 1) 助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 武谷雄二、前原澄子編 医学書院
- 2) 助産学講座 9 助産管理 武谷雄二、前原澄子編 医学書院
- 3) わが国の母子保健 平成 23 年 財団法人 母子衛生研究会 母子保健事業団
- 4) 新版 助産師業務要覧 増補版 日本看護協会監修 日本看護協会出版会

【その他】

科目名	授業形態	必修選択	単位	授業回数	開講年次
総合看護学	講義	必修	2	15	4年次 後期
担当教員	市瀬 孝道, 桜井 礼子, 藤内 美保, 関屋 伸子, 秦 さと子, 高波 利恵, 猪俣 理恵, 桑野 紀子, 津留 英里佳, 津隈 亜弥子, 薬師寺 綾				

【ねらい】

基礎看護教育の総仕上げとして、人間科学講座の専門基礎科目と看護の専門科目で学んだ知識・理論を有機的に統合し、適切なアセスメント能力および看護技術を提供できる能力を養う。

【科目の概要】

専門的知識に基づき、医療・保健現場において遭遇しやすい状況（場面、事例）について、アセスメントすると共に、看護技術のロールプレイを行う。

課題事例は成人老人、母性、小児、在宅、精神など専門領域の事例とし、演習形式で行う。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2～9 グループワーク
- 10～16 発表（課題事例のアセスメントの発表および看護技術のロールプレイ）
レポート作成

【評価方法】

出席状況、作成した資料のアセスメント内容、発表、討論への参加度、レポートにより評価する

【テキスト】

【その他】

単位は原書講読とあわせ、看護研究の基礎Ⅱとする。

2 健康科学実験

1 健康科学実験のねらい

基本的な実験演習や測定を通して、人の身体、健康に関係した事項や人間をとりまく自然環境に関する基本的な現象を体得し、理解を深める。基本的な 10 項目について生体科学、生体反応学、環境保健学および健康運動学の講義・演習などで学んだことを中心に実験テーマを設定し、8 つのグループでローテーションをしながら実験を行う。

2 実験日程および場所

開講年次：2 年次

日 時：後期 10 月 3 日～1 月 22 日（月・水 第 3～5 時限）
（12 月 5 日からは、火 3～ 5 時限も実施）

※詳細な日程は、別途配布される健康科学実験テキストを参照してください。

場 所：第 1 実験室、第 2 実験室、健康増進室など

3 健康科学実習の担当科目群

生体科学（下田 浩、安部 眞佐子、岩崎 香子）

生体反応学（市瀬 孝道、吉田 成一、定金 香里）

環境保健学（甲斐 倫明、小嶋 光明、小野 孝二）

健康運動学（稲垣 敦）

4 単位

1 単位

評価方法：すべての実験に出席することを必要とする。実験中の態度、提出課題を総合して評価する。

5 実験の概要

実験テーマ	実 験 内 容	科目群担当
組織学実習	顕微鏡を用いて生体組織の微細構造を観察し、その組織特有の構造と機能の関連性について理解を深める。さらにその構造が破綻した場合の組織機能異常についても考察する。	生体科学
心電図	1. 心電図の成り立ちを学ぶ。 2. 12 誘導心電図の取り方を学ぶ。 3. 四肢誘導心電図より心拍数の計測を学ぶ。 4. 四肢誘導心電図より QRS 時間、PQ 時間、QTc 時間の計測を学ぶ。 5. 四肢誘導心電図より電気軸の計測を学ぶ	

実験テーマ	実 験 内 容	科目群担当
血液生化学 実習	血清中の成分を測定し、正常値を知り、また、身体の状態によりどのように変動するかを観察する。 測定項目：1. 血清酵素活性の測定 2. 血清タンパク質の分離 3. 血糖値の測定	生体科学
血液検査	貧血や感染症の検査としてごく一般的に行われている赤・白血球数の測定、ヘマトクリット値の測定、CRP 検査を行う。また、より血球系への理解を深めるために赤血球、白血球（末梢血球および組織球）の形態観察を行う。	生体反応学
基礎微生物 学実験	細菌の培養、定量、同定、各種抗生物質に対する感受性試験などの実験を通じて、身の回りの微生物の理解を深める。実験では落下菌や常在細菌等を培養、染色して、顕微鏡観察等によって細菌の定量、同定を行う。	
ラットの解 剖	人体の構造を知るための実験として、ヒトと同じ哺乳類であるラットを解剖し、臓器の形、位置関係、色、大きさ等を観察・測定すると共に、生きた臓器の感触を実際に触れて理解する。	
放射線	1. バックグラウンド放射線の測定を行い、日常的に放射線を受けていることを理解する。 2. 室内の浮遊粉塵の放射能を計測することにより、空気中のラドンとその娘核種の存在について知る。 3. 移動型 X 線装置を用いて、X 線の発生原理や特性について理解する。同時に、装置周辺の線量率を測定し、患者を介助する看護師の被ばくについて考察する。	環境保健学
空気と水	1. 臭袋法による嗅覚試験を通して、室内空気汚染の現状について学ぶ。 2. 水道水中の残留塩素の測定と、水道水とミネラルウォーターの味の比較試験を通して、水質基準について考察する。	
染色体異常	1. X線を照射した末梢血リンパ球の染色体標本を検鏡し、正常および異常な染色体像を観察する。 2. ダウン症候群の患者の分裂中期像について核型分析を行い、染色体の数的異常について学ぶ。 3. 慢性骨髄性白血病における染色体異常を観察し、染色体の構造的異常とそれに伴う遺伝子再配列について学ぶ。	
最大下負荷 による呼吸 循環器系持 久力の測定	運動処方基礎として、自転車エルゴメーターを用いた最大下負荷法で、呼吸循環器系持久力を評価する。検者と被験者の両方を体験する。グラフを作成し、最大酸素摂取量を計算して自己評価し、レポートにまとめる。	健康運動学

3 看護学実習

1 看護学実習のねらい

看護は生きている人間そのものに関わり、人間関係の相互作用を基盤にして繰り広げられる援助のプロセスである。看護は理論として学ぶだけでなく、実体験に基づいた学習を行うことが重要であり、看護学実習を行うことで理論と実践が統合することを実感し、総合的に看護が行えるようになる。看護学実習は、家庭、施設、地域などの幅広い領域において、人々の多様な健康ニーズに貢献することができる看護者を養成するための、重要な学習の機会である。

本学では4年間の看護学実習を通して以下のことをねらいとする。

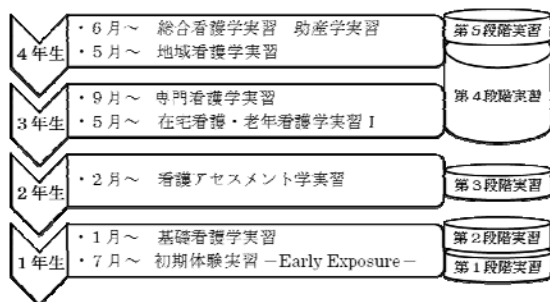
- (1) 個々の対象を尊重しながら、主体的に発展的な人間関係を築くよう努め、対象を総合的に理解する能力を養う。
- (2) 個々の対象の健康レベルやライフステージにおける心身の状態や生活を理解し、その対象に応じた適切な看護を科学的な判断に基づいて実践する能力を養う。
- (3) 保健・医療・福祉分野における関連職種の役割や活動を理解し、他職種との連携や社会資源の活用を通して看護専門職の役割を考える。

看護学実習は、4年間を通して段階に分けられ、学習レベルに応じた実習を段階的に順次行っていくよう組み立ててある。実習では、その時期の講義との関連性を認識しながら、さらに次の段階への講義・実習にも結びつけていけるよう、自主的・積極的に取り組むことが求められる。

現行カリキュラム（4年生）



平成21年度改正カリキュラム（2年生、3年生）



平成23年度改正カリキュラム（1年生）



2 今年度の実習日程

	学年次	実習段階	実習科目	実習期間
(H23 年改正カリキュラム)	1 年次	第 1 段階	初期体験実習	平成 23 年 7 月 5 日(火)～7 月 12 日(火)
	1 年次	第 2 段階	基礎看護学実習	平成 24 年 1 月 10 日(火)～1 月 24 日(火)
(H21 年改正カリキュラム)	2 年次	第 3 段階	看護アセスメント学実習	平成 24 年 1 月 30 日(月)～2 月 15 日(水)
	3 年次	第 4 段階	老年 I 看護学実習 在宅 I 看護学実習	平成 23 年 5 月 30 日(月)～6 月 3 日(金) 平成 23 年 6 月 6 日(月)～6 月 10 日(金)
	3 年次	第 4 段階	成人・老年 II 看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習	平成 23 年 9 月 5 日(月)～11 月 25 日(金)
(H21 以前入学生, H21,22 編入生)	4 年次	第 4 段階	地域看護学実習 老年看護学実習 II	平成 23 年 5 月 9 日(月)～6 月 17 日(金) 平成 23 年 5 月 9 日(月)～5 月 20 日(金)
		第 5 段階	総合実習	平成 23 年 6 月 20 日(月)～7 月 1 日(金)
		選択	助産学実習	平成 23 年 6 月 20 日(月)～7 月 29 日(金) 平成 23 年 8 月 22 日(月)～9 月 2 日(金)

第 2 段階以降の実習履修に際しては下表の要件を充たす必要がある。

実習段階	修得済あるいは修得見込であることが必要な科目
(平成 23 年度改正カリキュラム) 第 2 段階実習	看護学概論, 生活援助論(生活過程、生命維持), 第1段階実習
(平成 21 年度改正カリキュラム) 第 3 段階実習	看護理論入門, 医療技術論, 看護疾病病態論 I・II, ヘルスアセスメント, 看護アセスメント概論, 看護アセスメント演習, 第 2 段階実習
(平成 21 年度改正カリキュラム) 第 4 段階実習	第 3 段階実習, および当該実習に関連するすべての専門科目、基礎看護技術演習(第1段階技術チェック)
(現行カリキュラム) 第 5 段階実習	第 4 段階実習
助産学実習	第 4 段階実習、助産学概論、助産診断・技術学 I・II・III・IV

※助産学実習は、選考 (H24 年度まで実施) により許可されたものだけが履修できます (p23 参照)。

なお、留年学生が実習を履修する場合は、当該実習開始までに、以下の科目を再度学習しなおさなければ実習することはできない。

- 1) 基礎看護学実習
 - ・生活援助論 (生活過程、生命維持)
 - ・看護理論入門
- 2) 看護アセスメント学実習
 - ・看護アセスメント概論
 - ・看護アセスメント演習

3) 第4段階実習

- ・成人・老年看護学演習
- ・小児看護学演習
- ・母性看護学演習
- ・精神看護学演習
- ・地域生活支援論（3年次を留年した場合）
- ・地域生活援助論Ⅱ（4年次を留年した場合）

3 評価方法

実習内容、出席日数、実習態度およびレポートなどにより評価する。出席日数は100%出席することを原則とする。

4 3年次における第4段階実習の単位認定について

- 1) 3年次に行われる老年実習Ⅰ・在宅実習Ⅰは同施設で連続して行うものであり、どちらかの単位が修得できない場合は、両方の実習単位は認めないこととする。したがって、次年度は老年実習Ⅰ・在宅実習Ⅰの実習を履修しなければならない。
- 2) 3年次に行われる成人看護学実習、老年看護学実習Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習の5領域のうち、1つ以上の領域で単位が修得できない場合は、5領域すべての実習単位は認めないこととする。したがって、次年度は5領域すべての実習を履修しなければならない。

5 看護学実習の概要

	実習科目	実習のねらい	実習場所
第1段階	初期体験実習 Early Exposure	看護が実践されている保健・医療・福祉の場として、事業所、検診センター、病院、老人保健施設等を選び、それぞれの領域における看護の役割および実社会で生活している人々の健康状態、健康ニーズを理解する。	事業所 検診センター 福祉センター 病院、学校 老人保健施設等
第2段階	基礎看護学実習	健康障害を持ち入院している患者の療養環境や健康状態、心理状態を知り、患者の日常生活上の基本的ニーズに基づいた生活援助が実践できる。	大分県立病院 大分赤十字病院 大分市医師会立アルメイダ病院
第3段階	看護アセスメント学実習	対象者の身体面、心理面、社会面の状態を総合的に捉え、看護診断を明らかにし、看護過程を展開する基礎的能力を習得する。	大分県立病院 大分赤十字病院 大分市医師会立アルメイダ病院
第4段階	老年Ⅰ・在宅Ⅰ看護学実習	施設に入所している高齢者の生活の理解と、生活の維持・向上をめざした援助を通して老年看護の専門性と役割を学ぶとともに、デイケア・デイサービスを利用する地域高齢者との関わりを通して健康レベルおよびニーズを理解する。	介護老人福祉施設 介護老人保健施設
	成人看護学実習	成人期の対象を身体的、心理的、社会的、精神的側面から総合的に理解し、健康問題に応じた適切な看護を実践できる。	大分県立病院 大分市医師会立アルメイダ病院
	老年看護学実習Ⅱ	老年期の特性をふまえ、健康障害と「生活の質」との両面から個別性を尊重した看護を実践できる能力を養うとともに老年看護の基本的態度を学ぶ。	大分県立病院 大分市医師会立アルメイダ病院
	小児看護学実習	健康児の発達段階における特徴や個人差を考慮した日常生活への援助方法を通して保育の役割を学ぶ。健康障害のある小児の療養生活における看護上の問題に対する援助活動を通して、小児と家族への看護の役割を学ぶ。	保育所 大分県立病院 別府発達医療センター
	母性看護学実習	ウェルネスの視点で妊娠・分娩・産褥各期の母体と胎児または新生児の生理的変化や心理・社会的特徴を理解し、母子及びその家族のセルフケア能力や親役割獲得などの援助を学ぶ。生命誕生に関わる母性看護領域における看護職の役割について考え、生命の尊厳について認識を深める。	大分県立病院 堀永産婦人科医院
	精神看護学実習	対象者の精神的健康に焦点を当てた看護をするために、対象者の人となりの全体的な理解、自己理解、および対象者と自分の相互関係の理解について、実践的に学ぶ。多職種との協働による精神科医療および地域における精神保健医療についての理解を深める。	大分丘の上病院
	地域看護学実習	地域看護の対象となる個人、家族、社会集団への看護活動を通して、保健・医療・福祉システムの現状および地域看護のあり方を学ぶ。	保健所 市町村 訪問看護ステーション
	老年看護学実習Ⅱ (H21以前入学生カリキュラム)	施設に入所している高齢者の生活の支援を通して、対象を理解し、保健・医療・福祉分野における看護専門職の役割と課題を学ぶ。	介護老人福祉施設 介護老人保健施設
第5段階	総合実習	第1段階～第4段階までの看護学実習の体験から自らが希望する領域を選択し、その分野での看護を通して、専門職としての自覚を高める。	学生の希望する大分県下の約40施設
選択	助産学実習	人間尊重の基本理念に基づき助産の診断及び技術を用いて助産を実践し、それによって母子とその家族を受け持ち健康的な生活を営むうえで必要な援助を行う能力を養う。加えて助産の現状と課題をふまえて助産師の専門性を深める実践能力を探究することをねらいとする。	大分県立病院 別府医療センター 堀永産婦人科医院 くまがい産婦人科 生野助産院 わたなべ助産院

看護技術修得プログラム(統合科目)

2004(平成16)年3月に文部科学省から「看護学教育の在り方に関する検討会」の報告書が、さらに、2008(平成19)年4月には厚生労働省から「看護基礎教育の充実に関する検討会」の報告書が出され、大学において、看護専門職者として生涯にわたり専門性を深めていくための基礎能力を確実に培うこと、また、国家資格を有した看護職者として修得しなければならない基本的な看護実践能力について、卒業時の到達目標が示された。

ねらい

最終の卒業時には全員が、看護実践の基本的能力として幅広い視野から人間と人間生活を理解し、確実な倫理観をもって行動する態度と姿勢を身につけること、さらに、自己研鑽しながら看護実践能力を高めていく姿勢をもつことをねらいとしている。

目的

確かな専門性と豊かな人間性を兼ね備えた資質の高い看護実践を実施できるための知識・技術、および判断能力を身につける。

構成

<第1段階>基礎看護技術演習(第4段階実習前の看護技術チェック)

目的:対象への安全・安楽に配慮した看護基本技術の実践能力を身に付ける。

具体的には以下の4点を習得することが目的である。

- 1) 日常生活援助技術は、1人で確実に実施できる
- 2) 患者の安全・安楽を保障する技術は確実に実践でき、リスクの判断ができる
- 3) 単に技術のhow-toだけではなく、技術の根拠・方法の選択など判断能力を養う
- 4) 患者への配慮を実践に反映できる

時期:3年生7月~9月(第4段階実習前 チェック日は原則として9月1週目)

<第2段階>総合看護学演習

目的:基礎看護教育の総まとめとして、人間科学講座の専門基礎科目と看護の専門科目で学んだ知識・理論を有機的に統合し、看護過程を展開、適切なアセスメント能力および看護技術を提供できる能力を養う。

時期:4年生 10月~11月(後期前半)

<第3段階>総合看護技術演習

目的:看護基本技術のうち日常必須の技術であるにもかかわらず、習得度が低い項目について、正確な知識、冷静な状況判断に基づいた的確な実践能力を養い、卒後への自信を深める。

時期:後期後半

第1段階 (3年7月~)	第2段階 (4年10月~)	第3段階 (4年後期)
・安全・安楽な日常生活援助技術の実施	・専門基礎科目との統合 看護過程と看護技術の展開	・看護職として日常必須の看護技術の習得

※ 平成23年度入学生からは、2年次から開始となり、4段階のプログラムとなります。

V 教員一覧

教員一覧について

※顔写真、教育・研究活動、プライベート、学生へのメッセージといった内容が記載されている詳細な教員プロフィールは、本学ホームページの学生のページ（学内専用）ならびにコミュニケーションサーバ **nekobus** 上に掲載されています。

※オフィスアワーの事前アポイントが「**必要**」となっている教員については、事前にメールで日時を打ち合わせてから研究室を訪問するようにしてください。

理事長, 学長

			内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	草間 朋子 (くさま ともこ)	保健管理学 教授 <i>kusama@oita-nhs.ac.jp</i>	4310	必要

人間科学講座

[科目群名] 生体科学			内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	下田 浩 (しもだ ひろし)	就職支援委員会 <i>shimoda@oita-nhs.ac.jp</i>	4425	不要
准教授	安部 眞佐子 (あべ まさこ)	<i>abem@oita-nhs.ac.jp</i>	4426	必要
助教	岩崎 香子 (いわさき よしこ)	<i>iwasaki@oita-nhs.ac.jp</i>	4427	必要

[科目群名] 生体反応学			内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	市瀬 孝道 (いちのせ たかみち)	学部長, 理事 <i>ichinose@oita-nhs.ac.jp</i>	4430	不要
准教授	吉田 成一 (よしだ せいいち)	<i>syoshida@oita-nhs.ac.jp</i>	4431	不要
助教	定金 香里 (さだかね かおり)	<i>sadakane@oita-nhs.ac.jp</i>	4432	必要

[科目群名] 健康運動学			内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	稲垣 敦 (いながき あつし)	<i>inagaki@oita-nhs.ac.jp</i>	4485	不要

[科目群名] 人間関係学		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
准教授	吉村 匠平 (よしむら しょうへい) <i>yoshimura@oita-nhs.ac.jp</i>	4475	不要
准教授	関根 剛 (せきね つよし) 学生生活支援委員会 <i>sekine@oita-nhs.ac.jp</i>	4476	不要
助手	佐藤 みつよ (さとう みつよ) <i>satom@oita-nhs.ac.jp</i>	4477	不要
[科目群名] 環境保健学		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	甲斐 倫明 (かい みちあき) 研究科長, 理事 <i>kai@oita-nhs.ac.jp</i>	4435	必要
講師	小嶋 光明 (おじま みつあき) 就職支援委員会 <i>ojima@oita-nhs.ac.jp</i>	4437	不要
助教	小野 孝二 (おの こうじ) <i>kojiono@oita-nhs.ac.jp</i>	4436	不要
[科目群名] 健康情報科学		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	佐伯 圭一郎 (さいき けいいちろう) <i>saiki@oita-nhs.ac.jp</i>	4410	不要
講師	品川 佳満 (しながわ よしみつ) <i>shinagawa@oita-nhs.ac.jp</i>	4412	必要
助教	坂口 隆之 (さかぐち たかゆき) <i>sakaguchi@oita-nhs.ac.jp</i>	4473	必要
[科目群名] 言語学		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	Gerald Thomas Shirley (ジェラルド トーマス シャーリー) <i>shirley@oita-nhs.ac.jp</i>	4481	不要
准教授	宮内 信治 (みやうち しんじ) 学生生活支援委員会 <i>miyauchi@oita-nhs.ac.jp</i>	4480	必要
助手	田原 歩 (たはら あゆみ) <i>atahara@oita-nhs.ac.jp</i>	2454	不要

基礎看護科学講座

[科目群名] 基礎看護学		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	志賀 壽美代 (しが すみよ) <i>shiga@oita-nhs.ac.jp</i>	4471	不要
准教授	伊東 朋子 (いとう ともこ) 国家試験対策担当 <i>ito@oita-nhs.ac.jp</i>	4470	必要
講師	秦 さと子 (しん さとこ) 就職支援委員会 <i>sshin@oita-nhs.ac.jp</i>	4472	必要
助手	栗林 好子 (くりばやし よしこ) <i>kuribayashi@oita-nhs.ac.jp</i>	4472	不要
助手	福元 幸志 (ふくもと こうし) <i>fukumoto@oita-nhs.ac.jp</i>	4472	不要
助手	佐藤 秋子 (さとう あきこ) <i>satoakiko@oita-nhs.ac.jp</i>	4472	不要

[科目群名] 看護アセスメント学		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	藤内 美保 (とうない みほ) <i>tonai@oita-nhs.ac.jp</i>	4466	必要
准教授	石田 佳代子 (いしだ かよこ) <i>ishida@oita-nhs.ac.jp</i>	4465	不要
助教	河野 梢子 (かわの しょうこ) 学生生活支援委員会 <i>kawano@oita-nhs.ac.jp</i>	4467	不要
助手	田中 佳子 (たなか けいこ) <i>ktanaka@oita-nhs.ac.jp</i>	4467	不要

専門看護学講座

[科目群名] 成人・老年看護学				内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	小野 美喜	(おの みき)	<i>ono@oita-nhs.ac.jp</i>	4461	必要
准教授	福田 広美	(ふくだ ひろみ)	<i>fukuda@oita-nhs.ac.jp</i>	4462	必要
講師	松本 初美	(まつもと はつみ)	<i>matsumoto@oita-nhs.ac.jp</i>	4460	不要
					就職支援委員会
助教	井伊 暢美	(いい まさみ)	<i>ii@oita-nhs.ac.jp</i>	4463	不要
助教	江月 優子	(えづき ゆうこ)	<i>eduki@oita-nhs.ac.jp</i>	4463	不要
助手	津留 英里佳	(つる えりか)	<i>tsuru@oita-nhs.ac.jp</i>	4463	不要
[科目群名] 小児看護学				内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	高野 政子	(たかの まさこ)	<i>takano@oita-nhs.ac.jp</i>	4420	不要
講師	小代 仁美	(おじろ ひとみ)	<i>ojiro@oita-nhs.ac.jp</i>	4421	不要
助手	薬師寺 綾	(やくしじ あや)	<i>yakushiji@oita-nhs.ac.jp</i>	4422	不要

[科目群名] 母性看護学			内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	林 猪都子	(はやし いとこ) <i>hayashi@oita-nhs.ac.jp</i>	学生生活支援委員会 4405	必要
講師	猪俣 理恵	(いのまた りえ) <i>inomata@oita-nhs.ac.jp</i>	学生生活支援委員会 就職支援委員会 4408	不要
助手	安東 照美	(あんどう てるみ) <i>andot@oita-nhs.ac.jp</i>	4402	不要

[科目群名] 助産学			内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
准教授	梅野 貴恵	(うめの よしえ) <i>umeno@oita-nhs.ac.jp</i>	4406	不要
講師	関屋 伸子	(せきや のぶこ) <i>sekiya@oita-nhs.ac.jp</i>	4407	必要
助教	樋口 幸	(ひぐち さち) <i>higuchi@oita-nhs.ac.jp</i>	4404	不要
助手	石岡 洋子	(いしおか ようこ) <i>ishioka@oita-nhs.ac.jp</i>	4403	不要

[科目群名] 精神看護学			内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	影山 隆之	(かげやま たかゆき) <i>kageyama@oita-nhs.ac.jp</i>	4416	不要
准教授	大賀 淳子	(おおが じゅんこ) <i>oga@oita-nhs.ac.jp</i>	4417	必要
助手	津隈 亜弥子	(つぐま あやこ) <i>tsuguma@oita-nhs.ac.jp</i>	4415	不要

広域看護学講座

[科目群名] 保健管理学		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	桜井 礼子 (さくらい れいこ) <i>sakurai@oita-nhs.ac.jp</i>	4451	不要
准教授	平野 亙 (ひらの わたる) <i>hirano@oita-nhs.ac.jp</i>	4450	必要
助手	井ノ口 明美 (いのくち あけみ) <i>inokuchi@oita-nhs.ac.jp</i>	4452	不要
[科目群名] 地域看護学		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
准教授	江藤 真紀 (えとう まき) <i>meto@oita-nhs.ac.jp</i>	4456	不要
講師	赤星 琴美 (あかほし ことみ) <i>akahoshi@oita-nhs.ac.jp</i>	4455	不要
助教	高波 利恵 (たかなみ りえ) <i>takanami@oita-nhs.ac.jp</i>	4457	必要
助手	堀 裕子 (ほり ひろこ) <i>horih@oita-nhs.ac.jp</i>	4457	不要
[科目群名] 国際看護学		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
教授	李 笑雨 (Lee So Woo) <i>lee@oita-nhs.ac.jp</i>	4440	不要
助教	桑野 紀子 (くわの のりこ) <i>kuwano@oita-nhs.ac.jp</i>	4487	不要

看護研究交流センター

		内線 番号	オフィスアワー 事前アポイント
主任教員 佐藤 弥生 (さとう やよい)	訪問看護認定看護師 教育課程	4346	不要
<i>satoyayoi@oita-nhs.ac.jp</i>			

平成 23 年度非常勤講師一覧

氏 名	担 当 科 目	開講時期	現 職
日高 貢一郎	言語表現法	1年次 前期・前半	大分大学 教育福祉科学部 教授
劉 美貞	韓国語	1年次 前期 3年次 前期	大分県立芸術文化短期大学・大分大学 韓国語担当 非常勤講師
西 英久	哲学入門	1年次 前期・後半	大分大学 医学部 教授
大杉 至	社会学入門	1年次 後期・前半	大分大学 教育福祉科学部 教授
二宮 孝富	法学入門(日本国憲法)	1年次 後期・前半	元 大分大学 経済学部 教授
足立 恵理	文化人類学入門	1年次 後期・前半	特定非営利活動法人 国際理解教育センター 運営委員・研究員
西園 晃	微生物免疫論	1年次 後期	大分大学 医学部 教授
宮本 修	音楽とこころ	2年次 前期	大分県立芸術文化短期大学 教授
澤田 佳孝	美術とこころ	2年次 前期	大分県立芸術文化短期大学 教授
吉河 康二	看護と遺伝	2年次 前期・後半	国立病院機構別府医療センター 臨床検査部長
福元 満治	保健医療ボランティア論	2年次 前期・後半	図書出版 石風社 社長
谷口 一郎	母性生理・病態論	2年次 前期・後半 ～後期	大分県地域保健医療センター 参与
肥田木 孜	母性生理・病態論	2年次 前期・後半 ～後期	大分臨床検査技師専門学校 校長
堀永 孚郎	母性生理・病態論	2年次 前期・後半 ～後期	堀永産婦人科医院 院長
宇津宮 隆史	母性生理・病態論 助産診断・技術学Ⅲ	2年次 前期・後半 ～後期 3年次 前期・後期	セント・ルカ産婦人科医院 院長
上野 桂子	母性生理・病態論	2年次 前期・後半 ～後期	セント・ルカ産婦人科医院 臨床心理士
西田 欣広	母性生理・病態論	2年次 前期・後半 ～後期	大分大学医学部産婦人科 学内講師
佐藤 昌司	母性生理・病態論 助産診断・技術学Ⅰ・Ⅲ	2年次 前期・後半 ～後期 3年次 前期・後期	大分県立病院総合周産期 母子医療センター 所長
戸高 佐枝子	母性看護援助論Ⅰ	2年次 後期	サエラ助産院 院長
飯田 浩一	助産診断・技術学Ⅲ	3年次 前期・後期	大分県立病院総合周産期 母子医療センター 新生児科部長
後藤 清美	助産診断・技術学Ⅲ	3年次 前期・後期	大分県立病院総合周産期 母子医療センター 産科部 副部長
豊福 一輝	助産診断・技術学Ⅲ	3年次 前期・後期	大分県立病院がんセンター 第一婦人科部長
嶺 真一郎	助産診断・技術学Ⅲ	3年次 前期・後期	大分県立病院婦人科部 副部長
中村 聡	助産診断・技術学Ⅲ	3年次 前期・後期	大分県立病院がんセンター 第二婦人科部長
宮崎 文子	地域助産活動論	4年次 後期・前半	東京医療保健大学 教授

